

渡邊先
生遺稿

新裁縫教科書

卷之三

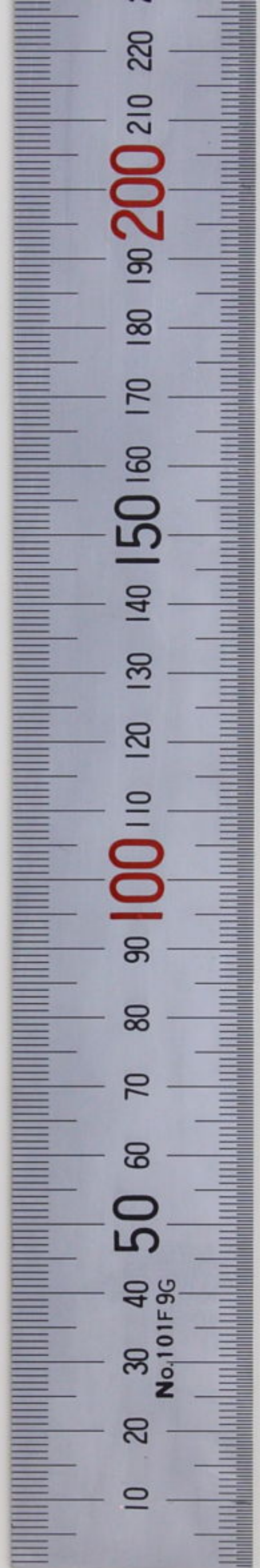
11

東京裁縫
女學校圖
書參考品



558

圖書號
73



© Kodak, 2007 TM: Kodak

故東京裁縫
女學校ニ長

渡邊辰五郎先生遺稿

新裁縫教科書

東京裁縫女學校出版部

渡邊先生遺稿 新裁縫教科書卷之三

目次

十徳の裁方	一
一尺幅の布にて十徳の裁方	一
一尺三寸幅の布にて十徳の裁方	二
一尺六寸幅の布にて十徳の裁方	二
一尺八寸幅の布にて十徳の裁方	三
十徳の種類	三
利久流十徳を仕立つる寸法	三
古織部流十徳を仕立つる寸法	三
有樂流十徳を仕立つる寸法	四



一尺五寸幅の布にて布衣信の裁方.....六

一尺三寸幅の布にて布衣信の裁方.....六

布衣信の裁方.....六

布衣信の稜の取方.....八

布衣信を仕立つる寸法.....九

同上縫方.....九

どてらを仕立つる寸法及縫方.....二

小夜着を仕立つる寸法.....二

中夜着を仕立つる寸法.....三

大夜着を仕立つる寸法.....三

三布蒲團を仕立つる寸法.....三

四布蒲團を仕立つる寸法.....三

五布蒲團を仕立つる寸法.....三

鏡蒲團の仕立方.....三

三丈の布を以て大夜着の表裁方.....三

五丈二寸の布を以て大夜着の裏裁方.....四

表地三丈の布を以て大夜着を作らんとす其裏地用布の積方.....五

潤袖表の裁方及積方.....五

表地二丈七尺にて潤袖を裁ち身丈四尺八寸となさんとす其裏地の積方.....五

縮夜着の裁方及積方.....六

脊入夜着の裁方及積方.....六

脊入夜着の裏地積方.....八

蒲團の積方 一八

夜着の縫方 一八

同綿の入方 二〇

同紵方 二〇

蒲團の縫方 二二

同綿の入方 二二

男袷合羽表の裁方 二二

袷合羽裏地の積方 二三

男單合羽の裁方 二三

男合羽を仕立つる寸法 二四

同單の縫方 二五

男袷合羽の縫方 二六

風合羽の裁方 三三

寢冷不知の裁方 三三

大人男西洋寢間着の裁方 三三

同縫方 三三

二三歳の紐付寢冷不知の裁方 三四

五六歳寢衣の裁方 三五

裁縫の種類 三五

シャツ及油篋類 三七

ヅボン下 三八

ヅボン 三八

コート 三八

婦人洋服下着 三九

婦人洋服……………三九
 股引、足袋及腹懸……………三九
 頭巾及帽子……………四〇
 二尺幅の布にて女服の裁方……………四〇
 一尺七寸五分の布にて女服無垢上着一枚下着廻無垢一枚の裁方及積方……………四〇
 女服無垢上着の裁方……………四一
 女服廻り無垢比翼の積方……………四二
 幅二尺八寸五分の布にて女服一枚四つ身三枚の裁方……………四二
 幅二尺七寸の布にて一つ身三枚七八歳のシャツ一枚の裁方……………四四
 幅一尺三寸の布にて女服一枚三つ身一枚の裁方……………四五

幅一尺六寸の布にて女服無垢の裁方……………四七
 幅二尺七寸の布にて着物表三枚の裁方及積方……………四七
 幅一尺八寸の布にて女服表の裁方……………四七
 幅一尺六寸の布にて女服の裁方……………四九
 幅一尺八寸の布にて女服上着無垢一枚下着廻り無垢二枚の裁方……………四九
 幅三尺七寸五分の布にて女服上着無垢一枚下着廻り無垢二枚の裁方……………五〇
 一尺七寸幅にて女服上着無垢一枚下着廻り無垢二枚の裁方……………五一
 同上幅にて比翼廻り無垢の裁方……………五一
 一尺一寸幅にて女服上着一枚下着廻り一枚の裁方……………五三

一尺七寸幅にて女服上着無垢一枚下着比翼廻り無垢の裁方……………五三

一尺一寸幅にて女服上着一枚下着廻り一枚の裁方……………五三

一尺三寸幅にて無垢廻りの裁方……………五三

子供着物揚の仕方……………五三

一ヤード幅にて七八歳の西洋前掛の裁方……………五三

同上幅にて四五才の西洋前掛の裁方(一)……………五三

同上(二)……………五三

同上幅にて五六歳の幼稚園前掛の裁方……………五三

同上幅にて料理用前掛の裁方(一)……………五三

同上(二)……………五三

同上(三)……………五三

同上(四)……………六四

子供西洋前掛の縫方……………六四

料理用前掛の縫方……………七〇

五六歳の西洋前掛の裁方……………七五

大人女西洋前掛の裁方……………七五

中裁股引表の裁方(一)……………七六

同上(二)……………七六

裕股引の裁方……………七六

裕股引の縫方……………七六

女股引の地質……………八〇

女股引の寸法取方……………八〇

幅二尺の布にて女股引の裁方及積方……………八〇

女單股引の縫方	八二
足袋	八三
蚊帳の刺方	八六
平袴の裁方	八八
平袴を襠高袴に直す法	八九
衤衤	九〇
衤衤	九〇
衤を仕立つる種類	九〇
幅一尺一寸の布にて衤衤の裁方	九二
同上幅にて衤の裁方及積方	九二
肩衣の縫方	九二
衤の刺方	九四
丸形肩衣の裁方	九五

十歳位の肩衣の裁方	九六
五六歳の肩衣の裁方	九六
眞一文字の裁方(義太夫語用)	九六
義太夫語の肩衣の仕立方	九九
小袴の裁方	一〇〇
小袴の脚衤の裁方	一〇一
刺貫袴の裁方	一〇一
紐別切の刺貫袴の裁方	一〇三
京都の刺貫袴の裁方	一〇三
六七歳縛り袴の裁方	一〇四
同上裏の裁方	一〇四
大人縛り袴の裁方	一〇五

野袴表の裁方	一〇五
細袴の裁方	一〇八
義經袴の裁方	一〇八
七つ子裁附袴の裁方	一一〇
幅二尺の布にし七つ子裁附袴の裁方	一一一
大人裁附袴の裁方	一一二
シヤモ裁附袴の裁方	一一二
シヤモ裁附の縫方	一一二
同上稜の取方	一一四
徳川時代十番馬乗袴の裁方	一一六
幅一尺八寸の布にて闕腋の裁方及積方	一一七
袷手甲	一一八

單手甲	一一〇
指附手甲	一一三
手刺	一一四
山附脚絆	一一五
鳥足脚絆	一二九
横地脚絆	一二九
男モツヘイの裁方	一三三
女モツヘイの裁方	一三三
幟を仕立つる寸法	一三四
國旗	一三六
辯護士禮服の裁方	一三八
同上襟の圖	一三九

同上帽子の裁方……………一四二

高等學校教授の禮服の裁方……………一四三

五六歳のドゥロワースの裁方……………一四四

三四歳の下着の裁方……………一五一

五六歳の下着の裁方……………一五二

一二歳の簡單服の裁方……………一五九

襟……………一六六

幅二尺の布にて二三歳の簡單服の裁方……………一六六

裳……………一七四

襟……………一七五

三四歳の女兒洋服の裁方……………一七八

襟及カフスの用布……………一八四

幅二尺の布にて四五歳の簡單服の裁方……………一八六

裳……………一九三

幅三尺の布にて四五歳の女兒洋服の裁方……………一九六

カラーの裁方……………二〇二

裳……………二〇二

帯……………二〇三

目次終

渡邊先生遺稿

新裁縫教科書卷之三

方裁の徳十〇

圖一第

リ	エ		後	前	前	後	袖	袖
子	マ	マ	モ	ク	ク	ソ		
			モ					
			ヒ					

七寸五分 衿肩二寸
 九寸二尺 前丈二尺
 袖口廣袖
 八寸二尺 身丈二尺
 四寸五分 袖丈一尺

算式

$$14,5 \times 4 = 58, \quad 28, \times 6 = 168,$$

$$168, + 58, + 10, = 236, \quad 28, + 4, = 32,$$

衿し前廻及下 用布

$$32, \times 2 = 64, \quad \text{衿丈}$$

方裁の徳十て以を布の尺一幅〇

圖二第

後	前	モ	前	後	袖	袖
ロ	リ	ヒ	ク	ソ	マ	マ
デ	エ			ソ		
ツ				マ		

八寸二尺 袖口二尺
 五寸四分 衿巾四寸
 七寸二尺 前丈二尺
 六寸二尺 後丈二尺
 八寸三寸 袖口三寸
 四寸一尺 袖丈一尺

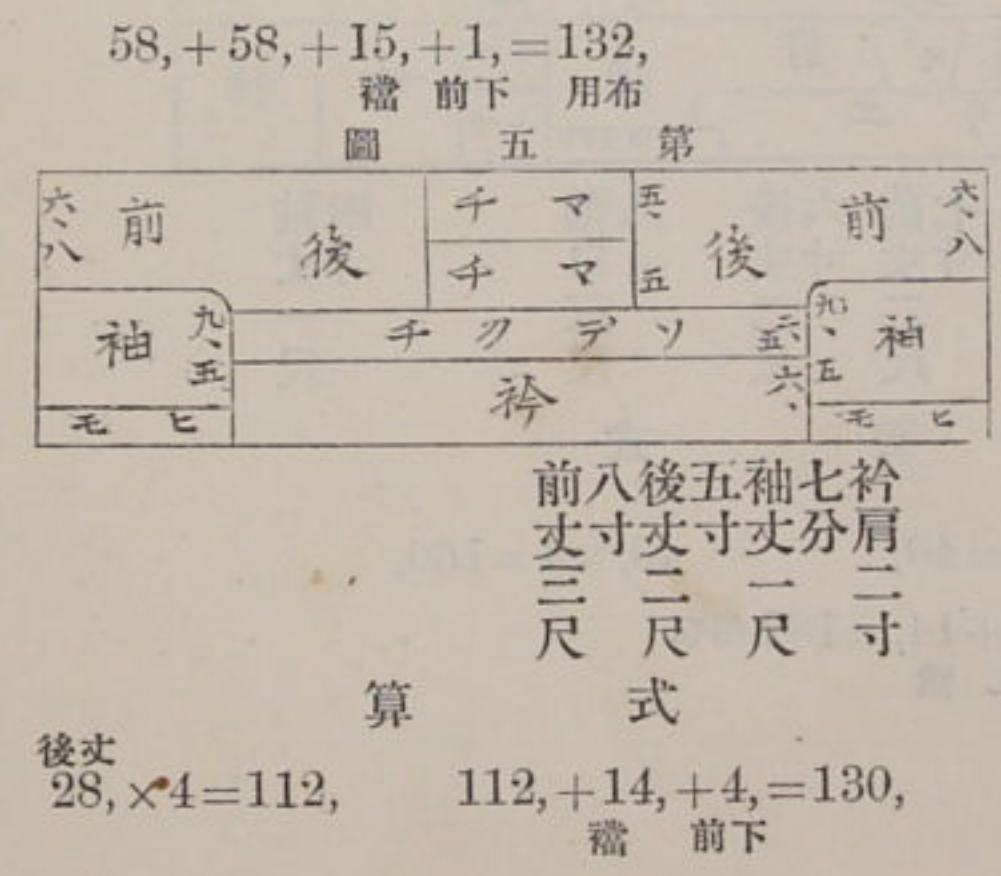
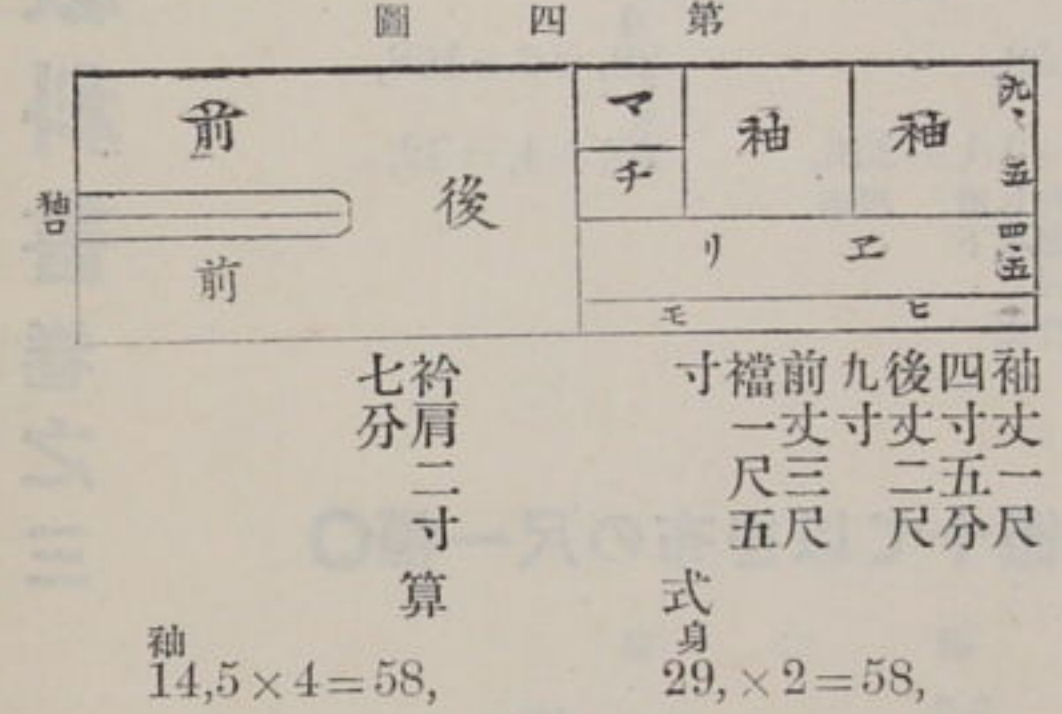
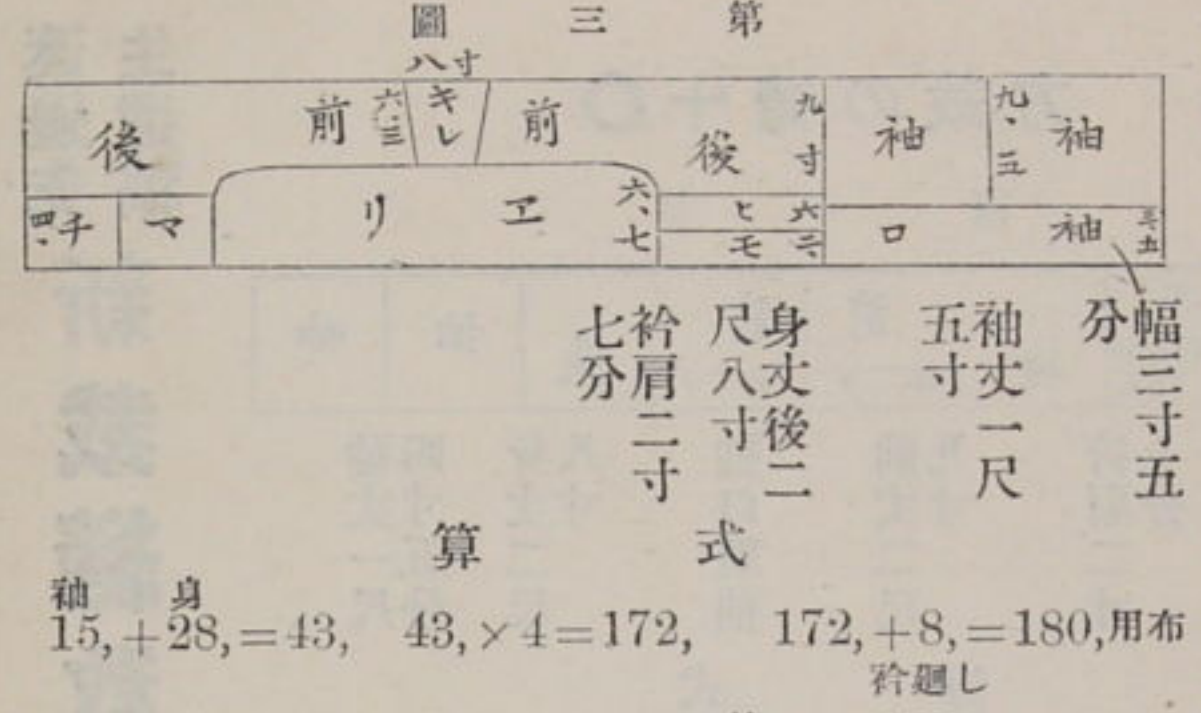
算式

$$14, + 26, = 40, \quad 40, \times 4 = 160,$$

$$160, + 8, + 14, = 182, \text{用布}$$

前衿し襷下廻

○幅一尺三寸の布を以て、十徳の裁方。(第三圖)
 ○幅一尺六寸の布を以て、十徳の裁方。(第四圖)



○幅一尺八寸の布を以て、十徳の裁方。(第五圖)

○十徳の種類

利久流。古織部流。有樂流又は裏古流。

○利久流を仕立つる寸法。

身丈二尺四五寸、前下一寸、後幅八寸、肩幅八寸五分、袖丈一尺四寸、前幅五寸、衿幅一寸五分、紐幅八分、丈八寸、紐付下り肩山より八寸、袖丈一尺四寸、袖口、廣袖、袖幅九寸、襠幅は半幅にて圖の如く稜を取るなり。

但衿肩の明け方と身頃の仕立方とは羽織と同様に、衿と紐との附方は袷纏と同様なり。

○古織部流を仕立つる寸法。

身丈二尺四五寸、後幅八寸、肩幅八寸五分、袖付一尺四寸、

前下一寸、前幅五寸、衿幅二寸、紐付肩山より八寸下る、紐幅八分、丈八寸、袖丈一尺四寸、袖口、廣袖に仕立たる後に袖口明を八寸になし、其残りを袖丈の終りまで白の太白絲にて千鳥にかがり、其絲を一寸袖丈より長く下げ置くなり、襠半幅にて稜を取る事圖の如し、此仕立方羽織と同じ。

○有樂流を仕立つる寸法。

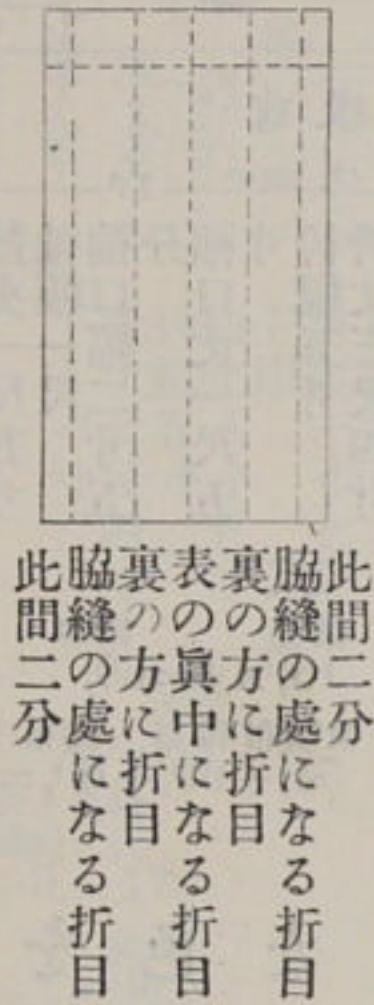
身丈二尺、後幅八寸、肩幅八寸五分、前下五分、袖付一尺四寸、前幅五寸、衿幅一寸二分、紐幅一寸二分、丈一尺六寸、丈小裙三寸五分、紐付肩山より四寸下る、袖丈一尺四寸、袖幅九寸、袖口廣袖に仕立たる後、口明を八寸になして、古織部流の如くかがるなり、襠幅は半幅を又半分に切りて前後別々に付け、稜を取り、裾口より三寸上りし所より袖付止りまでを白の太白

絲にて兩千鳥にかがるなり。

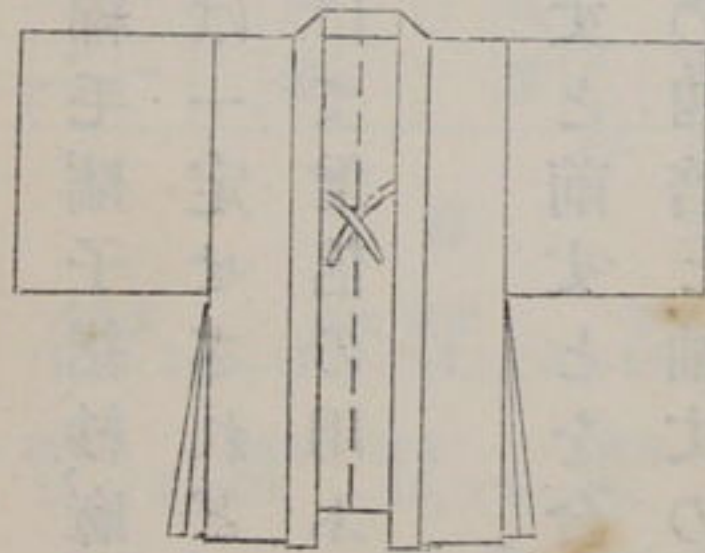
○紐の付方は肩山より四寸下りし所にて紐幅の中央と衿付の縫目を揃へ、紐の紵目を衿幅の山の方に向けて、丈三寸程の間を兩千鳥に太白絲にて結るなり。

縫方。左圖の如く、襠に稜を取るのみ、他は羽織と同じ。

第六圖



利久流を仕立上げるたけ圖



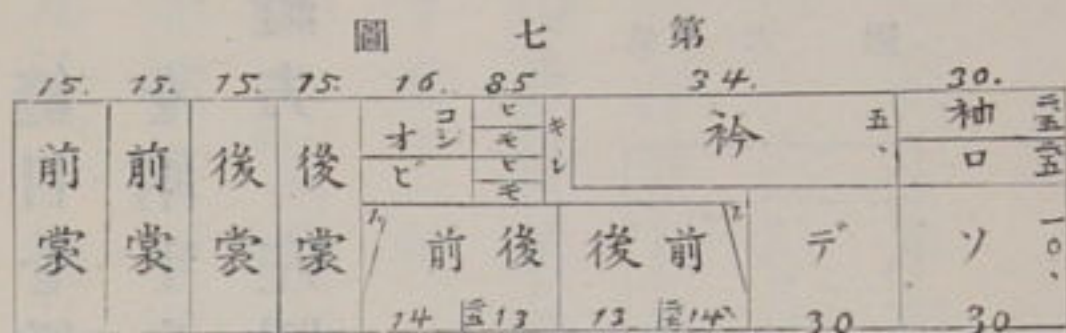
○幅一尺五寸の布を以て、布衣信の裁方。(第七圖)

地質は、木綿、毛襦子、絹、紗、麻、絹布類を用ふ、色は一定せざれど、大概鼠色、黒色等にて僧侶の用ふるものなり。

積方。後丈と前丈とを合せて二倍し、裳丈の四倍と、袖丈の四倍とを身丈に加ふれば、用布を得。

○幅一尺三寸の布を以て、布衣信の裁方。(第八圖)

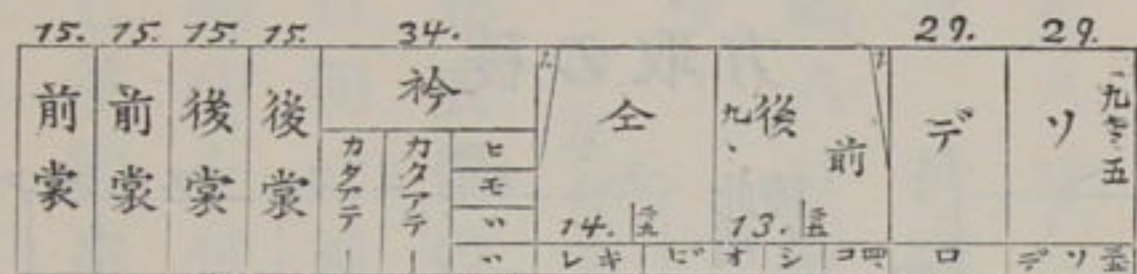
積方。袖丈及裳丈一尺五寸を十倍し、之に紐丈八寸と袖口及帶



裁切寸法
 袖丈一尺五寸
 袖口幅二寸五分
 分袖口丈一尺五分
 寸袖口幅一尺五分
 衿幅三寸五分
 紐丈八寸五分
 紐幅一寸五分
 身幅九寸五分
 後丈一尺四寸
 前丈一尺三寸四分

算式
 後丈 前丈 身頃布 袖丈 袖布
 $(13, + 14,) \times 2 = 54,$ $15, \times 4 = 60,$
 裳丈 裳布 身頃布 袖布 裳布 總用布
 $15, \times 4 = 60,$ $54, + 60, + 60, = 174,$

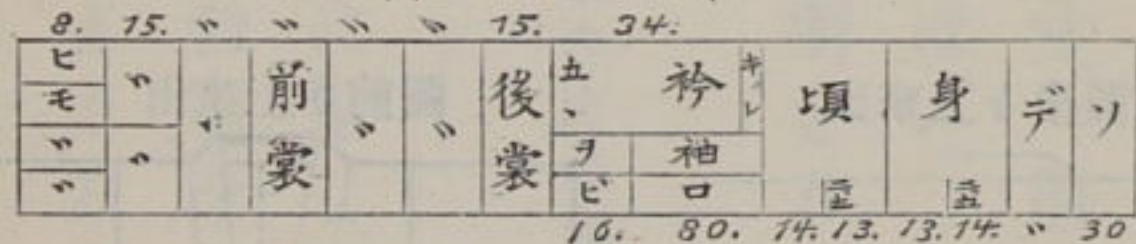
第八圖



裁切寸法
 袖丈一尺九寸五分
 袖口幅一寸四分
 分袖口丈一尺四分
 寸袖口幅一尺四分
 衿幅三寸四分
 紐丈八寸四分
 紐幅一寸四分
 身幅九寸四分
 後丈一尺三寸四分
 前丈一尺三寸四分

算式
 袖丈 袖布 身頃布
 $14,5 \times 4 = 58,$ $(13, + 14,) \times 2 = 54,$
 衿と先縫 衿布
 前丈 肩衿と代 $17, \times 2 = 34,$
 $14, + 3, = 17,$
 裳丈 裳布 總用布
 $15, \times 4 = 60,$ $58, + 54, + 34, + 60, = 206,$

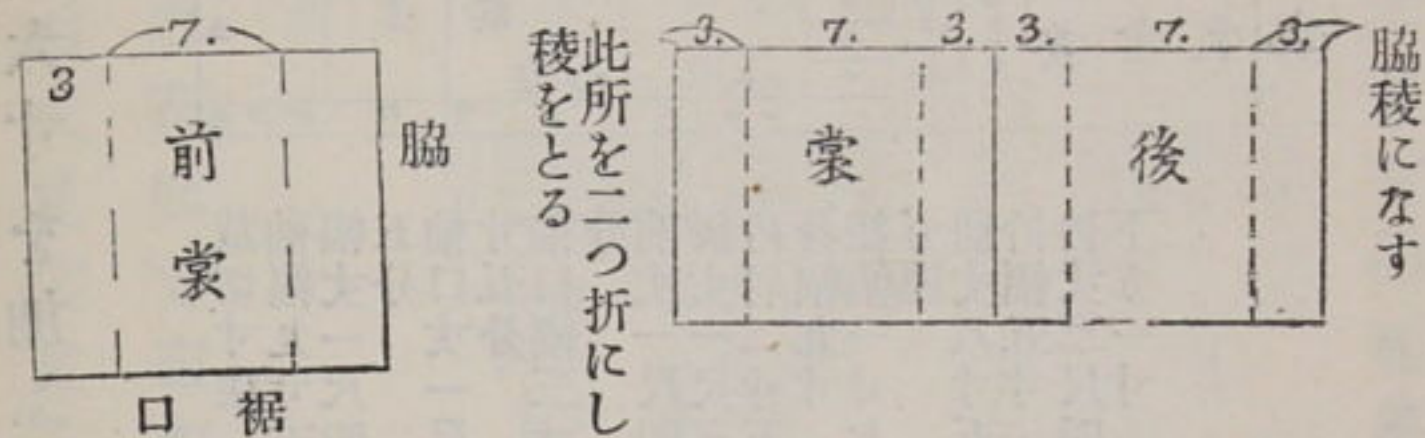
第九圖



算式
 袖及裳 後丈 前丈 帶布 袖口 紐
 $(15, \times 10) + (13, + 14,) \times 2 + 16, + 30, + 8, = 258,$
 袖丈 袖布 裳丈 裳布 後丈 前丈 身頃布
 $15, \times 4 = 60,$ $15, \times 6 = 90,$ $(13, + 14,) \times 2 = 54,$
 紐 帶 袖口 用布
 $60, + 90, + 54, + 8, + 16, + 30, = 258,$

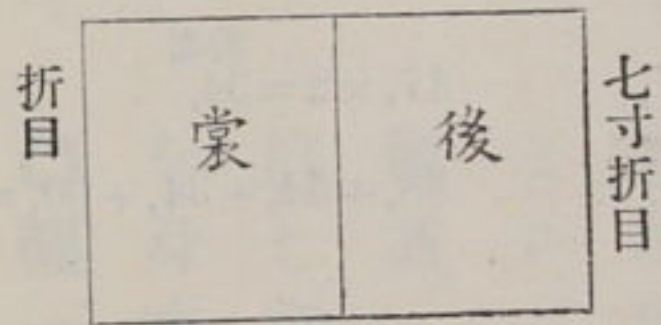
布一尺六寸を加ふれば用布を得るなり。

方取の稜

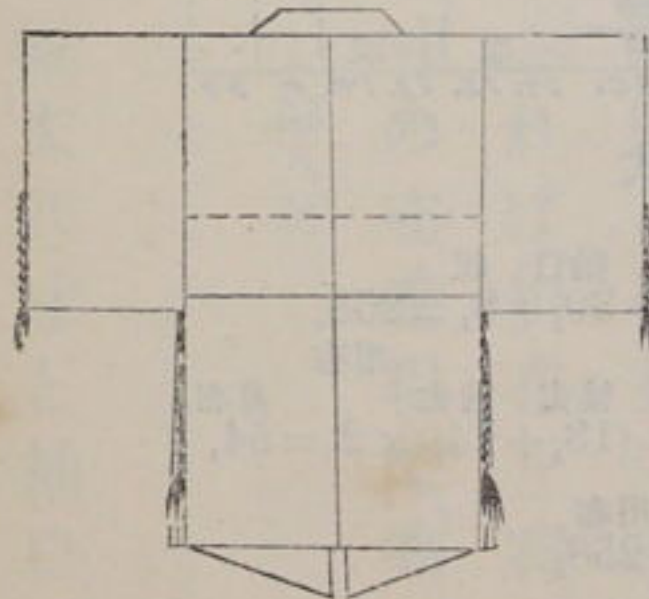


此所を二つ折にして稜をとる

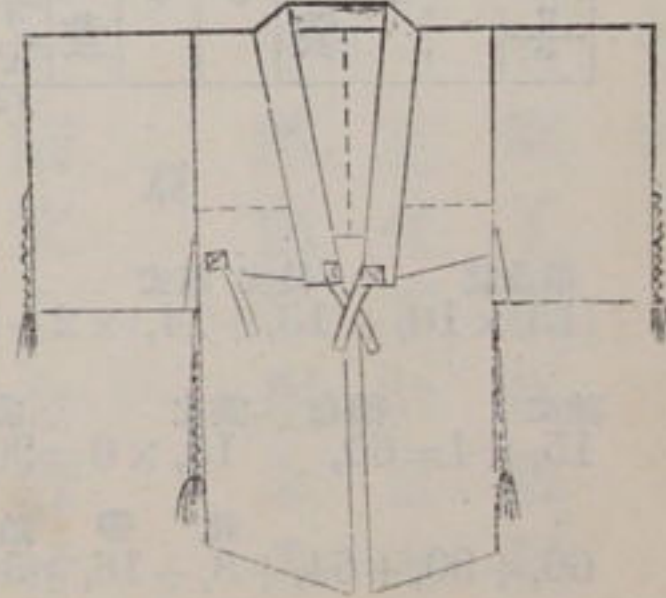
脇稜になす



圖後り上來出



圖前り上來出



○布衣信を仕立つる寸法。

袖丈一尺四五寸、袖幅九寸、袖付八寸、袖口廣袖、紐幅四分、紐丈八寸、衿肩二寸三分、後幅七寸、前幅五寸五分、前下一寸、衿幅一寸五分、身丈前後共一ばい、行一尺七寸五分、肩幅八寸五分、帶幅二寸五分、袖口明を八寸にして、千鳥掛になす。

但左右の脇は裾口より五寸上りし所より裳の丈の終りまで千鳥掛をなす。

○布衣信の縫方。

袖口明に袖口布を縫付け、折は表の方に返し、袖下を袋縫になし、袖幅印を付け置き、次に身頃を出して、衿肩を右に持ちて脊縫をなし、後幅、肩幅及前幅印を付け、衿を脊より左右に付下げ、次に裳布を出して脊を縫ひたる後、上部身頃に付く方だけ残して、他の

三方を紵け、前は別々にして上部を残し、廻りを紵け置き、次に裳の稜をとるなり、其仕方は前ならば竪に幅の中央より左右に三寸五分宛の所に印を付け、此所の三つ折紵になしたる端を重ねて、躰にて稜を押へ置くなり、後裳も前と同様にして後幅と同寸法になる様に後幅の中央に深さ一寸五分の片稜を左右より一つづゝとり、次に後幅と同じ寸法になし、残幅を左右とも脇稜となし、躰にて押へ置き、次に身頃と帯にて裳を狭みて身頃に縫付け、其所は身頃の方に返し、帯の両端を身頃と合せて縫ひ、折は裏の方に返し、帯の一端を折りて身頃に紵付け、次に袖を付け、次に袖口を八寸明け、其下を白の太白絲にて針目一寸位になして千鳥掛にかがり、袖下の所にて結び、其絲を袖丈止より一寸程下げ、身頃は裾口を五寸明け、其上を袖口の如く、身と裳とを合せたる

所まで千鳥にかがり、帯を三寸程下ぐるなり、此針の掛け方は、裳の脇稜の折目には通さずして、細く三つ折になして紵けたる所だけに針を通すなり。

○どてらを仕立る寸法及縫方。

袖丈一尺四五寸、身丈三尺七八寸、後幅八寸、前幅七寸、衽幅四寸、裾下一尺八寸内外、衽下五寸五分、衽幅一寸七八分、衽肩二寸五分、行一尺八寸内外、襷五分以上、袖の襷三分内外、青梅綿四袋以上。

裁方。通常の着物と同様なり。

縫方。裏袖を表より二分程つめ、其他は通常の着物同様なり。

○小夜著を仕立つる寸法。

袖丈一尺四五寸、裏袖二布、身丈四尺五六寸、衽肩二寸七八

分、裋下一尺八寸、身幅一ばい、綿一貫五六百目、半衿三尺肩當三尺七八寸、但肩當は後を一寸長くするなり。

○中夜着を仕立る寸法。

袖丈一尺五六寸、裏袖二布、身丈四尺八九寸、身幅前後一ばい、裋下二尺内外、衿幅及衿幅一ばい、衿下六七寸、綿一貫七八百なり。

○大夜着を仕立る寸法。

袖丈一尺七八寸、身丈五尺四五寸、衿肩三寸、前後共一ばい、裾下二尺二三寸、衿下六七寸、衿幅及衿幅一ばい、綿貫目以上三貫目位迄、半衿三尺以上、肩當三尺七八寸なり。

○三布蒲團を仕立る寸法。

一反の反物を三つに切りて縫ふを並とす、綿は九百目以上を要す。

す。

○四布蒲團を仕立る寸法。

丈五尺内外、綿一貫二百目以上とす。

○五布蒲團を仕立る寸法。

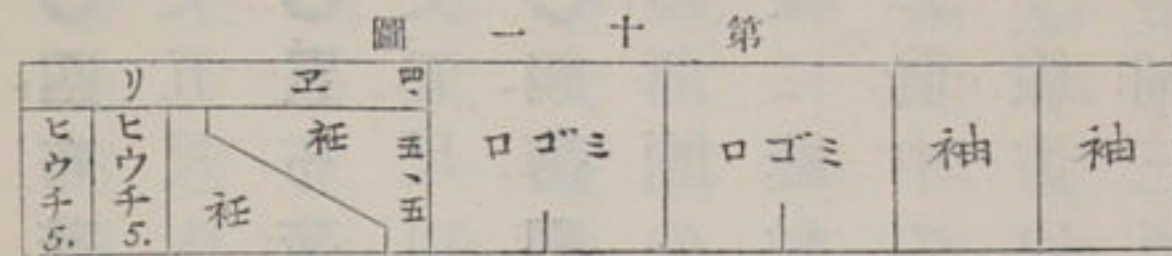
丈五尺以上、綿一貫五百目以上を普通とするなり。

○鏡蒲團の仕立方。

鏡蒲團の仕立方は、裏と表とを縫ひ、其廻りに木綿幅の布を縁の様に縫付け、其縫目は中の方に折返し、躰を懸くるなり。但裏の方の真中の布を三尺程縫残して、其處より綿を入れ、又衿付くるなり、綴方は八寸目位にぐのめに綴るなり、總て蒲團の綿は一布に付、綿三百目以上を入るゝを普通とするなり。

○三丈の布を以て、大夜着の表裁方。(第十一圖)

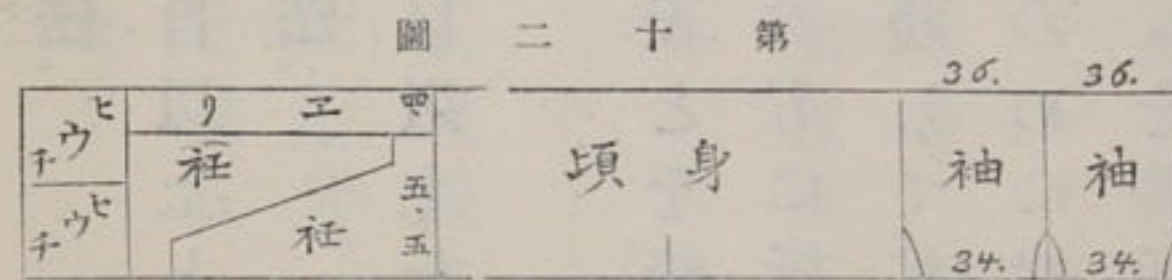
○五丈二寸の布を以て、大夜着の裏地裁方。(第十二圖)



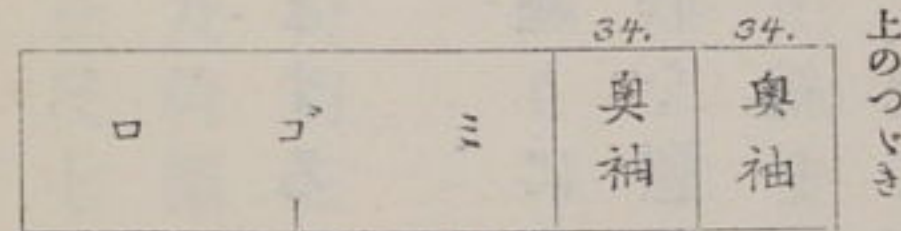
袖丈一尺
身丈四尺
二寸

算式

袖 18, × 4 = 72, 總尺 300, - 72, - 12, - 10, = 206,
 206, + 4, = 210, 衿下 ヒウチ
 42, + 12, = 54, 衿地 210, ÷ 5 = 42, 身丈



袖丈一尺 八寸
 身丈六尺 五寸二分
 衿肩三寸



身丈六尺
 五寸二分
 衿肩二寸

算式

袖 18, + 17, = 35, 35, × 4 = 140,
 總尺 502, - 140, - 35, - 5, = 322,
 衿 322, + 4, = 326, 326, ÷ 5 = 65, 2身丈
 65, 2 - 4, = 61, 2衿丈 61, 2 + 35, = 96, 2衿地

尺の内より減じ、其残りに衿下を加へ、之を五除し、身丈を得、又身丈に裋下を加へ、其内より衿下を減じ、衿衿地を得るなり。

○表地二丈七尺の布を以て、濶袖を裁つに袖丈一尺五寸、身丈四尺八寸になさんとせば、其裏地幾許尺を要するや。(第十四圖)

表袖 18, 5 × 12 = 222,
 身丈 55, × 10 = 550,
 550, + 222, + 50, + 15, = 837,
 837, - 8, = 829,
 829, - 300, = 529,

○表地三丈の布を以て、大夜着を裁つに、袖丈一尺八寸五分、身丈五尺五寸に裁たんとせば、其裏地幾何なりや。(上の算式参照)

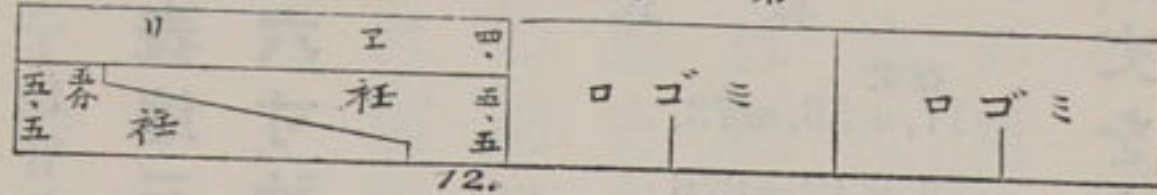
○二丈六尺の布を以て、濶袖表の裁方及積方。(第十三圖)

積方。袖丈の四倍と裋下の一尺五寸とを總

圖

但裋下二尺一寸、裁切衿下四寸。

圖 五 十 第



八二
分寸肩

算 式

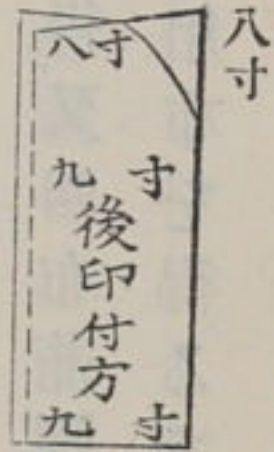
總尺 襖下
215, -12, =203, 203, +4, =207, 207, ÷5=41,4



圖面後

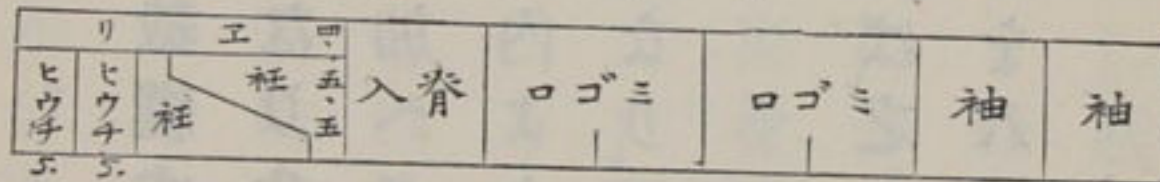


圖面前



八寸

圖 六 十 第

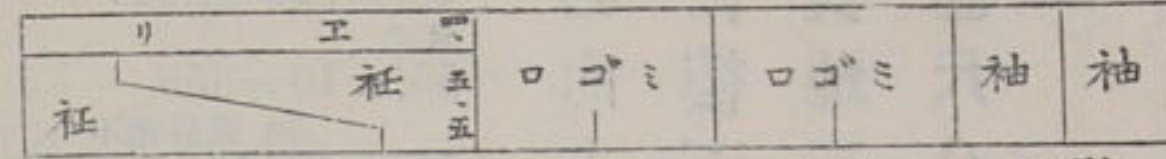


袖丈一尺 八寸
身丈四尺 五寸
肩三寸 五寸
脊入四尺 五寸
襖下一尺 三寸
幅五分 五寸

算 式

袖 18, ×4=72, 身丈 45, ×6=270,
270, +13, +72, +10, =365, 365, -5, =360, 用布
襖下 袖 ヒウチ 衿下

圖 三 十 第



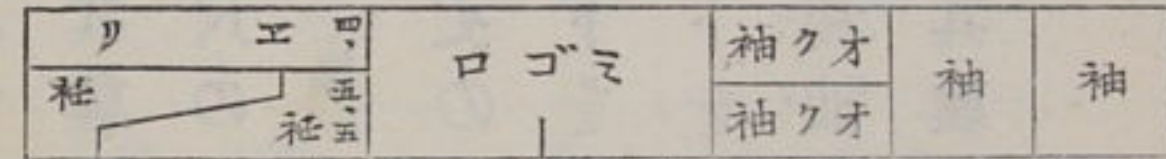
七
分肩

五
寸丈一尺

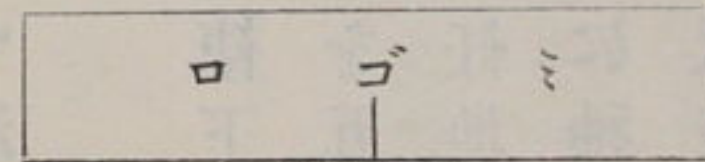
算 式

袖 15, ×4=60, 總尺 260, -60, -15, =185,
衿下 185, +4, =189, 189, ÷5=37,8身丈
襖下 37,8+15, =52,8 52,8-4, =48,8衿下

圖 四 十 第



袖丈一尺 五寸
奧袖一尺 四寸五分
身丈五尺 八寸
肩二寸 七分
襖下三尺 四寸



七
分

八
寸丈

算 式

身丈 48, +15, =63, 63, ×10=630,
630, +42, =672, 672, -8, =664,
襖表 下分 表地 裏地
664, -270, =394,

○表地二丈一尺五寸の布を以て、襦袢夜着の裁方及積方。(第十五圖)

身丈四方一寸四分但裏は襦の二倍丈け長くす

○脊入夜着の裁方及積方。(第十六圖)

但脊入は一幅或は半幅を入るゝもあり。

○表地三丈五尺の布を以て、脊入夜着を裁縫するに身丈五尺六寸、袖丈一尺七寸にせば、裏地何尺寸なりや。(上の算式参照)

積方。袖丈と身丈とを加へて之を十二倍し、之にヒウチの切を加へ、其内より衿下の四倍と表の切を減じ、裏地を得るなり。

○蒲團の積方。丈五尺の三布蒲團なれば、之を六倍して用布を得、又四布蒲團なれば、丈を八倍し、五布蒲團なれば、丈を十倍して用布を得るなり。

○夜着の縫方。

算式

$$\begin{aligned}
 & \text{袖丈} \\
 & 17, + 56, = 73, \\
 & 73, \times 12 = 876, \\
 & \text{ヒウチ} \\
 & 876, + 10, = 886, \\
 & \text{表地} \\
 & 886, - 20, - 350, = 516, \text{裏地}
 \end{aligned}$$

第一表と裏との口さきを合せて、之を縫ひ、其縫込は、二厘きせを
 かけて、表の方に折を付け、又其處にかくし、襷を懸け、次に表の袖
 付の處に燧ひらの切を縫付け、それより袖下を縫ひ、隠襷をかけ、次に
 奥袖に燧の切を縫付け、又袖下を縫ひ、次に脊と脇とを縫ひ、袖を
 付け、縫目は着物と同様に折を付け、次に裏身頃も表に倣ひて脊
 と脇とを縫ひ、袖を付け、其縫目は身頃の方に折を付け、次に裏と
 表の裾口を合せて之を縫ひ、其縫目は表の方に折を付け、隠襷を
 懸け、前幅は裾襷の山にて幅一杯に印を付け、衿肩迄斜に折を付
 け、衿も表と裏の裾口を合せて之を縫ひ、表の方に折を付けて隠
 襷をかけ、衿を身頃に縫付け、其縫目は衿の方に折を付け、次に棲
 下を縫ひ、表衿の方に折を付け、又隠襷をかけ、次に表と裏との衿
 を縫合せ、折は表の方に返し、次に衿を付け、縫目は衿の方に折を

付け、左右の衿先を四五寸程縫ひ、裏衿の方に折を付け、其處に隠
襷をかけ、裏の方を出して疊み置くなり。

○綿の入方。

先づ表の裏の後を見て下に置き、裏身頃は腰部の上を裾口の方
に折返し置き、脊中より裾口及袂下衿先などに綿を置き、(但裾口は、五六寸長く綿を置き、之を折返し、衿の綿も二三寸廣く綿を置くなり)次に衿先より下の處、裏を表に引返
し、裏の前の方と袖に綿を入れ、(但袖口の處も三寸程綿を折返すなり)表の前身頃の方
より袂に手を入れ、右の手にて袖口の處を持ち、左の手にて表の
前身頃を持ちて之を引返し、裏表の縫目を合せて、能く引伸すな
り。但絹布なれば残らず縫ひ、襷を懸るなり。

○紵方。

先づ奥袖を付け、次に身頃は七八寸目毎に、針目一寸位に、絲のつ

らぬ様に綴ぢ、衿の縫目は、裏表を合せて四五寸目毎に綴ぢ、次に
衿を紵け、次に肩當を付け、半衿は左右同様になして付くるなり。

○蒲團の縫方。

蒲團の縫方は裏の眞中の縫目の處を三尺程縫殘し、其縫目に隠
襷を懸るなり。

○綿の入方。

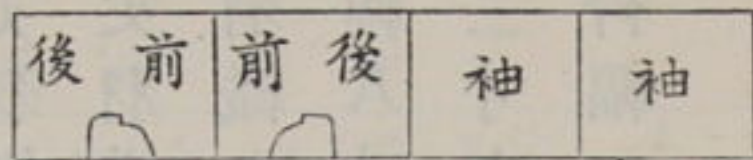
蒲團側より二三寸長く綿を置き、之を折返し、次に縫殘せし所よ
り手を入れて引返し、縫殘したる所を紵け、次に一尺目位にぐの
めに綴付るなり、但一方に縫目のなき所をば上の方になすなり、
潤袖脊入夜着及袴夜著など、縫方皆同じ。

○常幅二丈七尺五寸の布を以て、男衿合羽表の裁方。(第十七圖)

積方。身丈二尺四寸五分の十倍と、袖丈一尺四寸五分の八倍とを加へ、又之に雙方の縫代として一尺五寸と襠の一尺三寸とを加へ、其内より豎衿下を二倍したるものと、表地の二丈七尺五寸を減じて裏地を得るなり。

○並幅二丈三尺六寸の布を以て、男單合羽の裁方。(第十九圖)

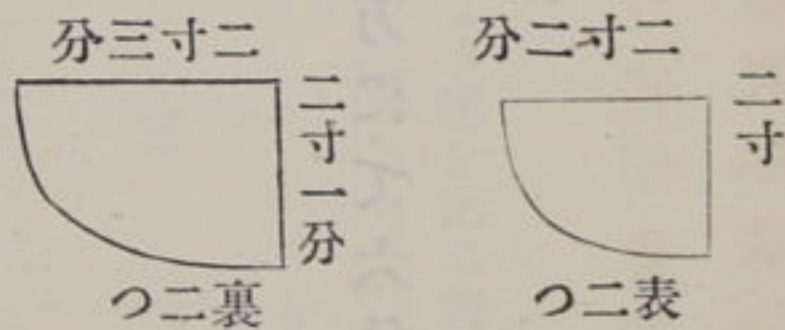
圖八十第



袖丈一尺
五寸

算式

$$\begin{aligned} \text{身丈} & 21,5 \times 10 = 215, \\ \text{袖丈} & 14,5 \times 8 = 116, \\ & 245, + 116, + 11, + 20, = 392, \\ & 3,5 \times 2 = 7, \\ \text{縫代} & \\ \text{襠} & \\ \text{豎衿下} & \text{表地} \\ & 392, - 275, - 7, = 110, \\ & \text{裏地} \end{aligned}$$

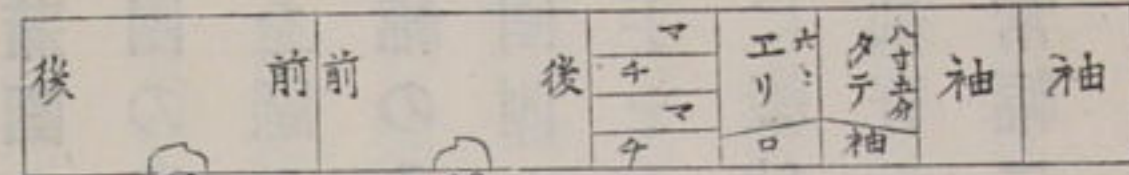


寸分
二下
つ座

寸分
二上
つ座

○二丈七尺五寸を以て、袷合羽を仕立るに、身丈二尺四寸五分、袖丈一尺四寸五分出来にせば、其裏地何程なりや。(第十八圖)

圖七十第



袖丈一尺五寸
豎衿二尺七分
襠一尺一寸
身丈後三尺八寸二分
前四尺一寸二分
分前
袷三寸八分
小衿は別切に
て幅一寸七分
長さ一尺一寸
の出来なり

算式

$$\begin{aligned} \text{袖丈} & 15, \times 4 = 60, \\ \text{總尺} & 275, - 60, = 215, \end{aligned}$$

豎衿丈けの定め方

$$\begin{aligned} \text{身丈} & 24,5 + 1, = 25,5 \text{前丈} & \text{縫代} & 25,5 - 3,8 = 21,7 \\ & 21,7 + 1, = 22,7 & \text{襠} & 22,7 \times 2 = 45,4 \\ & 215, - 45,4 = 169,6 \end{aligned}$$

襠丈の定め方

$$\begin{aligned} \text{身丈} & 24,5 - 14,5 = 10, & \text{縫代} & 10, + 1, = 11, \\ & 169,6 - 11, = 158,6 & \text{襠} & 158,6 - 6, = 152,6 \\ & 152,6 \div 4 = 38,1 \text{後丈} & \text{前後の差} & 38,1 + 3, = 41,1 \text{前丈} \end{aligned}$$

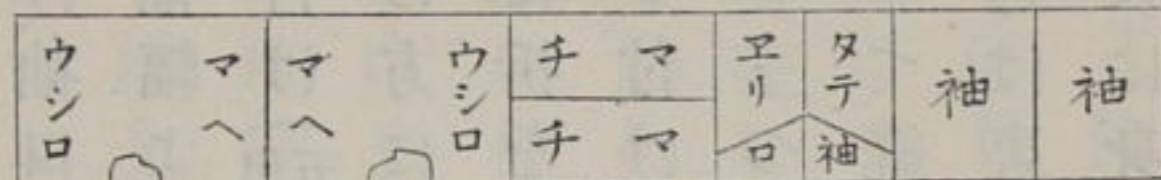
○但襠半幅の積り。(肩スベリは常幅にて二尺五寸を並とす。)

積方。袖丈の四倍と、身丈の六倍とを加へ、之に襠の切一尺四寸を加へ、二丈四尺一寸を得、此内より堅衿の下の四寸づゝ左右にて八寸を減じ、用布を得るなり。

○男合羽を仕立つる寸法。

身丈、羽織より二三分長く、前下一寸。
 袖丈、羽織より三寸長く袖口八寸。
 行、羽織より一分長く。
 後幅八寸、前幅七寸五分、襠二寸上の方にて六分、堅衿の幅下四寸上二寸七分出来。
 小衿幅一寸七八分、丈一尺一寸。

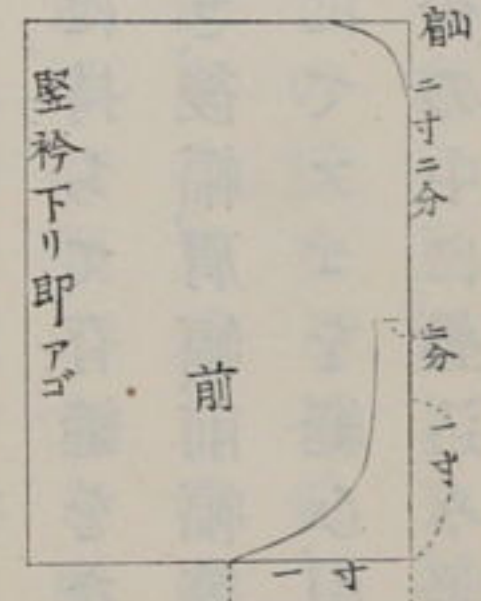
第十圖



算式

袖丈 $15, \times 4 = 60,$ $28, \times 6 = 168,$
 身丈 $168, + 60, + 14, = 242,$ $242, - 8, = 234, \text{用布}$
襠
堅下二
衿の倍

後 分七寸二



合羽の衿肩より臑を結る圖

三寸八分

○男單合羽の縫方。

第一表袖を自分の方に、袖口を自分の向ふに、袖の方を一分程ゆ

るくなして、袖口の開き丈を縫ひ、五厘きせをかけて袖の方に折を付け、引き返して表の袖を見て袖口開きの處を毛抜合せに折を付け、袖口開きを止め、袂の角迄縫ひ、袖幅の印を付け、又袖付の處は袖幅より三分狭く印を付け、其處迄縫廻し、此處に襠を前後共縫付け、(但襠の先の縫代は五厘位にするなり)次に身頃を取り、衿肩を右に、表の方を自分の方に、肩當の切を向ふに持ちて脊縫をなし、其縫目は自分の方に折を付け、之を下に置き、後幅、肩幅、前幅等の印を付け、其所に折を付け、次に裏と表の間にてアゴを縫ひ、引返して前下の印の處を三つ折になし、之を豎衿の中に疊込み、豎衿を以て前身頃を挟みて縫ひ、其縫目は表の方に折を付け、衿先は一分中を縫ひ、其縫込は裏の方に折を付けて綴付け、之を引返して縫目をこき出し、次に身頃を自分の方に、襠及袖を身頃の向ふに持ちて、之を

縫付け、其縫目は身頃の方に返して綴付け、次に裾口を三つ折になして、針目を三分位に紵付け、次に装束は丸き大なる幅の廣き方を横になして豎衿に綴付け、豎衿の角には装束の幅の廣き方を横になして豎衿に綴付け、其裏に見返しを綴付け、又左の肩より三寸下りし處に羽織の紐付の様なる打紐を綴付け、次に下座は袖付より一寸下にて上の装束の見通しの處に綴付け、左の下座も之にくらべて付け、次に笹縁は顎の丸き處をば縁を引張り、豎衿の角の處は縁に稜を取り、其他は平に返して、装束より一寸下まで縁を付け、顎の廻りは半紙を幅五分に裁切り、之をこよりになして入れ、裏の方に縁をまつり付け、小衿は幅一寸七分位に折を付け、其處に烙鏝をかけ、次に之を縫ひ、又紵付けて疊み置くなり。但装束は別布即黑羅紗にて表を張り、丸き所だけに笹縁を

取り、装束の中央に細き黒の打紐を七廻り程うづまきに巻き其先きに釦を付け、(但釦の表には穴の明きを置かずして裏のみに横に明け、其穴に打紐を通すなり)次にウズマキの終りと釦の間には平たき管を通す、これは上前堅衿の所に付くる装束と袖付より一寸下りし所に付くる分と下前堅衿の先に附くる分だけに付け、其他は釦だけ付け置くなり。

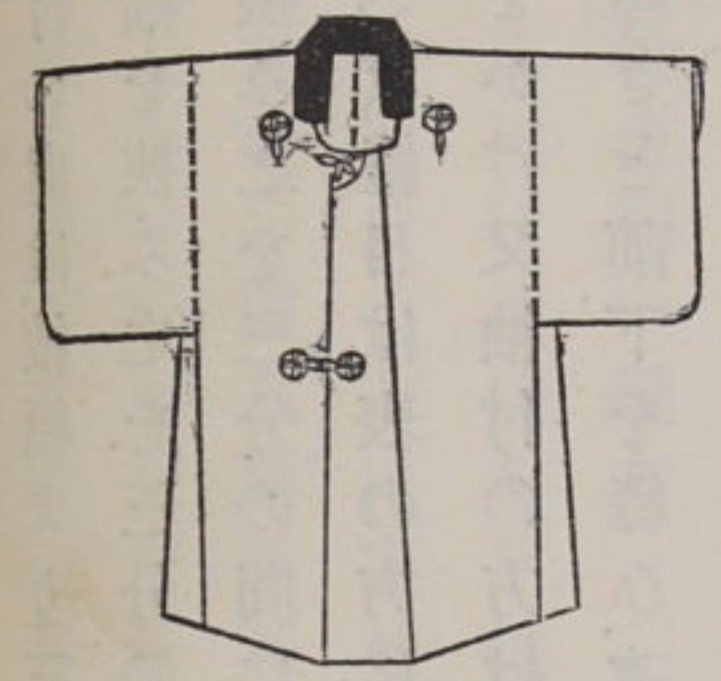
○男衿合羽の縫方。

先づ裏袖に袖口布を付け、其縫目は袖口布の方に折を付け、次に表袖を自分の方に、裏袖を向ふにして、裏と表を一分程ゆるくなして口明の處を縫ひ、其縫目に五厘きせをかけて、表の方に折を付け、左の袖は表を自分の方に向けて、袖口明は裏表四枚合せて止め、袂の處まで縫ひ、其縫目は表の方に折り、次に袖幅の印を付

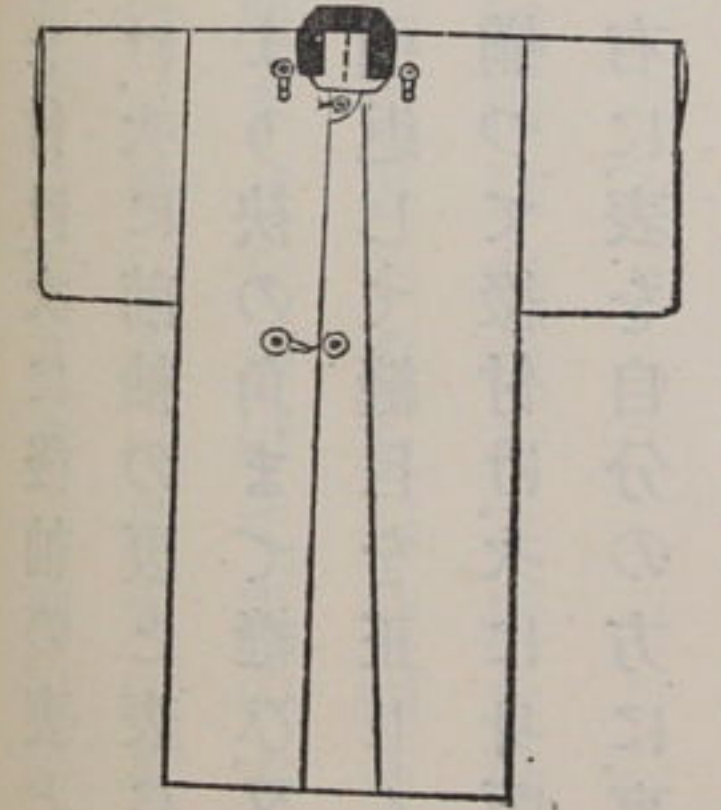
け、袖付の處は、袖幅より三分狭く印を付け、次に後袖の裏と表にて後襠を挟み、之を三分の間に縫付け、次に前袖の裏と表にて前襠を挟み、之を三分の間に縫付け、夫より袂の角まで縫ひ、又袖形を拵へ、其縫目は表の方に折り、之を引返して縫目を正しくなし、襟糸をかけ、又袖付の方は、裏と表を揃つて綴付け、次に身頃を取り、胴継ぎと前下を縫ひ、次に衿肩を右に、表を自分の方に、裏を自分の向ふにして、脊を四つ縫にし、其縫目は自分の方に折を付け、次に後幅と肩幅と前幅とに印を付け、其處に折を付け、後身頃にて後襠を挟みて裾口より後袖丈の山まで四つ縫になし、次に前身頃にて前襠と前袖を挟み、裾口より前襠を四つ縫になして、前袖丈の山まで縫ひ、其縫目は表身頃の方に折り、次に堅衿の裾口を縫ひ、折りは裏に返し、次に前身頃を以て堅衿を挟みて、之を

縫ひ付け、又顎の處を一分縫代に縫ひ、其縫込には三分目位に切込み、之を引返して肩より二寸二分下の處に裝束を綴付け、又堅衿の角及袖付より一寸下りし處に裝束を付け、顎の處に笹縁を付け、紙を細くよりて表の方に入れ、而して之を裏の方にまつり付け、次に小衿を付け、又雙方の縫目を正しくなして、之を疊み付くるなり。但小衿には厚紙を心に入るるなり。

圖一十二第
圖り上來出羽合半

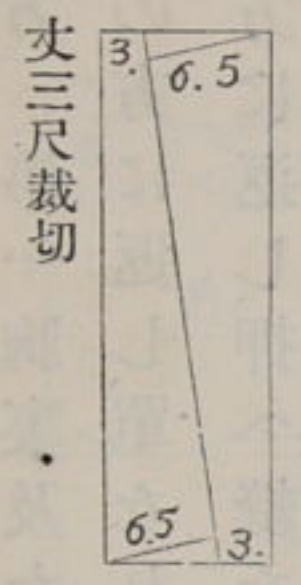


圖り上來出羽合長



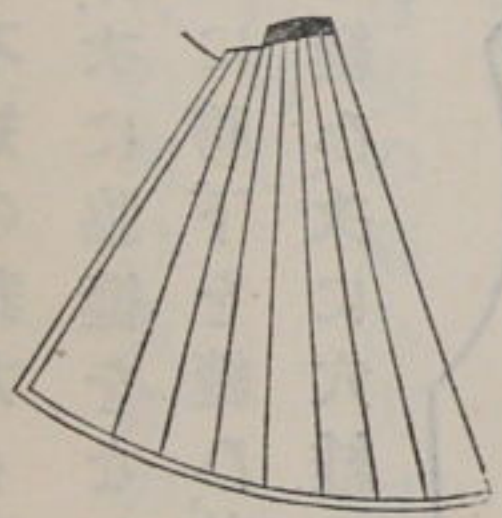
布數は十六布或は十八布にして、縫方は殆め耳と耳とを合せて脊縫となし、左右の前端に耳の處を付け、衿及周圍に木綿の縁を付くるなり。
長合羽仕立方は襠なしにして、武家は大小穴を左の前後の身頃に明けるのみ、餘は半合羽と同様なり。
長合羽は昔武家或は僧侶などの着用せしものなり。
○木綿一反を以て、風合羽裁方。(第廿圖)

圖十二第



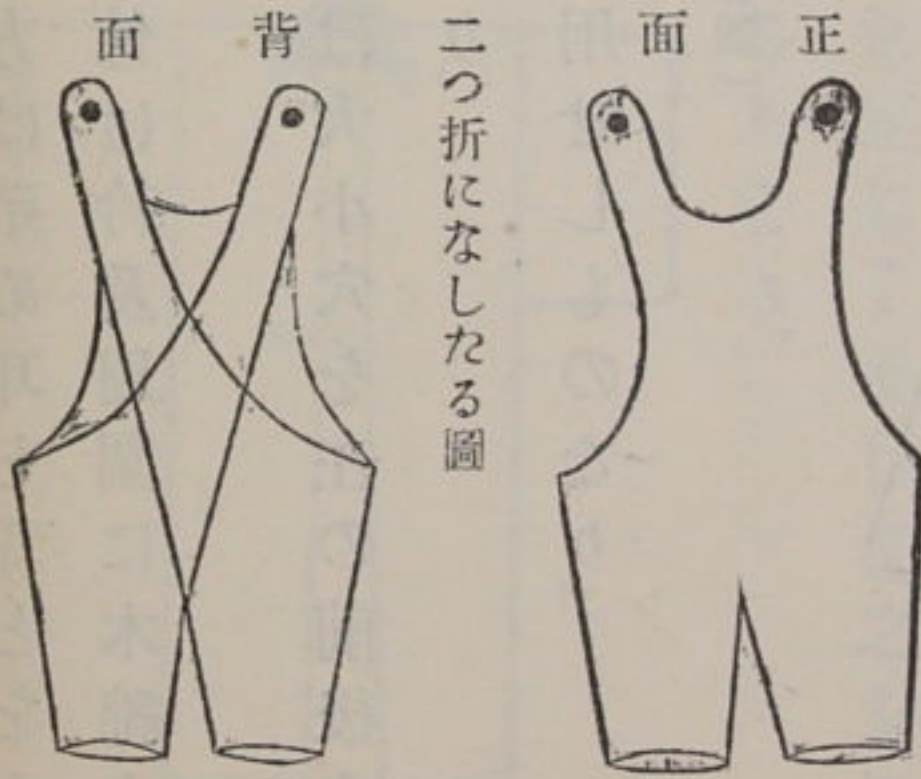
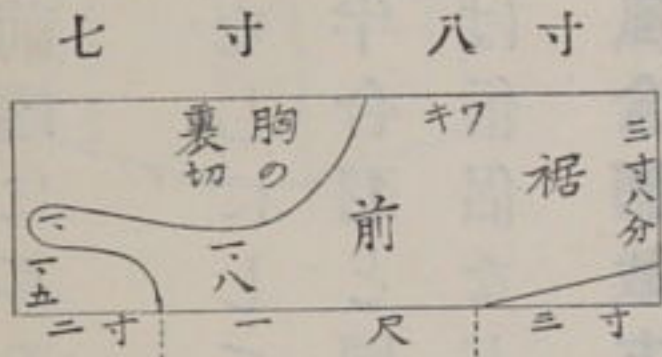
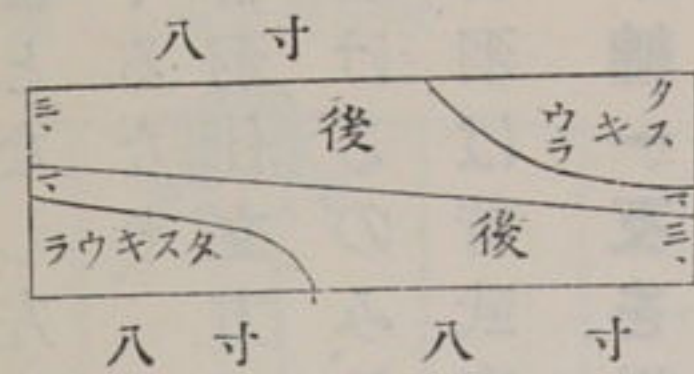
衿小
寸二尺一

圖面半左り上來出



○常幅長さ三尺一寸の布を以て、寝冷不知の裁方。但釦掛(第廿二圖)縫方。第一胸裏及たすきの裏を付け、次に脇縫をなし、其縫目は前の方に返し、單なれば押縫となし、次に胯下を縫ひ、其縫込は前の方に返し、押へ縫をなし、次に裾口を縫ひ、次に穴紐をなす。

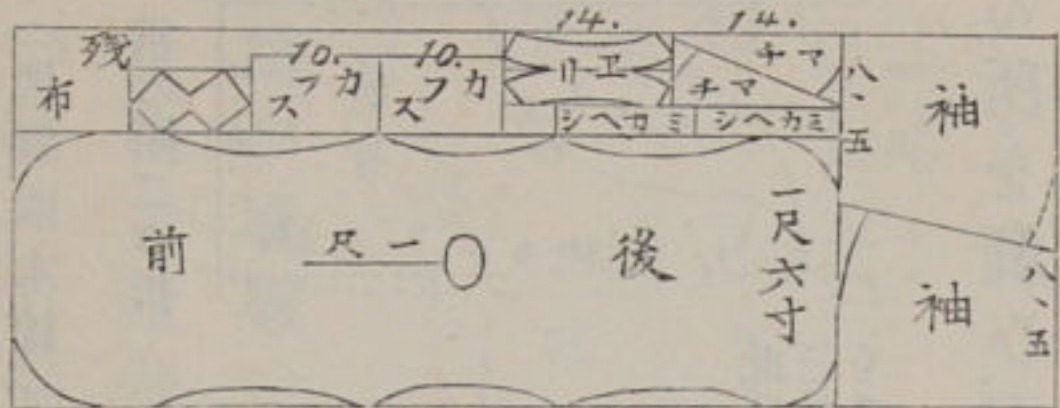
圖二十二第



○幅二尺長さ七尺三寸の布を以て、大人男西洋寝間着の裁方。

(地質は白キヤリコ或はフランネル等を用ふ。)

圖三十二第



裁切寸法 袖丈一尺三寸 身丈三尺 衾肩二寸 揚二寸三分 カフス幅三寸 四分 カフス丈一尺 止切幅三寸 止切丈三寸 (但一枚) 馬乘一尺 前明一尺 裾口丸味三寸 五分

算式

$$\frac{\text{總尺} \text{ 袖丈}}{(73, -13)} \div 2 = 30, \text{身丈}$$

縫方。

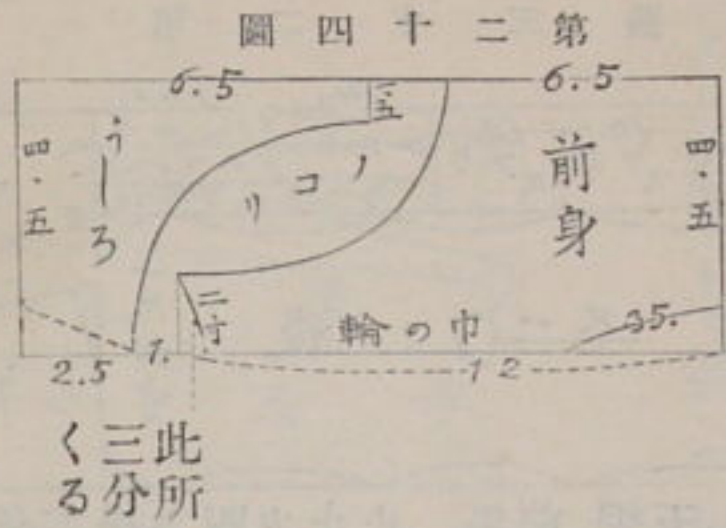
- 一、袖と裾とを取り、普通シャツの如く裾を付け、次に袖口の表にカフスを付くるなり、但袖口は明なく、釦も付けざるなり。
- 二、身頃の縫ひ方は、普通シャツに同じ。
- 三、穴の明け方、釦の付け方等凡

て普通シャツに同じ。

○常幅の布を以て、二三歳の紐付寝冷不知の裁方。

(地質は木綿、フランネルを多く用ふ。)

常の幅二つ折

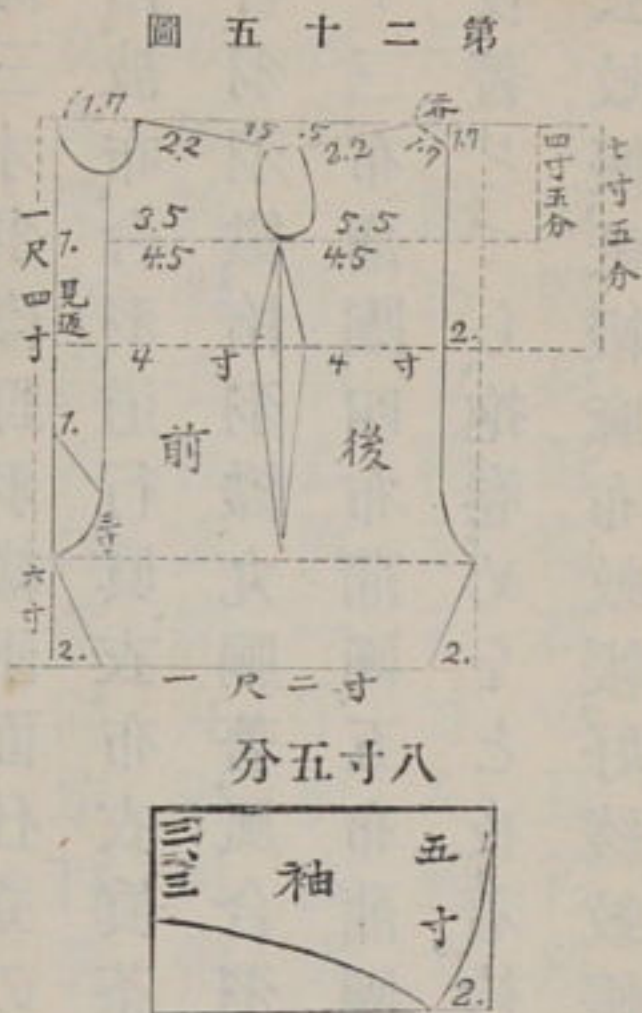


算式
 前身丈 後丈 余裕
 12, + 2.5 + 1, = 15.5
 総用布
 外に 袖丈一尺
 八寸一本、
 紐丈一尺、
 五寸二本、
 (紐巾は
 四、五分
 上り)

たる所を縫ひ、引き返して、顎の所に紐を付く、但膀下は後身丈の
 終りより卷縫にす。
 寐冷不知の裁方は、一才増減するごとに丈幅ともに一寸増減す、

而して其身丈一寸の内七分は膀上にし、三分は膀下にす。

○五六歳小兒寝衣の裁方。(丈一尺九寸)



縫方。第一袖、次に脊縫、次に肩
 繼、袖付、次に前に見返しを付け、
 次に膀下、次に裾口、次に釦穴を
 五つ明くるなり。
 但縫込は何れも折りてまつり
 付るなり。

○裁縫の種類

一つ身、胞著、産着、二つ身、三つ身、四つ身、中裁、本裁、手術衣、擊劍稽古
 着、單半襦袢、單長襦袢、袷半襦袢、汗襦袢、袷長襦袢、半胴着、長胴著、袢
 纏、印袢纏、長袢纏、子守袢纏、木綿袷、絹布袷、小袖、綿入小袖、花色裏替

裏無垢、白無垢、裾模様、腰模様、總模様、江戸褙模様、(江戸褙模様は徳川時代徳川の大奥より始まりし)單半重、單本重、二枚重、三枚重、附比翼、本比翼、被、單總、伏仕立、(羽識其昔は塵除なりしか足利義滿の頃より通常禮服と定めら)總割仕立、袷羽織、袷兩面羽織、馬乘羽織、丸羽織、火事羽織、陣羽織、三才羽織、野羽織、兩面仕立の絆纏、兩面仕立の綿入、兩面仕立の袷、被布、合羽、道行、眞衣、布衣、眞茶師の十徳、醫師の十徳、僧侶の十徳、合羽羽織、袴羽織、丸胴著、風合羽、廻し合羽、脊廣鳶、二重廻し、東コト、三布蒲團、四布蒲團、五布蒲團、大夜著、中夜著、小夜著、脊入夜著、袴夜著、どてら、抱卷、めをと夜着、袷附布團、座布團、椅子蒲團、枕蚊帳、母衣蚊帳、紙帳、麻布蚊帳、好綾蚊帳、長社袴(素袍大紋の袖を取除け、長袴の裾を裁切り上下と名づく、足利三代義滿の頃より武家の)半社袴、長絹社袴、狩衣、直垂、闕腋、偏綴、水干、大紋、湯する衣、湯上袒、汗衫、長袴、半長袴、半袴、徳川時代の十番馬乘袴(十番馬乘)

袴は麻布十番といふ處より始まる。十三番(仕立馬乘袴は江戸湯島大根畑より始る)明治の十番馬乘袴、襠高袴、四布袴、十布袴、細袴、小袴、裁附袴、刺貫袴、括袴、義經袴、大口袴、下袴、表袴、しやも、裁附袴、野袴、緋の長袴、緋の半長袴、緋の半袴、明治の女襠なし袴、同襠あり袴、かるさん袴、もつへ袴、段袋袴、前懸袴、行燈袴、丸形肩衣、中一字肩衣、眞一字肩衣、素絹衣、五條袷裳、七條袷裳、九條袷裳、輪袷裳、袷豎衣、長素絹、丸術、男帶、市川仕立、同當世仕立、女鯨帶、女鏡帶、女丸帶、女官の打著、同單打著、(打著緋の袴は婦人の通常禮服なり)五つ衣、同かけ衣、裳、懸帶、唐衣。
(燕尾服は男子の禮服と明治十七年に定めらる。又婦人は白無垢に紋附を着せば禮服に代用し、男子黒の紋附羽織に袴を着用せば禮服に代用す)
(市川仕立といふは徳川時代江戸淺草の市川といふ袋物屋より始る)

○シヤツ及油篋類
 飾シヤツ、胸當附、背掛のシヤツ、太鼓胴のシヤツ、胴形のシヤツ、カ

プリシャツ、前明シャツ、肩當附のシャツ、折衿のシャツ、車夫の半袖襦衣、車夫の筒袖襦衣、暖簾、幕、旗、幟、挾箱、油篋、篋、司長持油篋、服紗、襪、日本涎懸、禪、襪。

(キヤリコシヤツは四十番或は五十番カタン糸を以てミシン縫し、本フランネルのシヤツは羽二重糸を以てミシン縫或は千鳥縫をなすべし)

○ツボン下。

腰廻り、及裾口紐付のツボン下、腰廻り及裾口釦懸のツボン下、股引仕立のツボン下。

○ツボン。

半ツボン、長ツボン、馬乗ツボン。

○コート。

サツクコート或は脊廣とも云ふ、ジャケット、モーニングコート或は半マントルとも云ふ、フロクコート或は長マントルとも云

ふ、スワローテールコート、燕尾服と云ふ、オーバーコート、(外套)。

(サツクコートは仕事着即常服なり、モーニングコートは午前中着するもの、フロクコートは午後着し、スワローテールコートは夕食後着するものなり、而してワローテールコートは普通禮服として用ひ、フは大禮服として用ひ)

○婦人洋服下著。

ドゥロワース、ベテイコート、或はアンダースカートとも云ふ、シミズ、シミゼット、コーセット、コーセットカバー等なり。

○婦人洋服。

上著に種々ありジャケット、バスク、シャートウエイスト、ブラウスなど云ふ、袴をスカートと云ふ。

○股引、足袋、腹懸。

絲襪の股引、ハッチ、足袋、山附脚絆、大津脚絆、胴廻りなしの股引、襠なしの股引、半股引、猿勝或は西洋禪とも云ふ、龜甲腹懸、十文字腹

懸、寢冷不知。

(股引はむかし種ヶ島へ外國の難船漂着せしとき我國へ始めて傳はりしといふ)

○頭巾及帽子。

早通頭巾、高祖頭巾、船底頭巾、宗十郎頭巾、山岡頭巾、吉原頭巾、大黒頭巾、夏の垂帽子、冬の垂帽子、雪帽子、日除帽子、鳥打帽子、瀬川帽子、綿帽子、眼バカリ頭巾、面オホヒ、オスヒ、英山帽子。

風呂敷、日本前懸、西洋前懸。(風呂敷は昔は風呂場へ敷し物といふ)

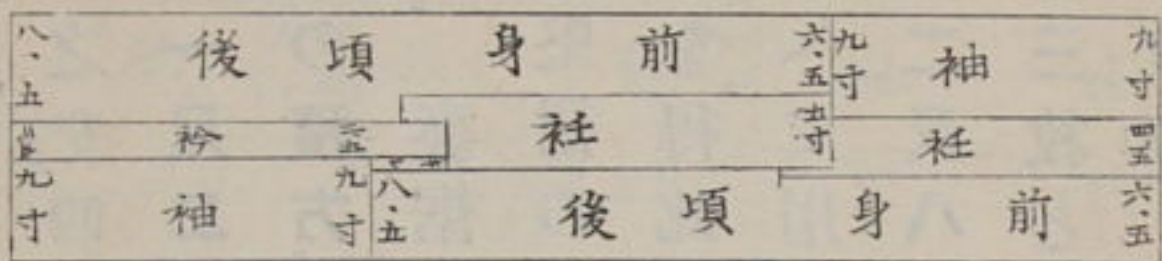
(西洋前懸エブロンと云ふは至極便利なれば、日本服の上に用ふるに妙なり。仕立方種々あり。)

○幅二尺長さ一丈一尺の布を以て、女服裁方。(第二十六圖)

但袖丈一尺七寸。

○幅一尺七寸五分の布を以て、女服無垢上着一枚と、下着廻無垢一枚との裁方及積方。(第二十七圖)袖丈一尺五寸五分身丈四尺二寸。

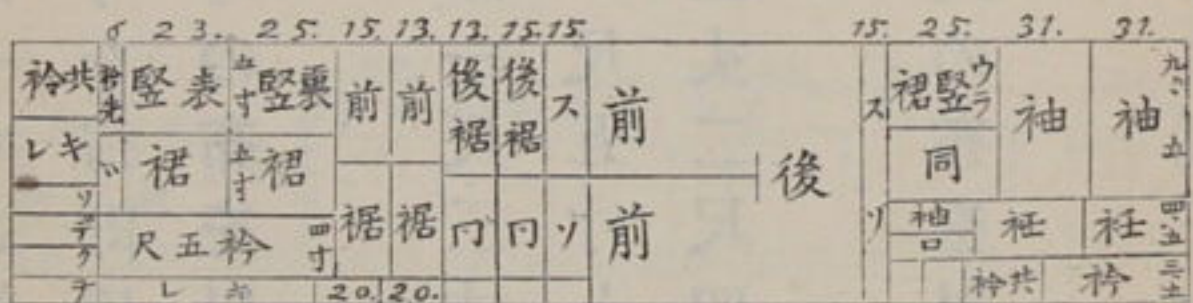
圖六十二第



衿丈三尺
六寸
幅二寸五分
分
肩二寸
五分

式
衿丈三尺
六寸
幅二寸五分
分
肩二寸
五分
算
袖 17, × 2 = 34,
76, ÷ 2 = 38, 身丈
總尺 110, - 34, = 76,

圖七十二第



衿先五寸
幅三寸五分
分
肩二寸
五分

式
衿先五寸
幅三寸五分
分
肩二寸
五分
算
袖 15,5 × 4 = 62,
42, + 15, + 15, + 25, + 13, = 110,
110, × 2 = 220,
220, + 62, + 28, + 6, + 15, = 331,
用布

○幅一尺二寸の布を以て、女服無垢上着の裁方。(第廿八圖)

袖丈一尺七寸。身丈四尺七寸。

積方。袖丈一尺七寸と身丈四尺一寸と、裾廻しの一尺五寸を加へて之を四倍して二丈九尺二寸を得、即用布なり。

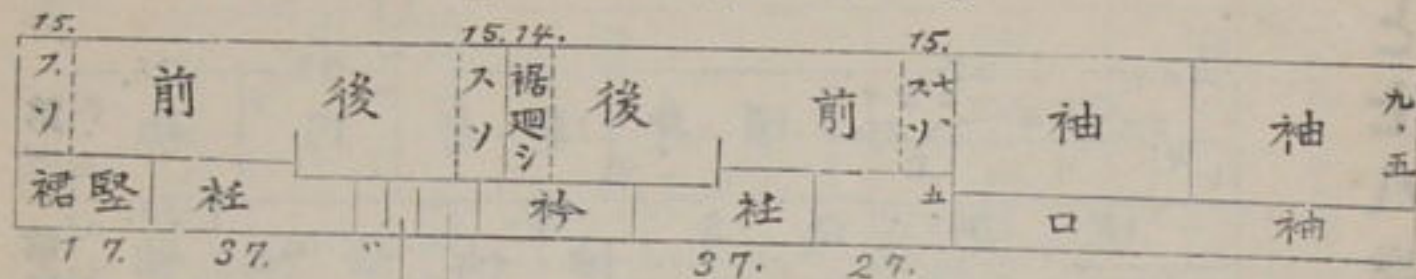
○幅一尺二寸、長さ三丈三尺八寸の布を以て、女服廻り無垢比翼の積方。(第廿九圖)

積方。裏裾の一尺五寸と表裾の一尺三寸とを加へ之を八倍し、次に堅裾の二尺五寸と袖口の一尺五寸とを加へて之を二倍し、八尺を得、此の八尺と裾廻しの二丈二尺四寸と、袖の三尺四寸とを加へて、用布を知るなり。

○幅二尺八寸五分、長さ二丈八尺の布を以て、女服一枚と、四つ身三枚との裁方。(第卅圖)

第一積方。袖丈の四倍と、裾下より衽下を減じたるものとを總

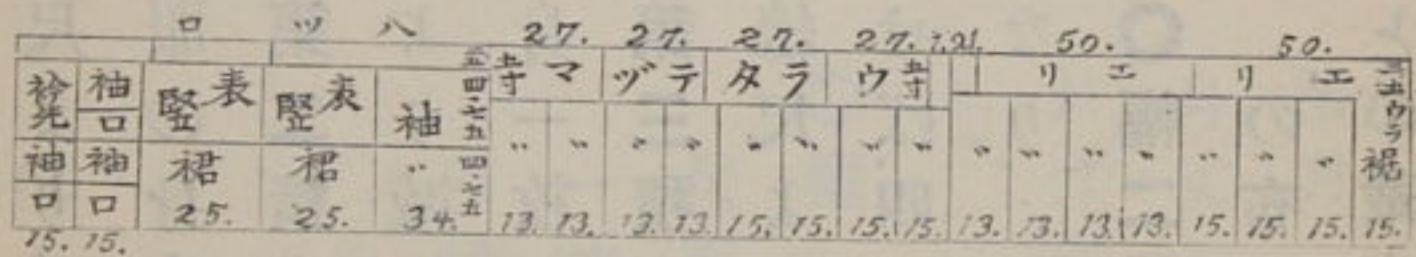
圖 八 十 二 第



袖丈一尺六寸
身丈四尺一寸
堅裾
式

袖丈 身丈 裾
17, + 41, + 15, = 73, 73, × 4 = 292, 用布

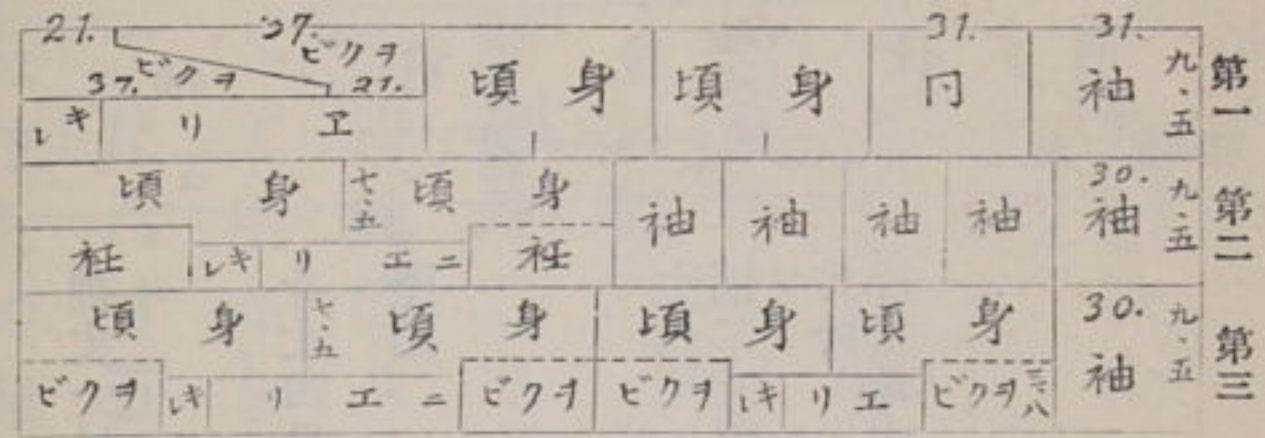
圖 九 十 二 第



裏後裾
表裾
裏の前裾
表の前裾
衽袖一尺七寸
の丈
表堅裾
同
袖口

裏裾 表裾
15, + 13, = 28, 28, × 8 = 224,
表裾 袖口
25, + 15, = 40, 40, × 2 = 80,
80, + 224, + 34, = 238, 用布

圖 十 三 第



と七八歳の小供のシャツ一枚との裁方。(第卅一圖)

算 式

第一袖 $15,5 \times 4 = 62,$ 第二袖 $15, \times 10 = 150,$ 第三袖 $15, \times 2 = 30,$

$21, - 3, = 18,$ $280, - 150, = 130,$ $280, - 30, = 250,$

衿下 $280, - 62, - 18, = 200,$ $130, \div 4 = 32,5$ $250, \div 8 = 31,25$

女服身丈 四つ身身丈 四つ身身丈

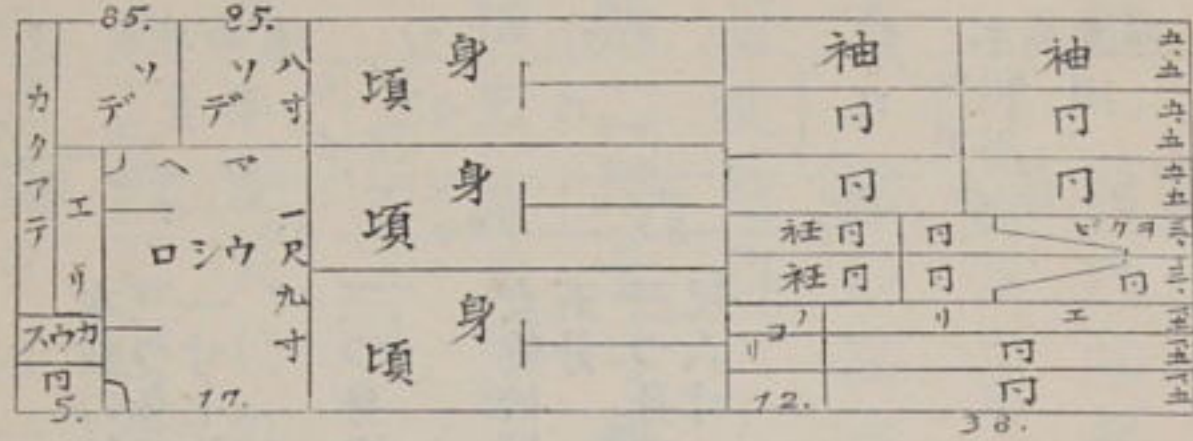
尺より減じ、残りを五除せば、女服の身丈を得るなり。

第二積方。 袖丈の十倍を總尺より減じ、残りを四除せば、四つ身一枚の身丈を得。

第三積方。 袖丈を二倍し、之を總尺より減じ、残りを八にて除せば、四つ身二枚の身丈を得るなり。

○幅二尺七寸、長さ一丈一尺の布地を以て、一つ身三枚、

圖 一 十 三 第



但袖丈一尺三寸、身丈二尺。

積方。袖丈の八倍と、三つ身身丈の二倍とを總尺より減じ、残り

衿下 一尺九寸
衿丈 三尺八寸
シヤツの襦袢

衿肩一寸

シヤツ身丈 一尺七寸

顎二寸八分

算 式

袖 $12, \times 4 = 48,$ 身丈 $20, \times 2 = 40,$

$110, - 48, - 40, = 22,$

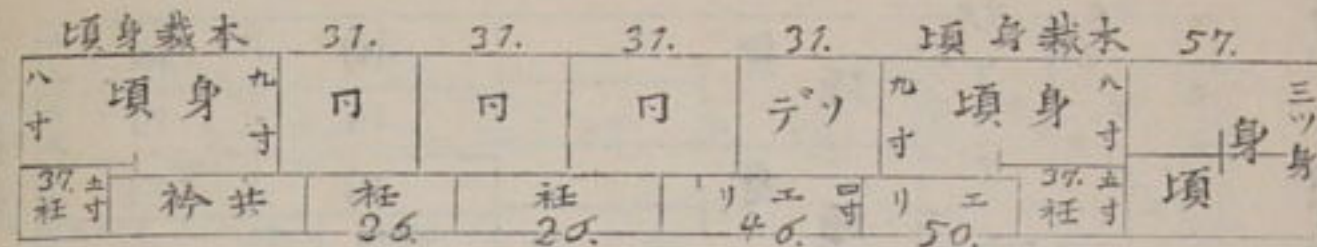
シヤツ布用

積方。一つ身袖丈の四倍及身丈の二倍を總尺より減ずれば、残りはシヤツの用布なり。

○幅一尺三寸、長さ三丈四尺五寸の布を以て、女服一枚と、同三つ身一枚との裁方。(第卅二圖)

但袖丈は兩者とも一尺五寸五分、三つ身身丈二尺八寸五分。

第三十圖

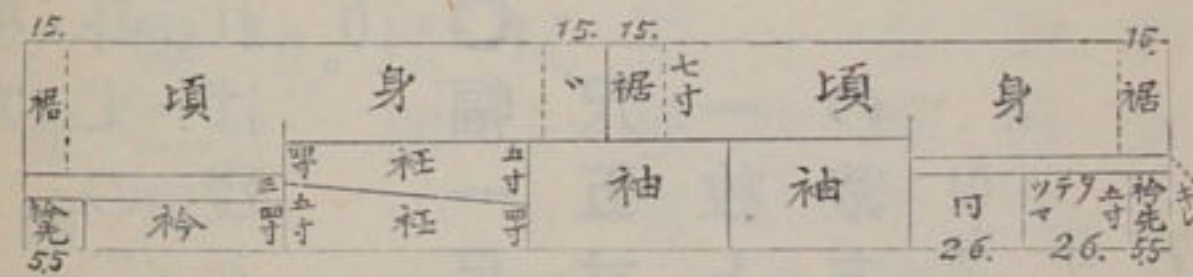


本裁の衿
三寸七分
三寸の衿
女物衿肩二寸
五分
三寸の衿二
尺六寸

算式

$$\begin{aligned} \text{袖} & 155, \times 8 = 124, & 28,5 \times 2 = 57, \\ \text{三身身丈} & & \\ 345, - 124, - 57, & = 164, & 164, \div 4 = 41, \text{女服身丈} \end{aligned}$$

第三十三圖



袖丈
袖丈一尺九寸
身丈四尺二寸
五分
衿肩二寸六分
衿丈三尺九寸
衿丈五尺二寸

算式

$$\begin{aligned} 15, \times 4 = 60, & & 230, - 60, = 170, & & 170, \div 4 = 42,5 \\ & & & & \text{身丈} \end{aligned}$$

を四にて除せば、女服の身丈を得るなり。

○幅一尺六寸、長さ二丈三尺の布を以て、女服無垢の裁方。(第卅三圖)

但裾高さ一尺五寸にして共衿なし。

積方。裾の高さを四倍し、是を總尺より減じ、残りを四にて除せば身丈を得。

○幅二尺七寸、長さ二丈八尺の布を以て、着物表三枚の裁方及

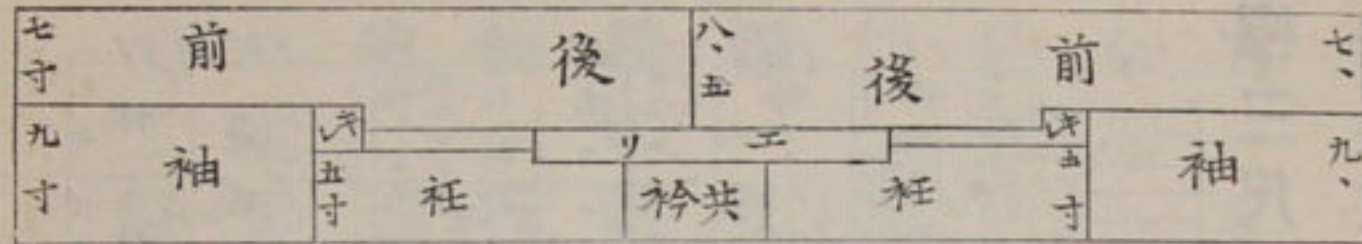
積方。(第卅四圖)

但衿下五寸、袖丈一尺四寸。

積方。總尺に衿下の五寸を加へ、七にて除せば、身丈を得、又袖丈を十二倍し之を總尺より減じ、又二枚分の衿丈として五尺を減ずれば、残りは一枚分の衿衿地となるなり。

○一尺八寸幅一丈六尺四寸を以て、女服表裁方。(第卅五圖)

圖 六 十 三 第



一 衿
尺 丈

算 式
身丈 42, × 4 = 168, 用布

積方。身丈の二倍と衿丈とを、總尺より減ずれば残り三尺二寸となる、之を二除し、袖丈を得るなり。

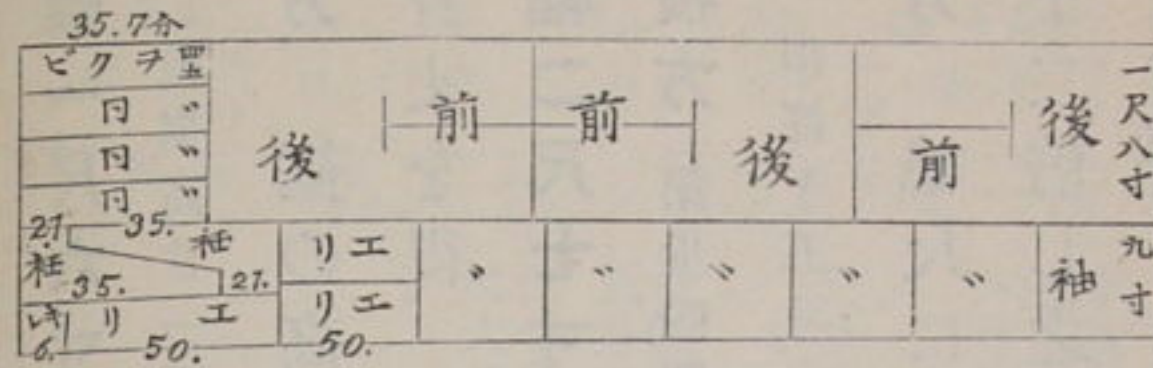
○幅一尺六寸の布を以て女服の裁方、袖丈四尺六寸、衿丈三尺八寸、身丈四尺二寸、衿肩二寸五分。

積方。身丈を四倍して、一丈六尺八寸となる、即用布なり。

○幅一尺八寸の布を以て、女服上着無垢一枚、下着廻り無垢二枚の裁方。(第卅七圖)

袖丈一尺七寸五分、身丈四尺一寸、裾廻しの高さ一尺五寸。

圖 四 十 三 第



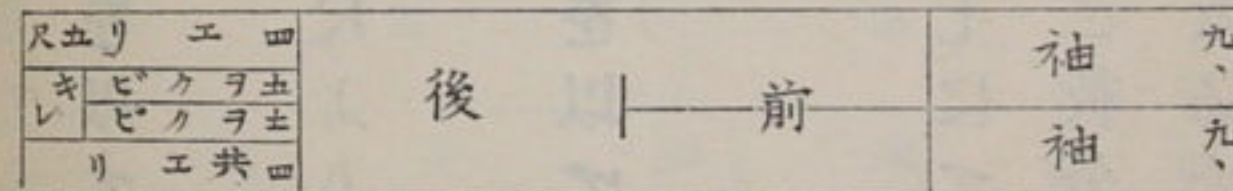
算 式

衿下
280, + 5, = 285, 285, ÷ 7 = 40,7^寸
身丈

袖丈
14,5 × 12 = 174,
106, - 50, = 56,
二の 一の衿
枚衿 枚衿地

280, - 174, = 106,

圖 五 十 三 第



七 衿
寸 丈 三 尺

五 衿
分 肩 二 寸

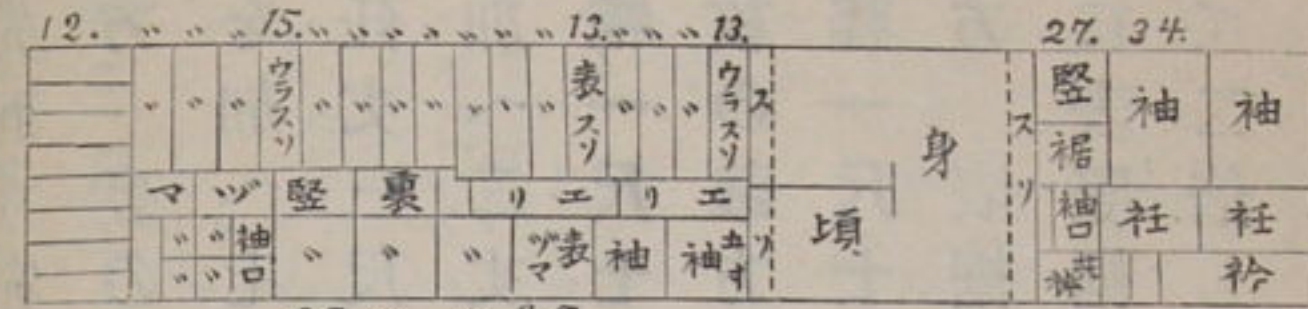
算 式

身丈 41, × 2 = 82, 總尺 164, - 82, = 82,

衿 82, - 50, = 32, 32, ÷ 2 = 16, 袖丈

但身丈四尺一寸。

第三十九圖



袖丈 17, × 4 = 68,

56, × 2 = 112,

裏裾 表裾 15, + 13, = 28,

224, + 12, = 236,

身丈 41, + 15, = 56,

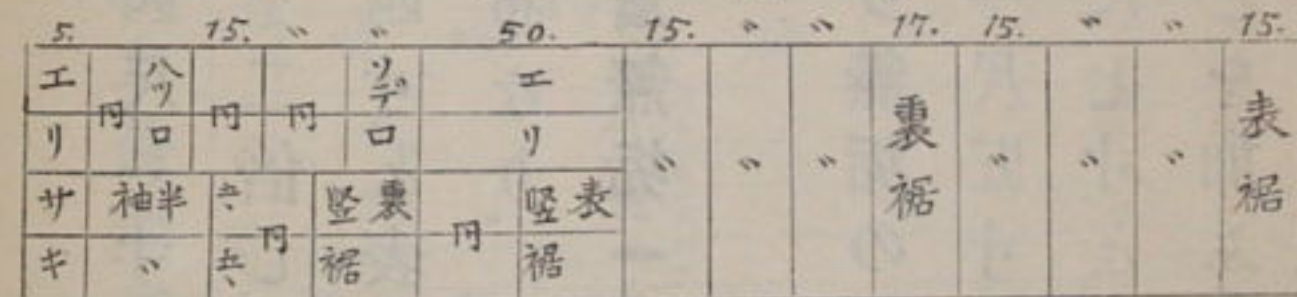
112, + 68, + 27, = 207,

28, × 8 = 224,

236, + 207, = 443,

下着翼の用布 上着用布 三枚の用布

第四十圖



表裾 裏裾 13, + 15, = 28,

25, + 27, + 12, = 64,

128, + 112, + 5, = 245, 用布

28, × 4 = 112,

表裾 裏裾 64, × 2 = 128,

○幅一尺一寸、長さ三丈二尺の縞八丈を以て、女服上着一枚、同

下着廻り一枚分の裁方。(第四十一圖)

積方。袖丈の四倍と衿丈四尺八寸とを總尺より減じ、其残りを四除し五尺一寸となる、此中より下着の裾廻し一尺一寸を減じ、身丈を得るなり。

○幅一尺七寸の布を以て、女服上着無垢一枚、下着比翼廻り無

垢の裁方。(第四十二圖)

積方。袖丈を八倍し、次に身丈に裾廻しの高さを加へて之を二倍し、次に裏裾裾を二倍し、次に表裾に裏裾を加へ、之を四倍し、此の四者及表裾裾の二尺五寸を合せ、用布を知るなり。

○幅一尺一寸、長さ三丈二尺を以て、女服上着一枚、下着の廻り一枚分の裁方。(第四十三圖)

圖 三 十 四 第

リ	工			下	八	後	前	六	袖	袖
リ	工			表	五	後	前	五	袖	袖
				裾					切	ノ
									中	リ
									エ	

二 衿 衿
分 幅 丈
五 三 五
厘 寸 尺

寸 共
五 衿
分 幅
二

五 衿
分 肩
二 寸

八 身
つ 丈
口 四
口 づ
尺 一
尺

算 式

袖 身丈
16, + 40, = 56,
224, - 50, = 27±,
46, ÷ 4 = 11,5 裾廻高

56, × 4 = 224,
320, - 274, = 46,

圖 四 十 四 第

マ	ズ	テ	タ	表	ウ	ウ	前	後	デ	ソ	半
マ	ズ	テ	タ	表	ウ	ウ	表	ウ	デ	ソ	半
三	口	袖	口	衿	袖	口	衿	袖	リ	エ	三
											五

裏 衿
衿 先
裏 衿
の 衿
裏 衿

算 式

袖
17, × 2 = 34,
28, × 4 = 112,

裏 衿 表 衿
15, + 13, = 28,
34, + 112, + 24, = 170,
表 衿 用 布

圖 一 十 四 第

マ	ズ	テ	マ	ズ	テ	後	前	六	前	後	八	袖	袖
マ	ズ	テ	マ	ズ	テ	後	前	五	前	後	五	袖	袖

八 衿
寸 丈
四 尺

二 衿
分 幅
五 三
厘 寸

口 下
着 袖
の

口 下
着 八
つ

七 袖
寸 丈
一 尺

算 式

袖
17, × 4 = 68,
204, ÷ 4 = 51,

320, - 68, - 48, = 204,
51, - 11, = 40, 身丈
裾廻高さ

圖 二 十 四 第

裏	表	裏	表	前	後	裏	表	裏	表
裏	表	裏	表	前	後	裏	表	裏	表

づ 裏 づ 同 衿 づ 衿 八 尺 裏 尺 表 裾 五 衿 裾 共 づ 衿 七 衿
、 尺 の 幅 丈 先 七 堅 五 堅 廻 分 肩 廻 衿 先 寸 丈 丈
五 廻 四 五 五 口 寸 裾 寸 裾 二 三 五 づ 三 五
寸 シ 寸 尺 寸 宛 二 づ 三 寸 尺 寸 尺

算 式

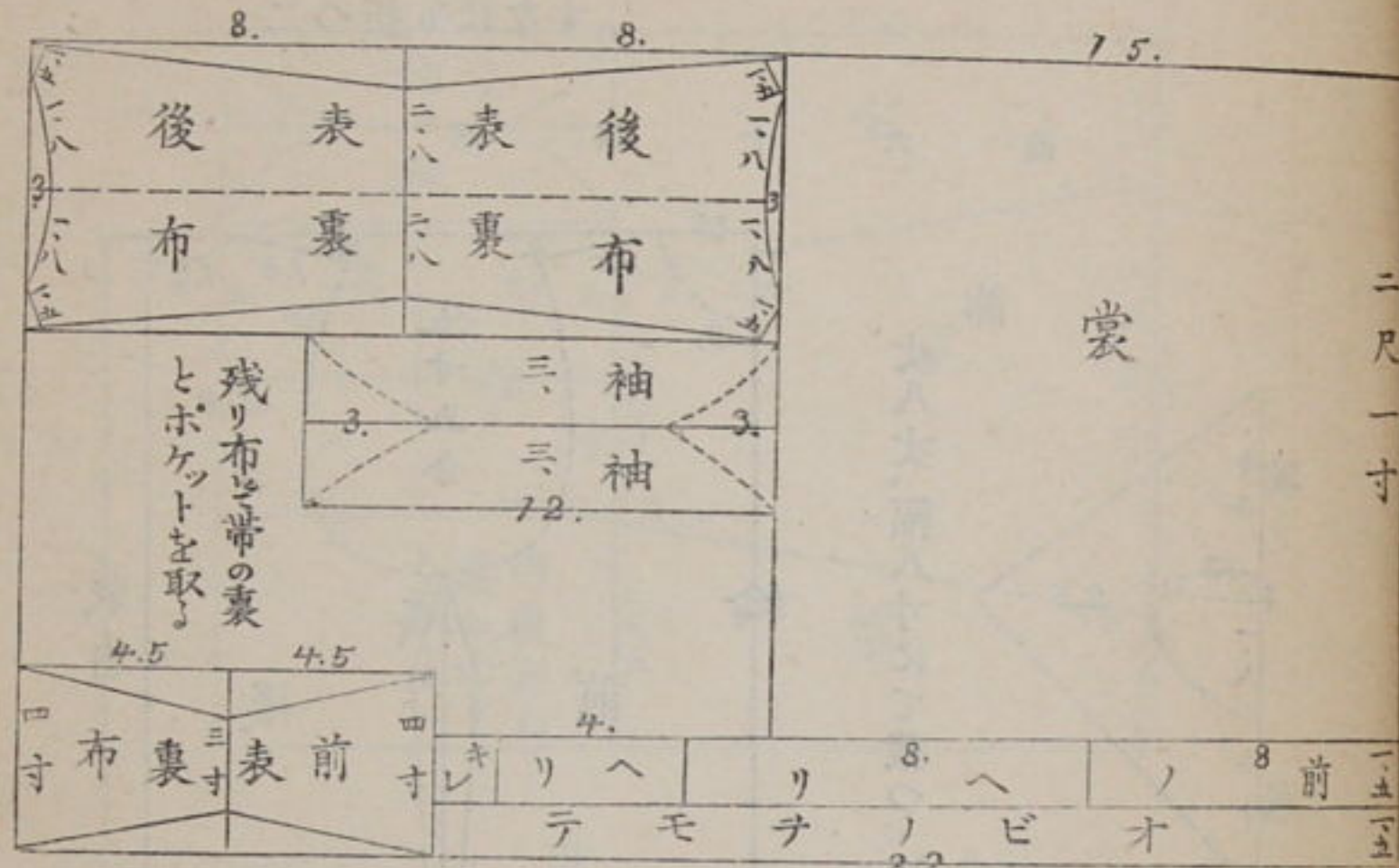
17, × 8 = 136,
56,5 × 2, = 113,
裏 衿 裏 衿
13, + 15, = 28,
136, + 113, + 54, + 112, + 25, = 440, 用 布

身 丈 裾
41,5 + 15, = 56,5
27, × 2 = 54,
表 衿 裏 衿
28, × 4, = 112,
表 衿 用 布

の歳八七て以を布の寸一尺三さ長ド一ヤ一幅〇

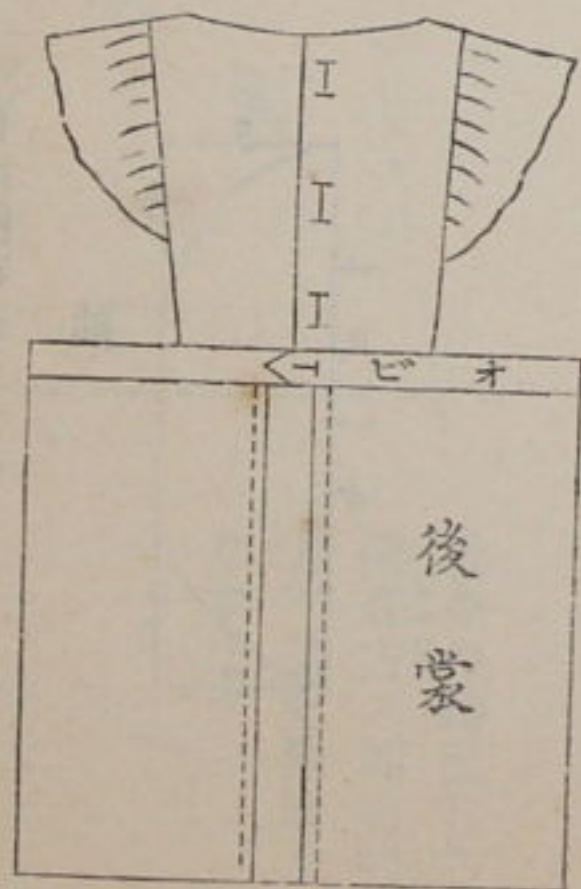
方裁の掛前洋西

圖 五 十 四 第

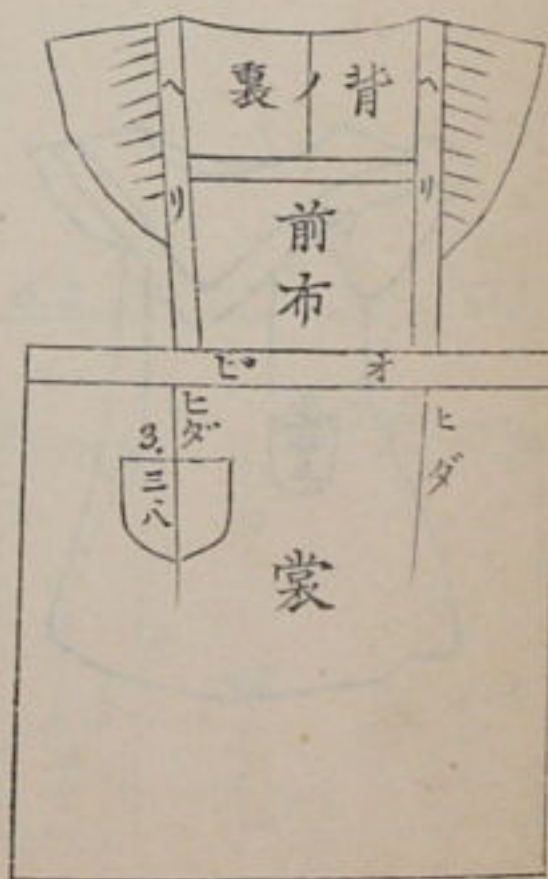


八縁を四本を八縁
寸と二寸丈
す本を一と寸

面 後



面 前



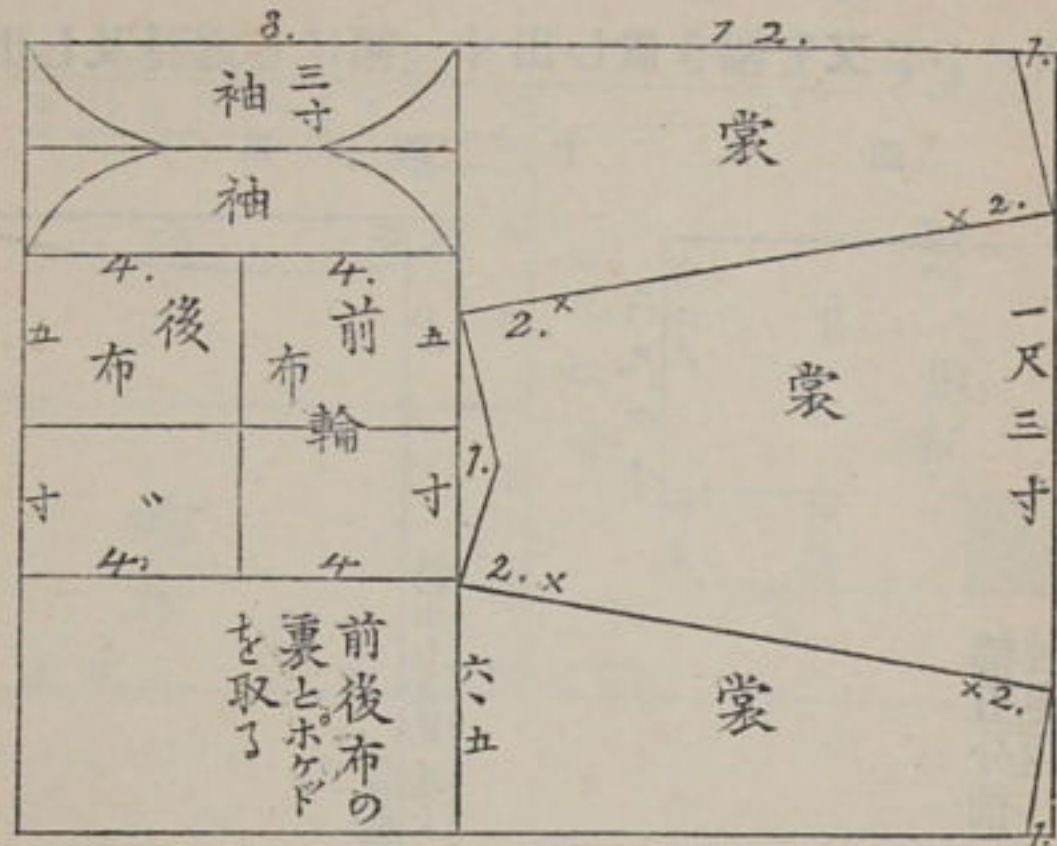
出来上り圖

積方。袖丈と身丈とを合せて四倍し、之に衿丈五尺を加へて總尺より減じ、残りを四にて除せば、裾廻しの高さを得。
 〇幅一尺三寸の布を以て、無垢廻りの裁方。(第四十四圖)
 積方。袖丈の二倍と表裾に裏裾を加へ、之を四倍せし者と、表縦裾の二尺四寸とを合すれば、用布を得るなり。
 〇子供着物揚の仕方。
 腰揚は衿山より裾口を一寸五分先に出して二つに折り、其真中を山になして、前の方を二分程多くするを並とす、又肩揚は二三歳なれば衿付より二分はなし、六七歳なれば、脊縫より三寸二三分を山となし、十四五歳なれば、脊縫より三寸八分、或は四寸の處を山となし、十七八歳なれば四寸二三分を山にす。

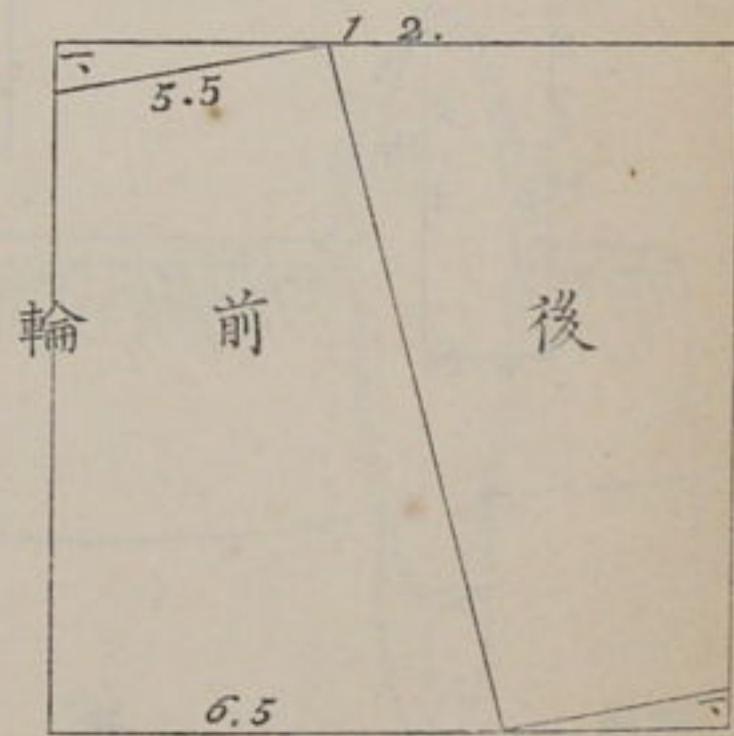
西の歳五四て以を布の尺二さ長ド1ヤ一幅〇

方裁の掛前洋

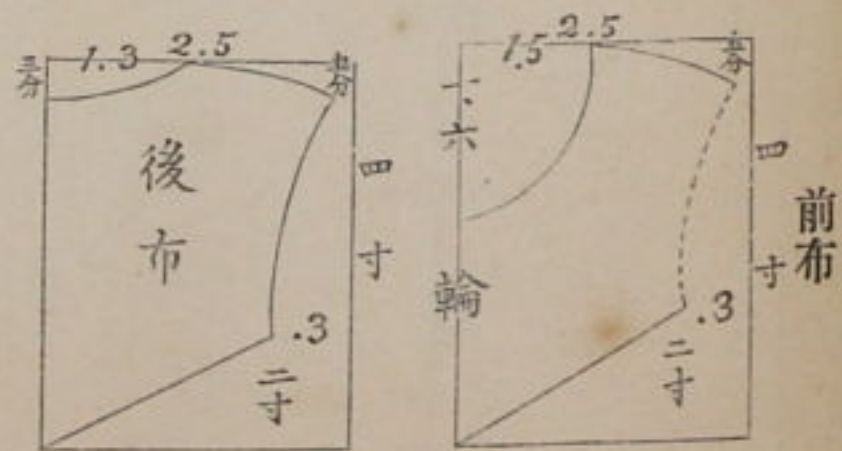
圖七十四第



出来上り圖



裳の裁方
一尺二寸



後布の持出しの
附合方(即右の
方)は充分廣く
なす。

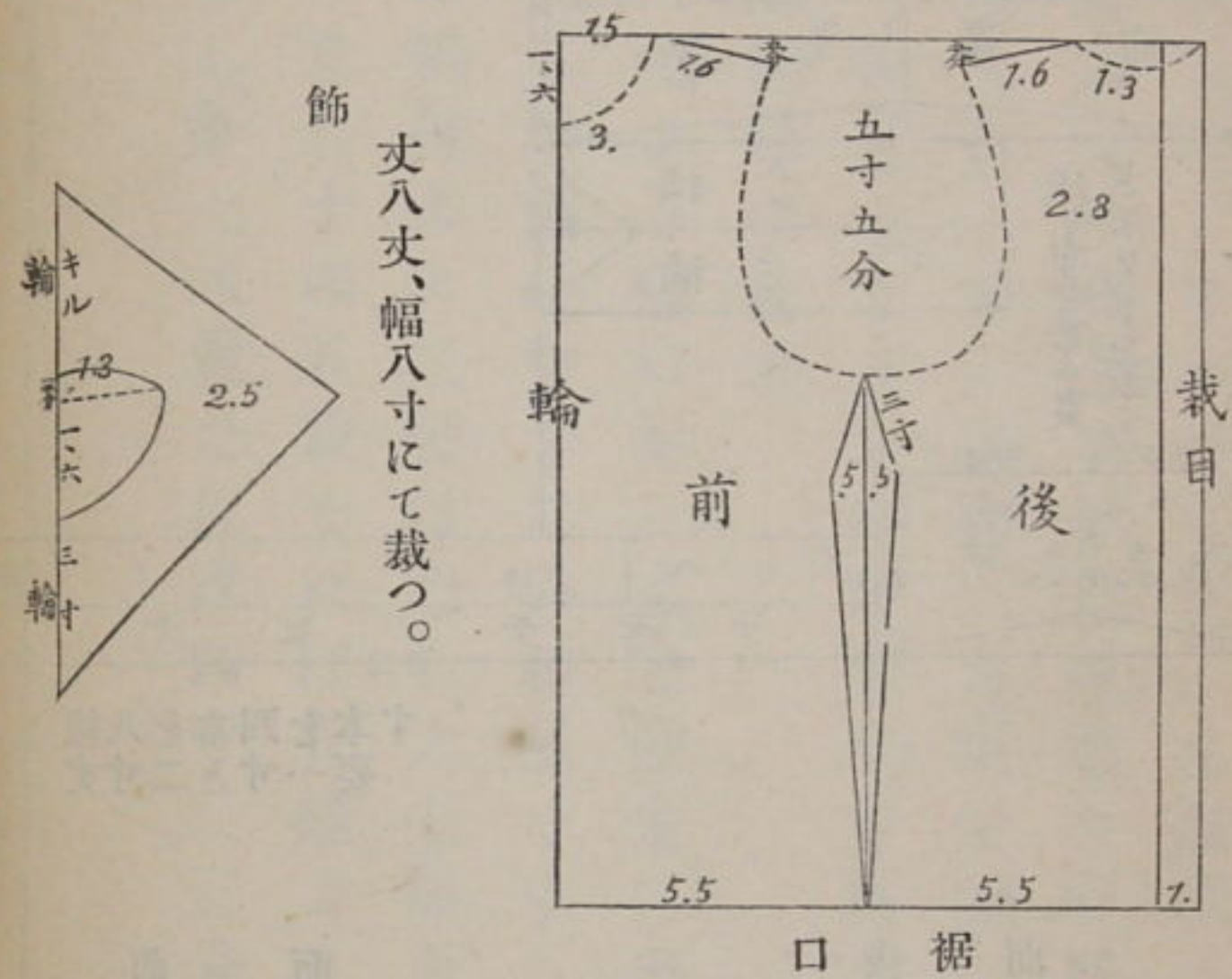
の歳五四て以を布の寸六尺二さ長ド1ヤ一幅〇

方裁の掛前洋西

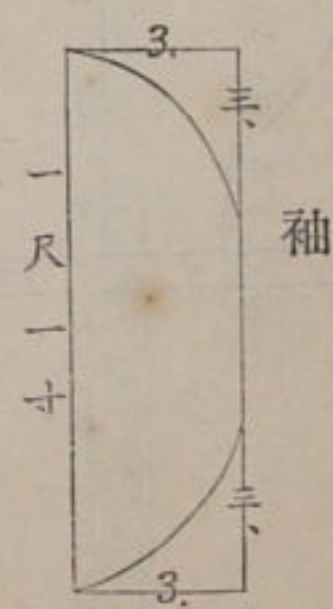
を幅に表中し落裁に寸七尺一さ長ド1ヤ一幅

。すなにも折つ二

圖六十四第



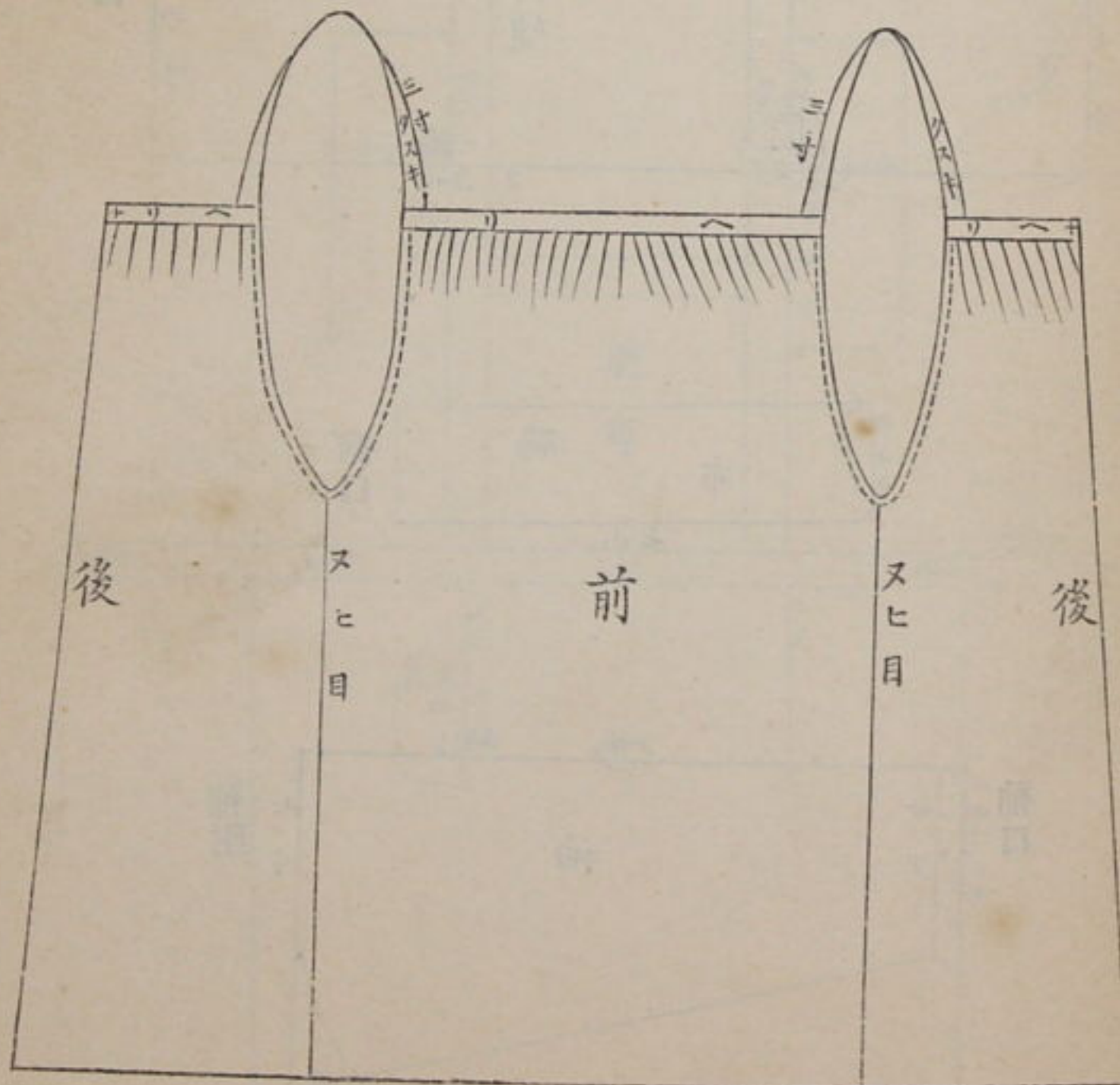
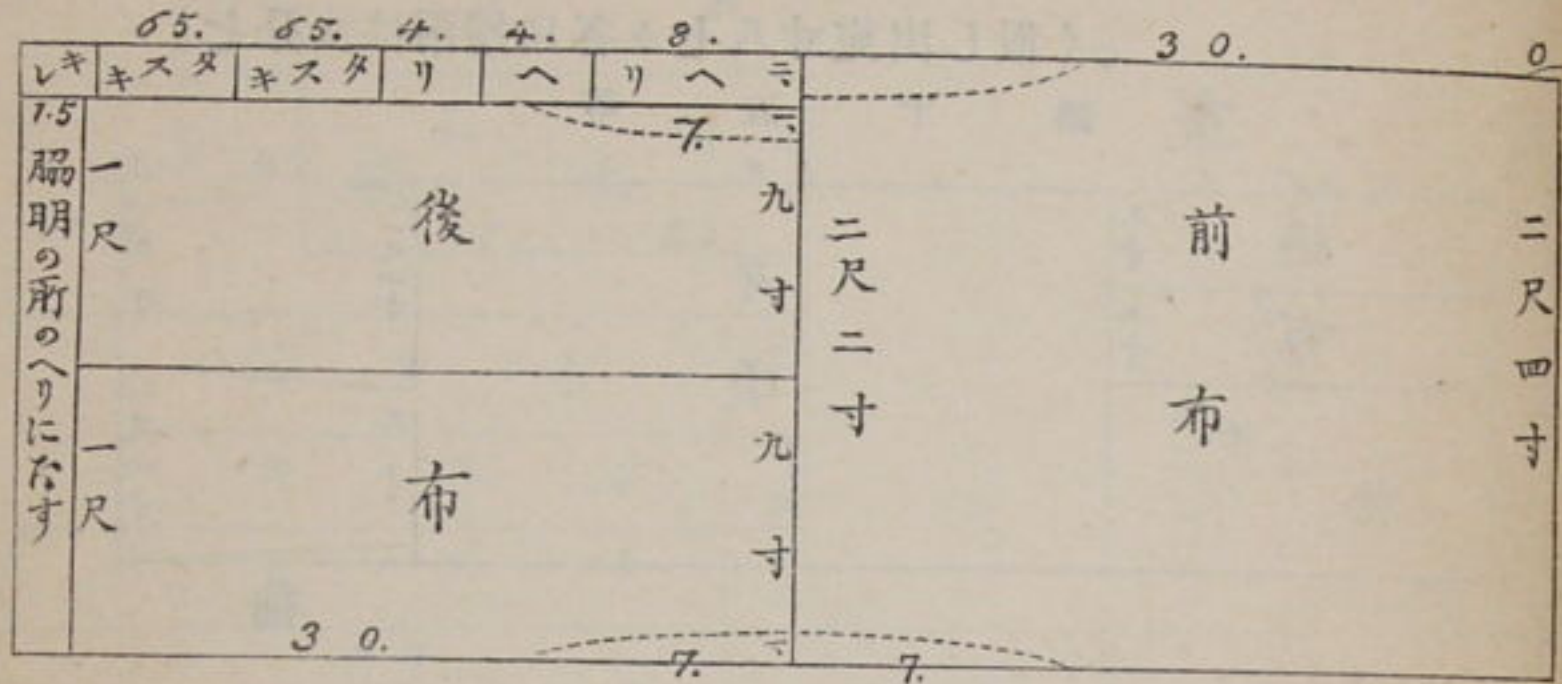
出来上り圖



袖は横布にてなす

料て以を布の分五寸一尺六さ長ド1ヤ一幅〇
 方裁の掛前用理

圖 九 十 四 第

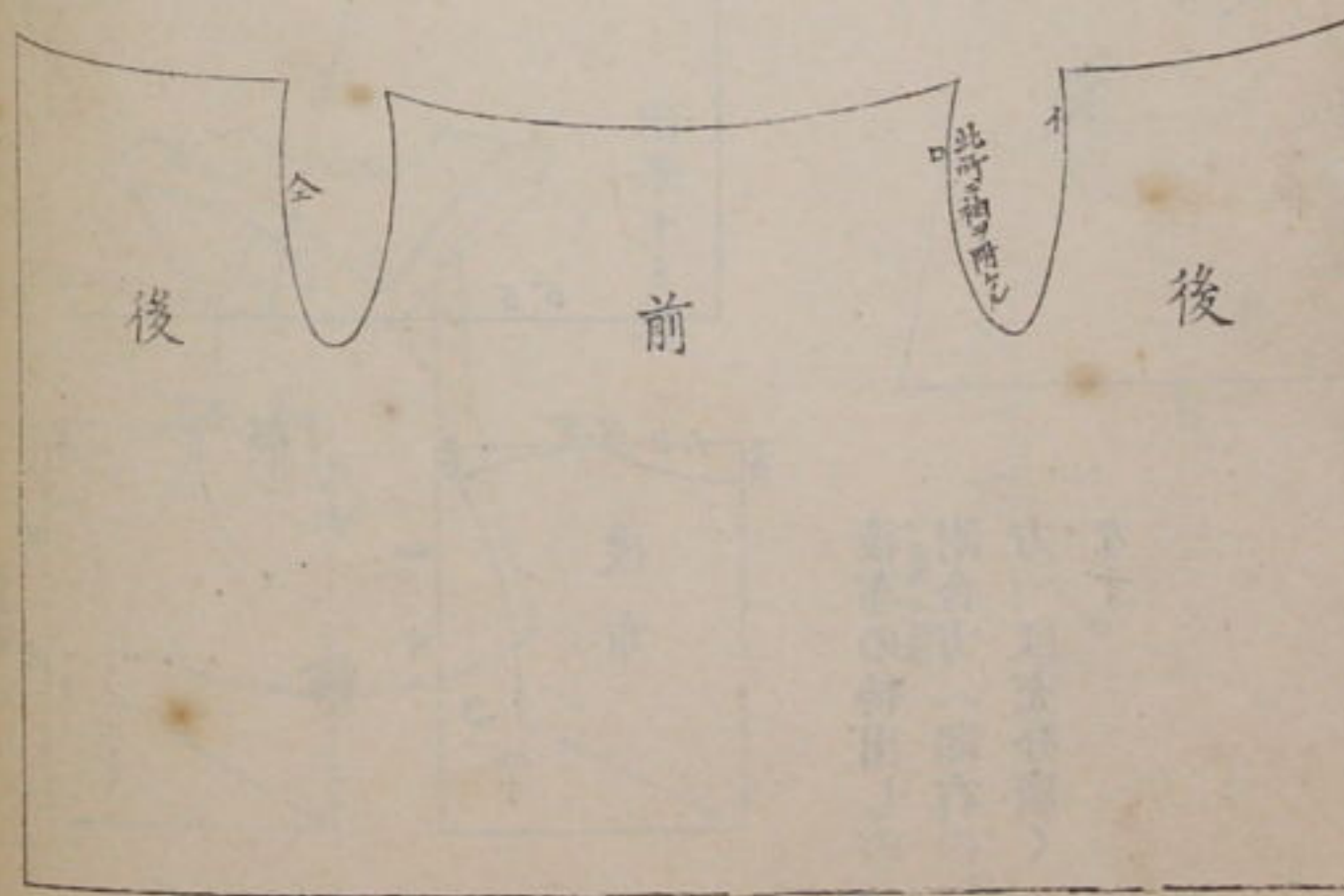
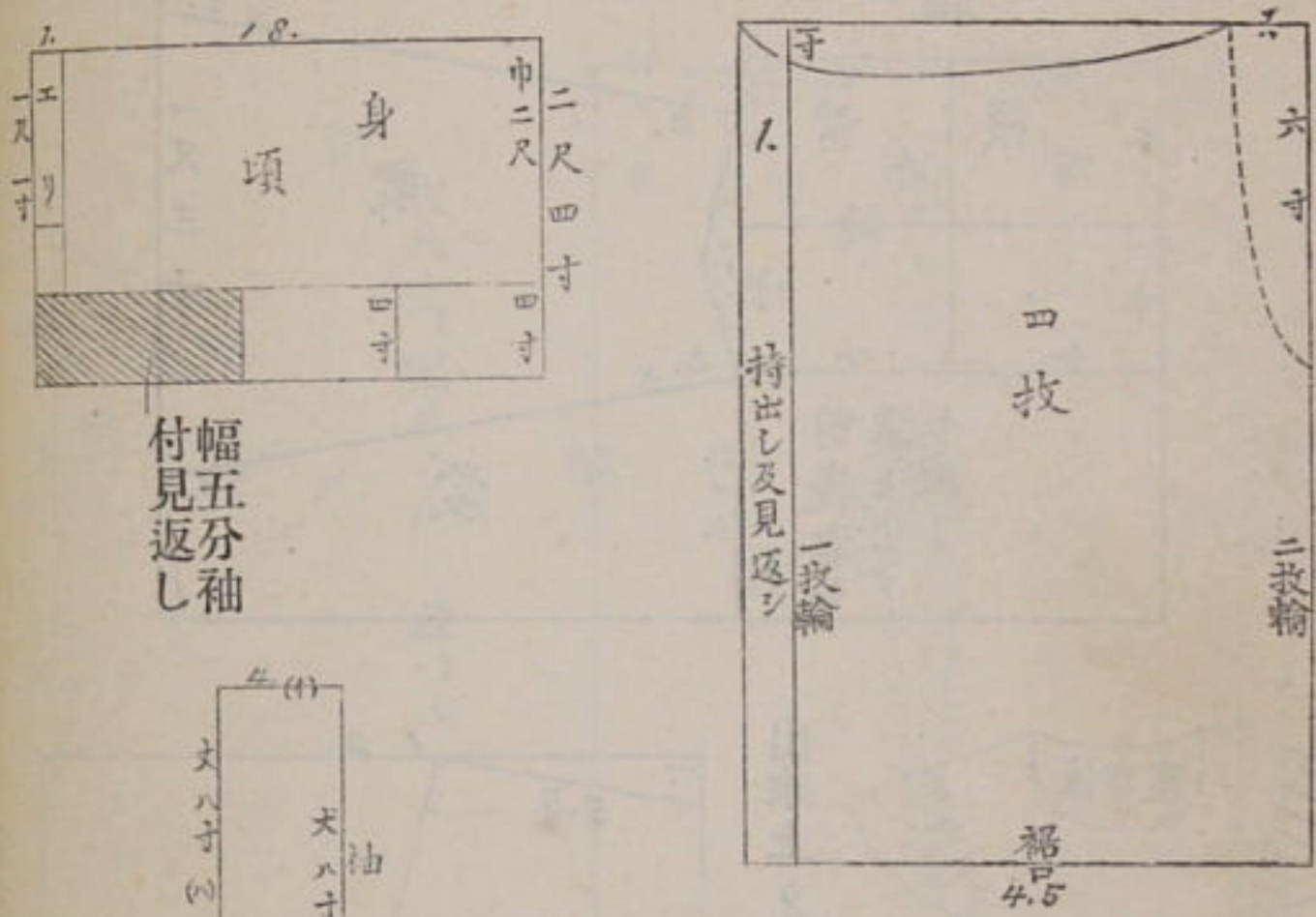


出来上り圖

歳六五て以を布の寸八尺一さ長ド1ヤ一幅〇
 方裁の掛前園稚幼の

しなにり折つ二を幅に表中し落裁尺二幅りよ内の布用
 〇る折につ二又を幅き置し出寸一幅にし返見及し出持

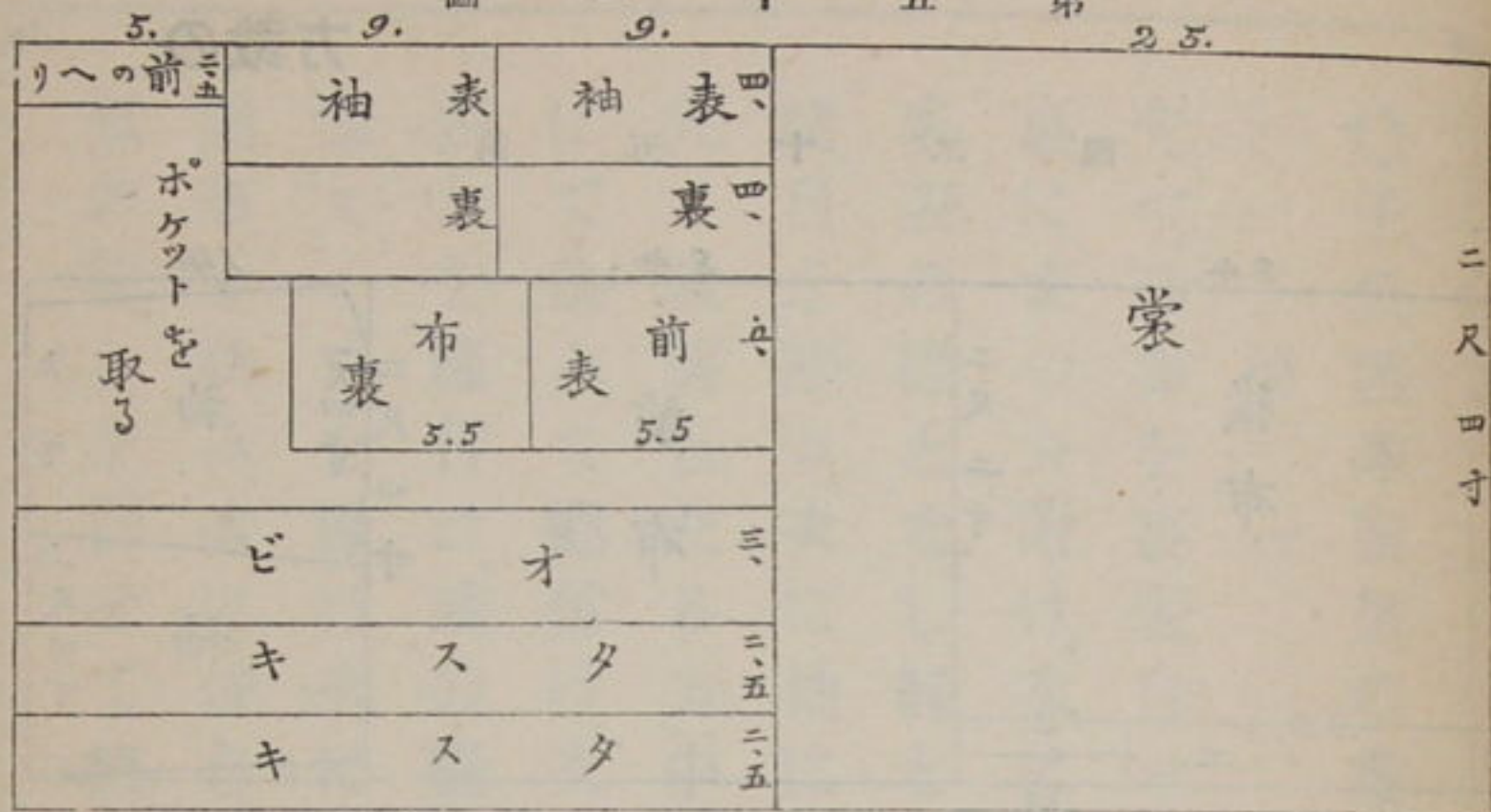
圖 八 十 四 第



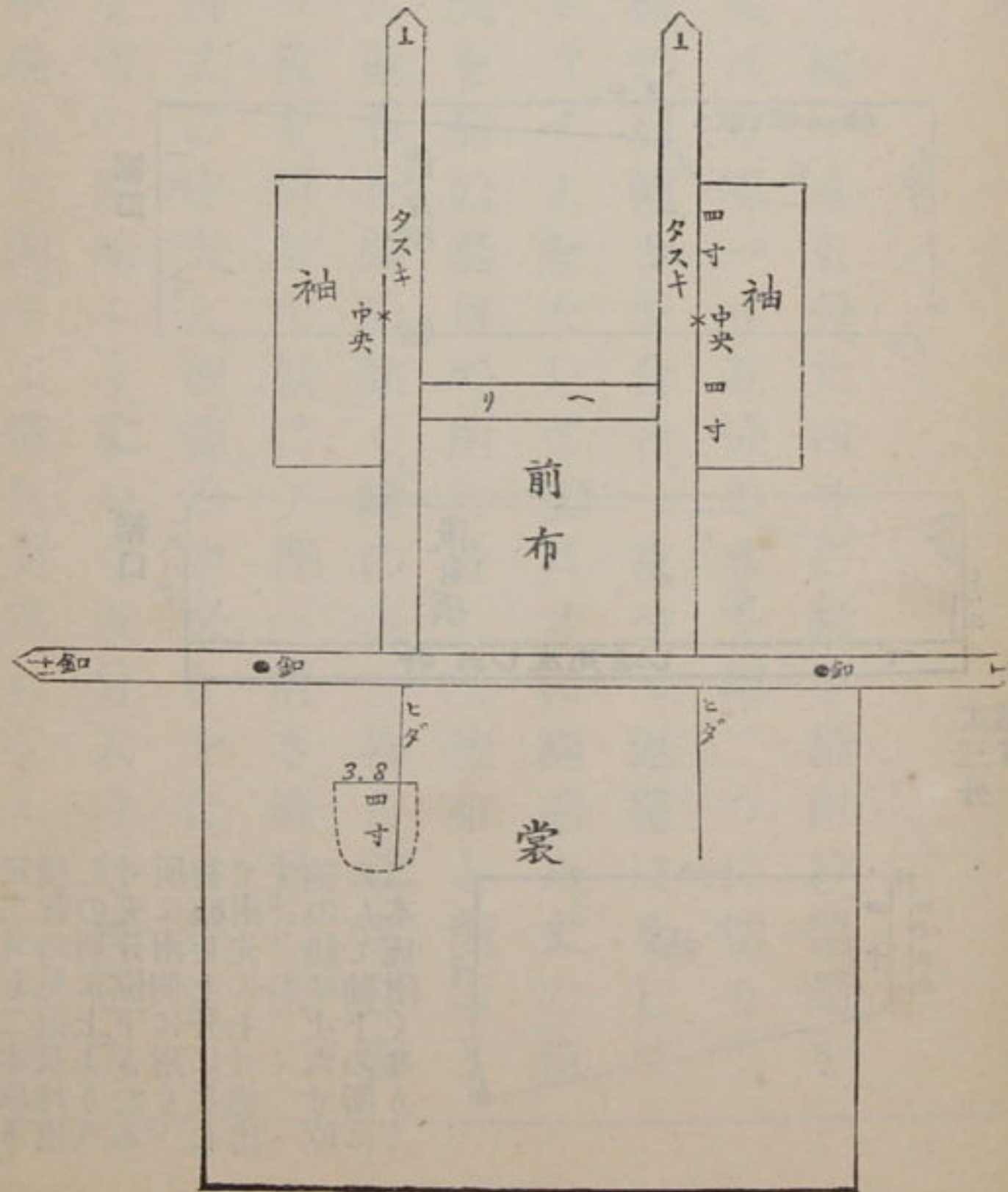
袖広けたる圖

掛前理料て以を布の寸八尺四さ長寸四尺二幅〇
方裁の

圖 一 十 五 第



33.



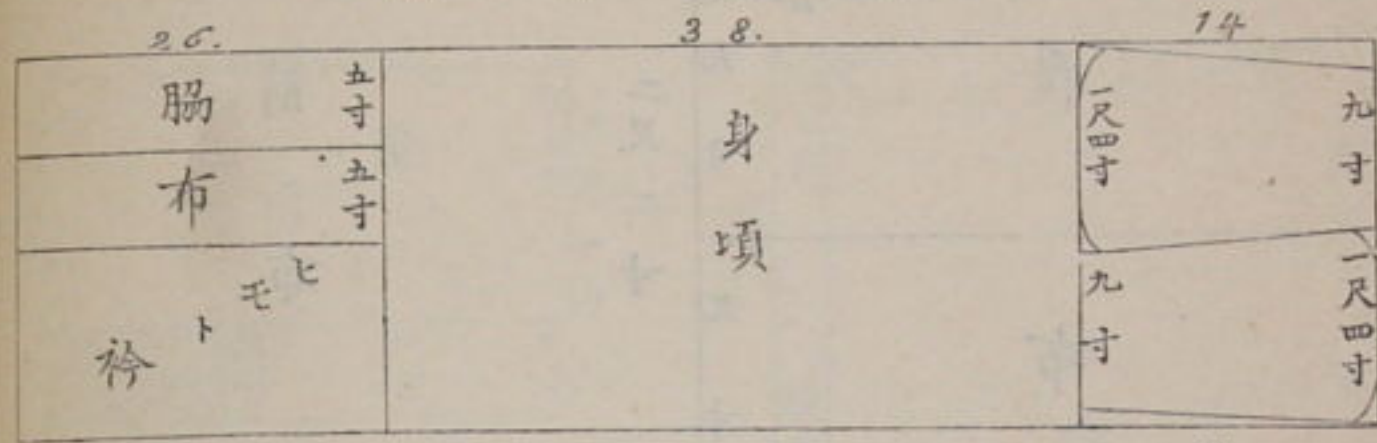
出来上り圖

用理料て以を布の寸八尺七さ長ド1ヤ一幅〇

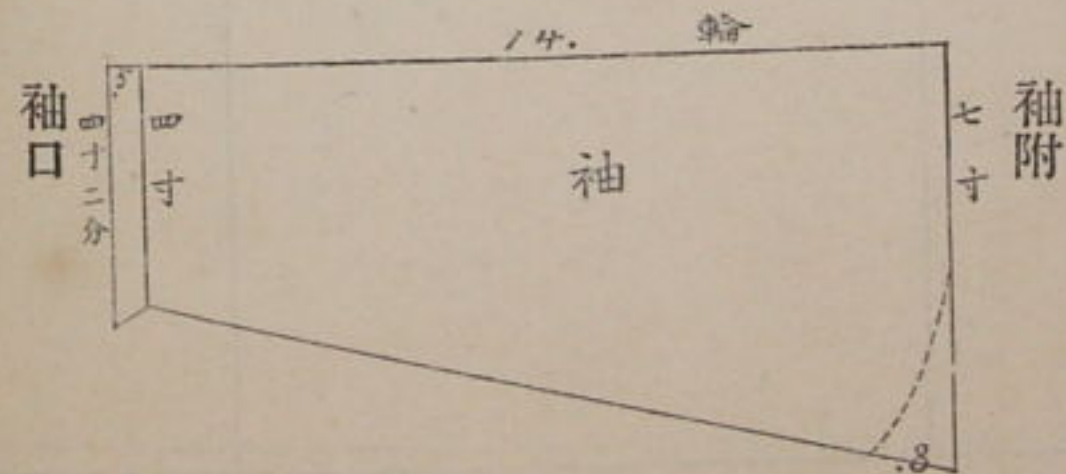
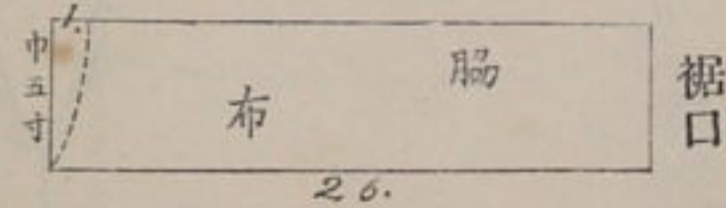
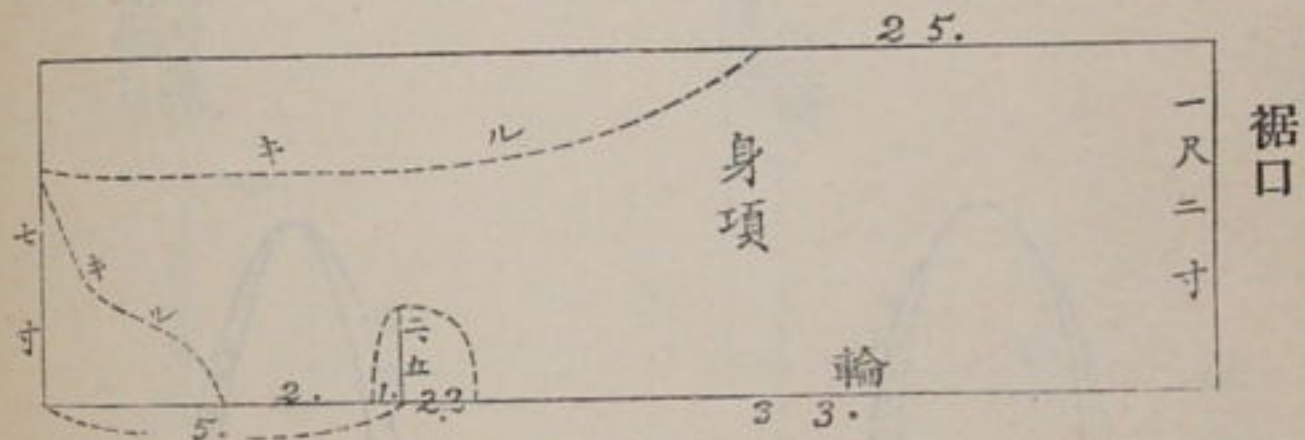
方裁の掛前

は幅衿附を紐の位寸二尺一さ長分五幅に先の布脇兩
〇く置し出宛寸八七々各に端兩は丈分七

圖 十 五 第



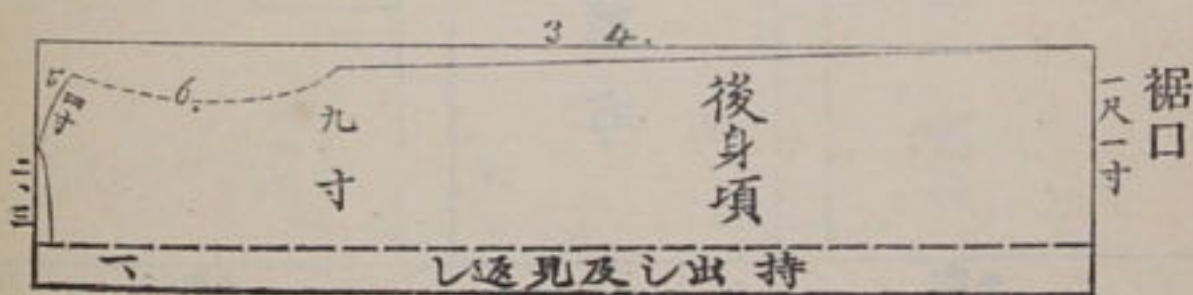
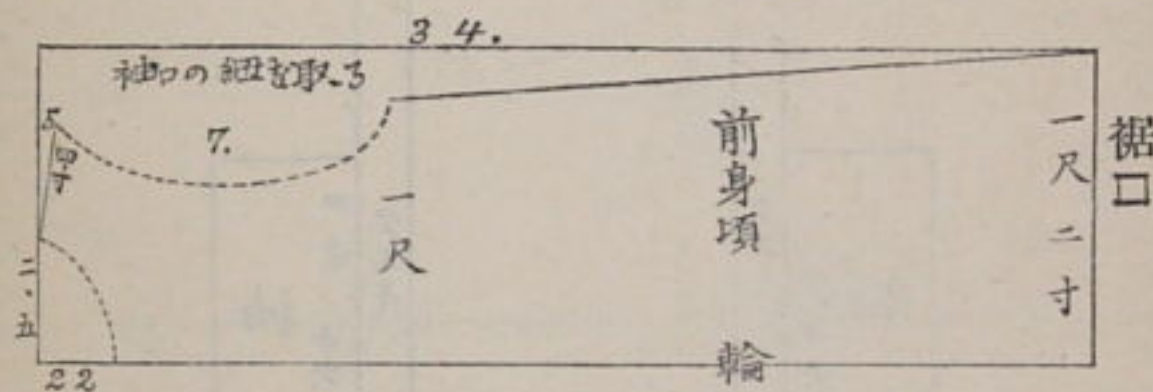
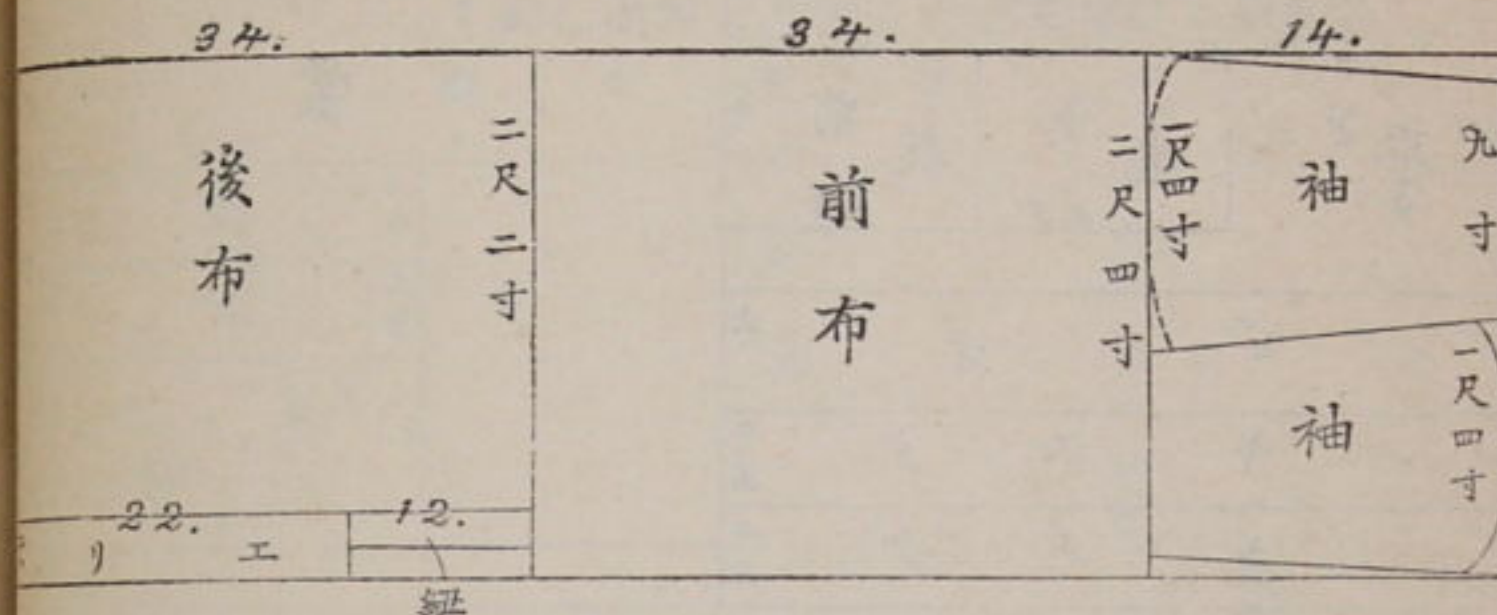
袖



掛前理料て以を布の寸二尺八さ長ド一ヤ一幅〇

方裁の

圖 二 十 五 第



丈三分
落す



紐は幅五分、長さ二尺二寸を二本取り、後背の見返及持出しの所に上より八寸五分位下りたる所に両側に附く。給幅を七分にし、袖の紐は丈六寸位にして袖下の所に二本宛附くなり。

〇子供西洋前掛の縫方。

第一

先づ前布を裏表合せて幅一寸五分、丈四寸の縁を縫付け、他端を裏にまつり附け、次に丈八寸、幅一寸五分の布を幅二つに切りて、裏表の縁となし、縁と後の肩幅とを合せ、一枚づゝ返縫になして縫目を割り、次に袖にギャザーをなして丈八寸に縫縮め、丈の(但丸く裁落したる方)中央を肩の縫目の所になして、後布と前縁とにて狭みて縫付け、次に前布を圖の如く、縁の表一枚と、前布の裏表とを縫付け、残の縁一枚を、折りて躰にて押へ置き、縫目の所に飾ミシンを掛け、次に帶丈の中央と、前幅の中央とを合せ、帯にて前布を狭み、次に後布を帶の兩端より、丈一寸五分入りし所と、後布の輪とを合せて狭み、端より端まで縫ひ、引返してミシンを掛

け、次に裳の切の両端を細く三つ折りになしてミシンを掛け、次に裾口も三つ折りになしてミシンを掛け、次に裳の前にて幅の中央より二寸づゝ離れし所を山になして、幅五分の稜を二つ取りて帯の表に縫付け、次に裏を躰にて押へて飾ミシンを掛け、次に右の方にポケットをミシンにて縫付け、次に後衿肩を裏表共丈一分五厘づゝ布の間に折返し、表よりミシン縫をなす。釦穴は、右後布丈を四等分して、豎に三つ明け、右後の帯の端に横に一つ明け、穴に合わせて釦を付くるなり。第四十五圖を参照すべし。

其二

始め身頃を出し、後の左の方を幅一寸裏に折返して、其端を幅二分折返して見返しとなし、右を持出しとなして、左後幅より五分

廣くして裏に折り返し、其端を折りて、左右共ミシンを掛け、次に裾を、始め三分に折り、次に五分幅となして、裏の方に折返し、飾ミシンを掛け、次に前後の肩を縫合せ、其縫目を左右に割り、其端を折りて表より飾ミシンを掛け、次に袖の眞直なる方に、レース若くは共布のギャザーを縫付けて、丸く裁ちたる方を丈八寸位に縫縮め、身頃に縫付け、脇明の残は細く見返しを付け置き、次に飾布にレースを縫付けて、身頃の顎と飾布の顎とを合せて針を刺し、飾と身頃と布五分の見返しと三枚一所に縫ひ、次に見返し幅を二分位になしてまつり付け、次にポケットをミシンにて附くるなり。(第四十六圖)

釦穴は左後衿肩より、五分下りて一つ横に明け、次に三四寸間を置きて三つ横に明け、右の方は釦を穴の數だけ附くるなり。

第三

第一に、後身頃の五分幅の廣き方を、右になる様に前身頃の肩と後身頃の肩とを縫合せ、其縫目を左右に割り、次に袖にレース又は共布のギャザーを縫付け、次に袖を前後の表身頃に縫付け、(但袖は六寸位に縫縮める)裏身頃をまつり付け、次に裳の布の幅の狭き方を上になる様に縫合せ、後の方に折を返して飾ミシンを掛け、其時に上の方を切込みの所より、上は左右に三つ折りになしてまつり付け、次に後布の兩端を細く三つ折りになしてミシンを掛け、次に裾口を三つ折りになしてミシンを掛け、次に裳の上の方を身頃の幅丈に縫縮めて、前後の表身頃に縫付け、裏身頃の端を折り、表より飾ミシンを掛け、衿肩と顎の所を裏表共縫代だけ布の間に折返し、ミシンを掛け、次にポケットを縫付け、次に

左後身頃に衿肩より五分下りて穴を横に一つ明け、残を裳と身頃の縫目迄とを三等分して二つ明け、釦を穴通りに付け、裳の脇を二寸縫ひ残せし所に門止めをなすなり。(第四十七圖を参照すべし)

第四

始め左後の方を、裏に幅一寸折込して、上り幅五分になる様三つ折になし、次に右後の方は、左より幅五分廣くなして、持出しとして左右共飾ミシンを掛け、袖には飾を付けて、袖の(イ)と身頃の(イ)とを合せて待針を刺し、次に袖の(ロ)と身頃の(ロ)とを合せて待針を刺し、見返布を五分となして、身頃と見返しとにて袖を狭みて三枚一所に縫ひ、見返し幅を上り二分位になしてミシンを掛け、次に衿を幅一寸、丈一尺一寸位に裁ち、身頃と袖との(ハ)の所を衿

の長さだけに縫縮めて衿を縫附け、中に打紐を通して、衿幅上り三分位になして、表より飾ミシンを掛け、(但打紐の長さは一尺五寸位になす)次に裾口は始め幅三分に折り、次に五分になして、表より飾ミシンを掛くるなり、次に左右の後に、上より五寸位下りたる所に幅二分、丈五六寸の紐を縫附くるなり。(第四十八圖)

○料理用前掛の縫方。

第五

第一に後身頃と前身頃とを合せて脇を縫ひ、後ろの方に折りを返して飾ミシンを掛け、次に裾口も幅五分の出来上りに三つ折りになしてミシンを掛け、脇明の七寸繰り落したる所に、幅二分の縁を取り前布の上部を八寸の縁を取るだけに縫縮めて、縁幅を上り七分位になして縫附け、両端を縫ひ、裏の端を折りて表よ

りミシンを掛け、次に後の上部を丈四寸に縫縮めて縁を縫附け、両端を縫ひ、引返して表を出し、裏を縫代だけ折返して表より飾ミシンを掛け、次に裨を縫ひ、表を出して圖の如く前の端と後の端との裏に縫附け、右後の端に釦を附け、左後の方に穴を明くるなり。(第四十九圖)

第六

第一に袖下を袖口より幅五分入りし所まで縫ひ、此所にて前袖だけに豎に一分の切込みを入れ置き、折りは後の方に返してまつり附け、袖口幅にて五分縫残せし所は袖下の縫代だけになして前幅に折返し、表よりミシンを掛け、袖口は五分裏に折返し、中にテープを長さ一尺五寸に切りて通し、折返したる端を折りてまつり附け、次に脇布の丈の短き方を三つ折りになしてまつり

附け、長き方を身頃の脇に縫附けて脇布の方に折を返してまつり附け、次に裾口を幅三分位に三つ折りになしてまつり附け、次に袖を附け、身頃の方に折りを返してまつり附け、後の袖付の残りし分は、袖附の止りに切込みを入れて、袖の方に返し、三つ折になしてまつり附け、次に幅二寸、丈一尺六七寸の紐を衿の如く縫附けて、兩端に七八寸位宛出し置きて裏にて新附け、次に幅五分長さ一尺二寸の紐を紵け、脇布の兩端に縫附くるなり。(第五十圖)

第七

第一に裏表の前布に縁を縫附け、上り幅八分より一寸位になして飾ミシンを掛け、次に袖下を裏表合せ、前後別々に縫ひ、引返して飾ミシンを掛け、裨丈の中央と、袖丈の中央とを合せて、裨を幅二つに切りて袖を狭みて裨丈の端より端まで縫附け、次に前布

を裏表共に裨の表一枚に縫附け、裏は襞にて押へて飾ミシンを掛け、次に裳の兩端と裾口とを三つ折りにして飾ミシンを掛け、次に裳の幅の中央より左右へ幅三寸づゝの所を山になして、幅五分の稜を左右に一つづゝ取り置き、帯を出し、帯の裏表にて前布を狭みて縫ひ、其時に帯の端より端まで縫ひ、引返して帯の表一枚と裳とを縫附け、裏を襞にて押へて飾ミシンを掛け、次にポケットを縫附るなり、次に裨の端に釦穴を豎に一つ明け、帯の左の方に穴を横に明け、次に右の方に釦を附け、裨より帯の端までの中央に釦を一つ宛附くるなり。(第五十一圖)

第八

第一に袖下を縫ひ、前の方に折を返してまつり附け、袖口は裏の方に折返してまつり附け、次に前後の肩を合せて、縫目は左右に

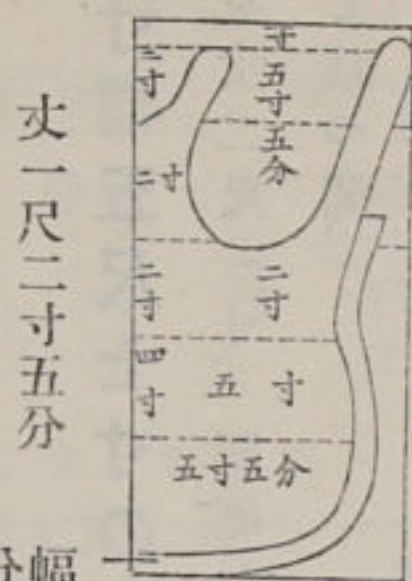
割りて、端を折りて飾ミシンを掛け、次に脇を前後合せて縫ひ、前の方に折を返して表よりミシンを掛け、次に後布の左の方を見返として裏の方に幅一寸折返してミシンを掛け、右の方は持出しとなし、左より幅五分廣くしてミシンを掛け、次に袖を付け、折は袖の方に返してまつり付け、次に衿丈の中央と、顎の中央とを揃へて衿丈の残りには左右の後に長く出し置き、衿を付け、次に衿幅を上り七分になして両端を縫ひ、引返して表よりミシンを掛け、次に紐幅五分長さ一尺二寸に二本紘付け、後の見返し及持出しの所にて、上より八寸五分下りたる所に両側の裏に付け、次に袖口の方にて、袖下の縫目より五分上りし所に前後別々に幅三分丈六寸位の紐を縫付け置くなり。(第五十二圖)

○五六歳の子供西洋前懸の裁方。

(第五十三圖)

但男女共此形を用ふ。

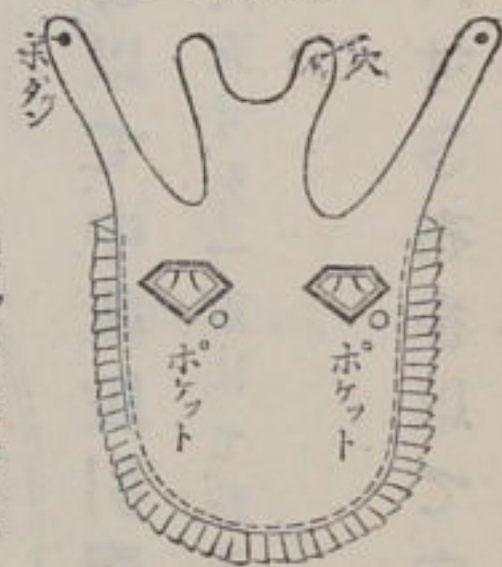
第五十三圖
幅七寸



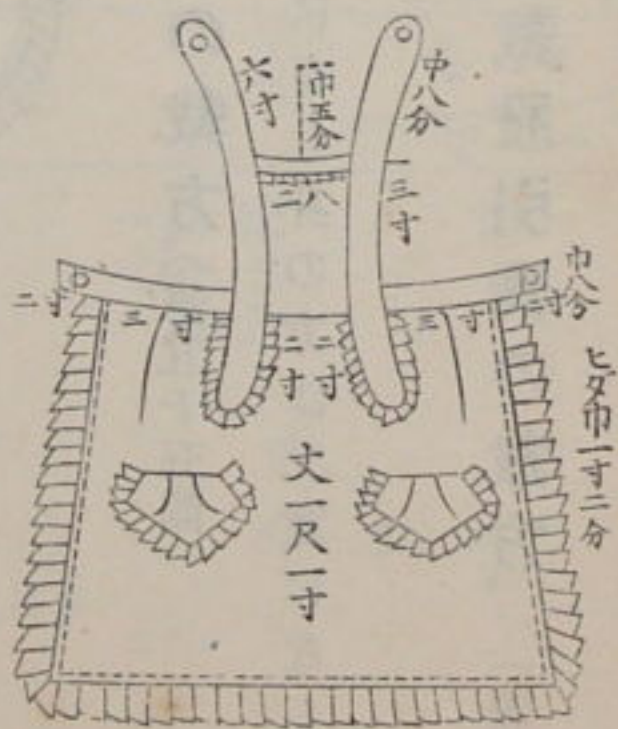
丈一尺二寸五分

幅五分見返し

出來上り圖



見返しは裏に付る



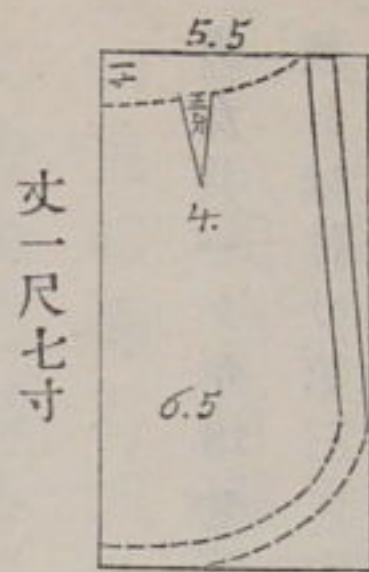
見返しは裏に付るなり

男女共一ヶ年増せば丈及幅も一寸増すなり、縫方は第一にポケット、第二に稜を縫付け、第三に穴縫りをなして釦を付るなり。
但總てミシン縫なれども、小針にせば手縫になすもよし。

○丈一尺八寸五分幅一尺四寸の布を以て、大人女西洋前懸の

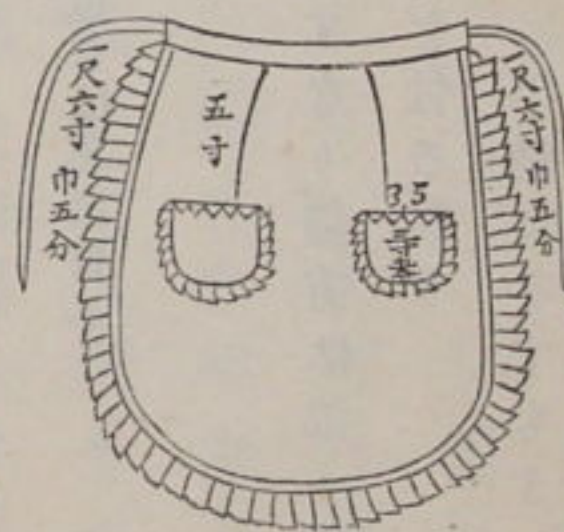
裁方。(第五十四圖)

圖四十五第



見返し
幅三分し

圖り上來出



見返しは裏に付くるなり

○九寸幅五尺七寸の布を以て、中裁股引表の裁方。(第五十五圖)

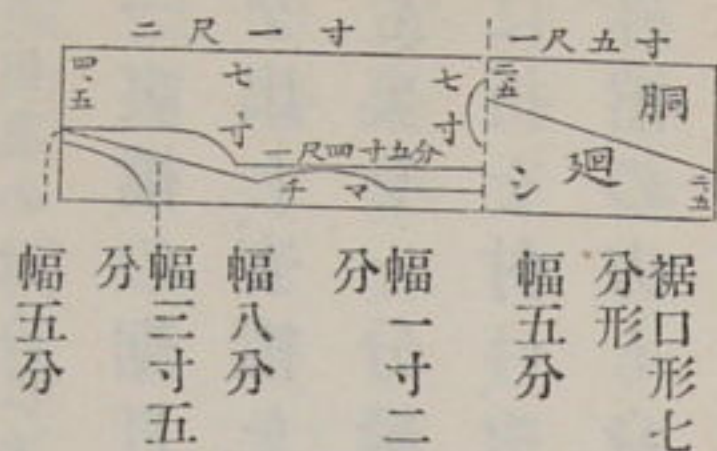
身丈二尺一寸、胴廻し一尺五寸を一重にて、裁違になし、身の方は二重になして裁つ圖。

○幅九寸五分長さ七尺六寸の布を以て、中裁股引表の裁方。(第五十六圖)

五十六圖)

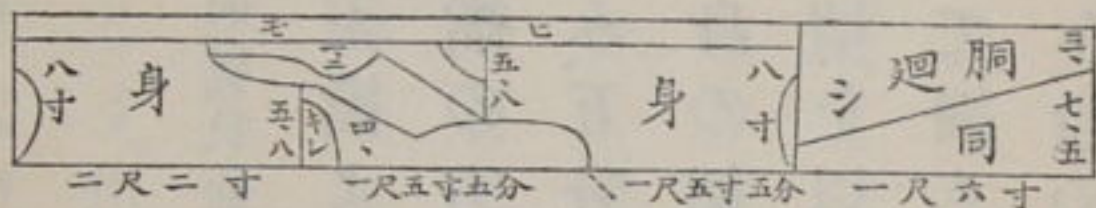
此裁方は切地を一重になしてチヨークを以て圖の如く畫きて裁斷するなり。

圖五十五第



裾口形七
分
幅五分
分
幅一寸二
分
幅八分
幅三分五
幅五分

圖六十五第

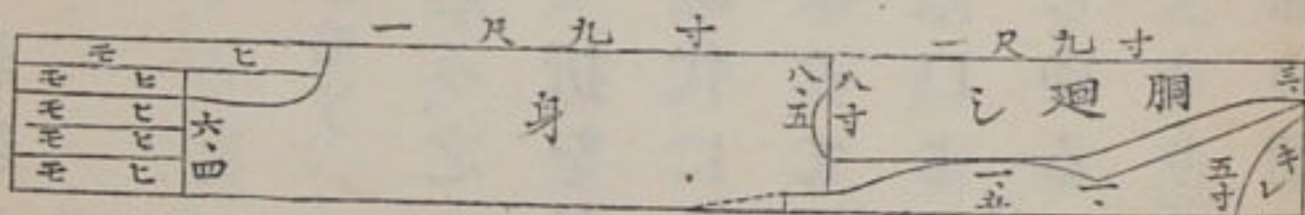


裾口形
八分
幅六分

算式

身丈
 $22 \times 3 = 66,$ $66 + 16 = 82,$
 $82 - 6 = 76,$ 用布
裁違

圖七十五第



裾の形
幅五分
一丈二尺
六寸
五寸輪
に五寸
しに處

算式

身丈 胴廻
 $26 + 19 = 45,$ $45 \times 2 = 90,$
 $90 + 10 = 100,$ 用布
紐

○幅九寸五分長さ一丈の布を以て、股引の表裁方。 (第五十七圖)

布二重にして裁つ圖。

○袷股引の縫方。

但裏の裁方は表と同様、只紐を要せぬのみなれば略す。

第一裏襠の裾口を表襠より一分深く縫込み、之を引返して表の方を出し、表襠を裏襠の方に五厘ふかせて折を付け、次に身の裾口も裏を一分縫込み、五分位間を置きて縫代に裁込を入れ、裏の方に折を付け、次に身の切を以て内襠を挟みて裾口より縫ひ、次に外襠の方も身の切を以て襠を挟みて裾口より縫ひ、(但裾口三寸の間は襠を極めて細く、且襠の切を少しゆるく縫ひ、膝の處は身の切をゆるく縫ひ、股の處は外襠を延すなり)それより上は同様に縫付け、引返して縫目を正しくし、胴廻の切を以て身を挟み

胴廻の廣き方を後に、狭き方を前に、斜になりし處を身に縫付け、又胴廻の直線なる方は、裏を一分縫込み、之を引返して縫目を正しくなし、次に前の胴廻の縫目と縫目とを合せて左の方を上になして待針を刺し、紐は左の方に六七寸、餘は右の方に出して紐を付け、又紵付け、裾口より三寸上に絹絲を二本より合せて前身の方を小針に縫ふなり、若し單なれば身の方に折目を付け、縫込みの端を折り、伏縫をなすなり、但股引に袷、前通し、筒裏、口裏、或は半股引、或は綿入股引等あり、絹布の股引をハッチと云ふ、仕立方は股引と同様なれども、上等社會の着するものにして、股引より太く拵へるをよしとす、但襠を身に縫附くる前に、布の斜に裁ちたる所は引伸し置くなり。

又股引を仕立つる時は、着する人の足の寸法を取りて出來上り

寸法とし、これに縫代と餘裕の三分を加へしものを裁切寸法となす、ハツチの時は六分の餘裕を附くるなり。

○女股引の地質。

(フランネル) (綿ネル) (紋羽)

甲斐絹表に裏をけんどん又は金巾及木綿等を以て仕立ることあり、(但絹のときは綿を入れることあり)是等は冬期に用ふ。

○女股引の寸法の取方。

胯下と胯上とを取りし寸法に、一寸を加へしものを裁切寸法とす、太さは胴廻と股廻と、裾口は足頸より踵に掛けたる寸法に餘裕及縫代等にて二寸乃至三寸を加ふ(但寸法は股の太さ、裾口幅、胯下の長さ等は着する人によりて定む)

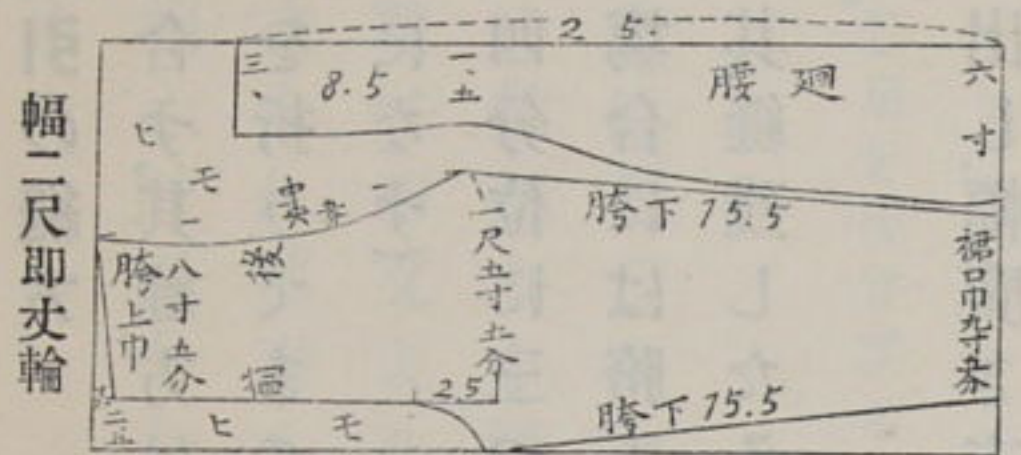
○二尺幅長さ五尺の布を以て大人女股引裁方及積方。(第五十八圖)

積方。二尺幅の布なれば丈の二倍を用布とす。

注意 線通り全部裁切り、残切より紐を取るなり。

但紐幅上り五分、丈五尺内外とす。

第五十八圖

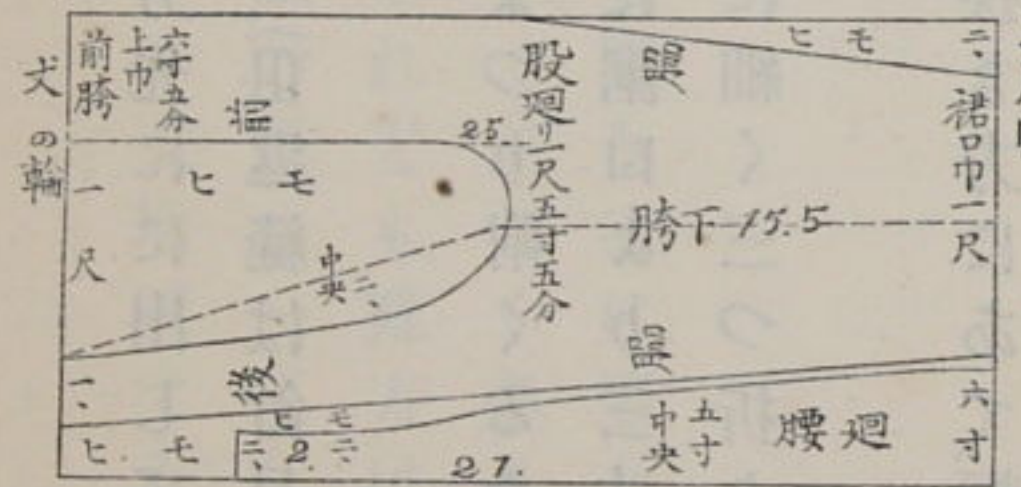


丈二尺五寸

算式

丈 25, × 2 = 50, 用布

裁方の總合圖



丈二尺五寸

○女單股引の縫方。

胯下を縫合す、其縫方は後胯下を一分先に出して返縫になし、縫込の端を折りてまつり附くるなり。(但返縫は針目のきれいなる方を表になす)

裾口を三四分位に三つ折りにしてまつり附くるなり、(但裾口に紐を通す場合には胯下を縫合す時に、裾口より三寸五分或は四寸縫残し其縫残したる所を前後共に細く三つ折りにまつり附くるなり。

胴廻切を出し、幅廣き方を身頃の幅狭き方にあて、幅狭き方を胯上幅の廣き方となし、胴廻の裁目の方を身頃の方より一分先きに出して縫ひ、縫込の端を折りて胴廻の切にまつり附くるなり、左右共に縫ひ上りたる後、胴廻の幅狭き方の縫目と縫目とが重

り合はぬ様に左足を上になし、假に縫附け置き、次に紐切を継ぎ合せ、但割継ぎになし、左右の端を縫ひ置き、紐丈の中央と、左右の足とを重ね合せたる、丈の中央とを合せて、表の方より縫付け、裏にて紵付くるなり。

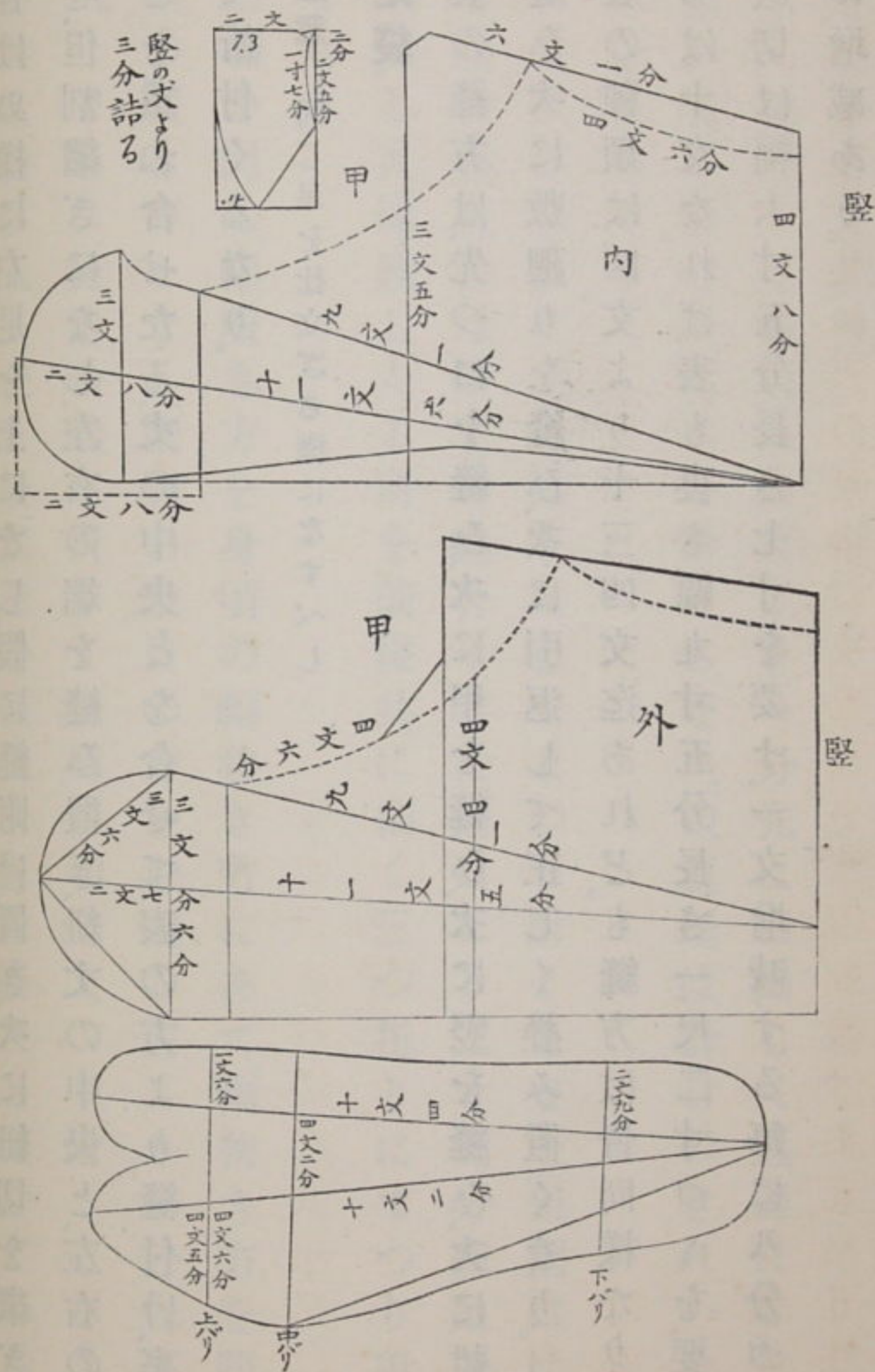
注意 同じ足を仕立ざる様になすべし。

○足袋。

足袋の縫方は、先つ口を縫ひ、次に甲を縫ひ、次に豎を縫ひ、次に裙を縫ひ、次に敷廻りを縫ひ、次に引返して正しく疊み置くなり。

足袋の種類は四文より十三四文迄あれども縫方は皆同様なり、用布は十文なれば表も裏も幅九寸五分長さ一尺二寸づゝを要し、底切は幅六寸五分長さ七寸を要す、一文増減する毎に八分づゝの増減あり。

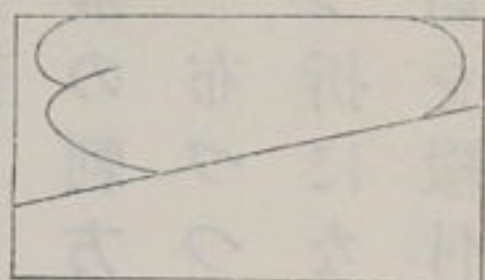
圖九十五第
りなし同と徑直の錢文は文一の袋足



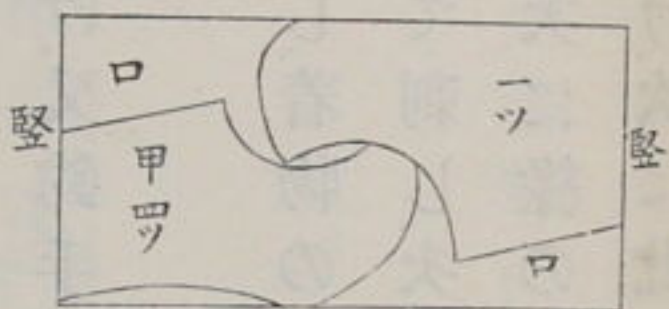
豎

豎

圖十六第
方裁の底



圖つ裁てしなに重二を切



形紙を切
地に當て
線と引き
然る後之
を裁つな
り

○蚊帳

但後及甲に縫目なしの足袋もあり
總て切地を斜に用ふ、之を改良足
袋と云ふ。

ど種々あり、母衣蚊帳は竹を半圓に曲げ、母衣の様になして、之に
合せて切地を裁ちて縫ひ、裾口に半幅或は三つ割の縁を一重付
くるなり、枕蚊帳も竹を四角に曲げ、丈二尺五六寸、幅一尺八寸、高
さ一尺三寸位にして、之に切地を合せて裁縫し、上の四角にヒウ
チを付け、又上の廻りに幅二寸位の縁を新付け、裾口にも半幅の
切を付るなり、又四六の蚊帳は丈五尺、七八の蚊帳は丈五尺五寸

七十の蚊帳は丈六尺位なり、積方は七八なれば七と八を合せて之を二倍し、又之を丈の五尺五寸に乘し、次に天井の切も七に八を乗じ、此二者を加へて用布を知るなり。

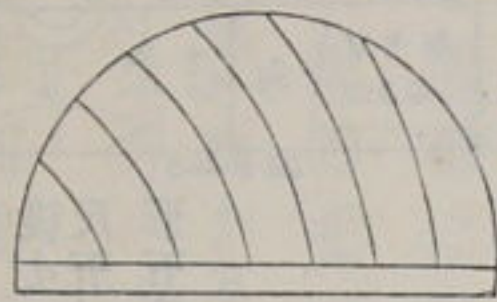
縁の切は紅麻を三つ割にして付け、天井の四角すみ及中釣に木綿幅の四方を斜に裁ちて之を付け、裾口にも木綿一幅を縫付くるなり、若し上等の蚊帳なれば壽寄屋等を以て製し、縮緬或は襦子等を縁及裾口に付け、又釣手の處に紐を綴付くるなり。

○蚊帳の刺方。

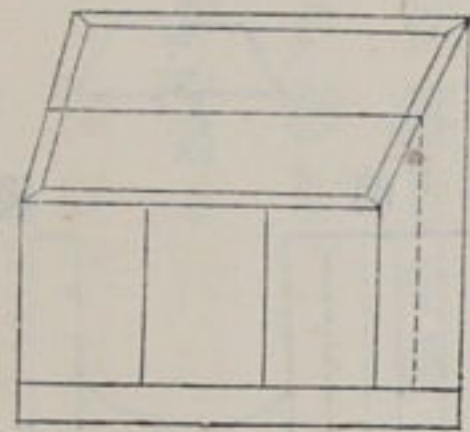
先づ一布づつ刺し、着物の脊縫の様に折を付け、周圍を刺し、裾口を三つ折になして刺し、次に天井の切をも刺し、次にヒウチ及中釣の切を綴付け、次に縁の切に赤絲の心を入れ、之を縁と共に天井の切に刺し付け、次に此縁を廻りの切に拵け、(但四角の處は一

布づつ廻りの切のみに拵付るなり)次に裾口に横幕に切を付け、次に釣手の紐を千鳥懸に綴付け、裾口の釣手の通りの處に乳ちを付くるなり。

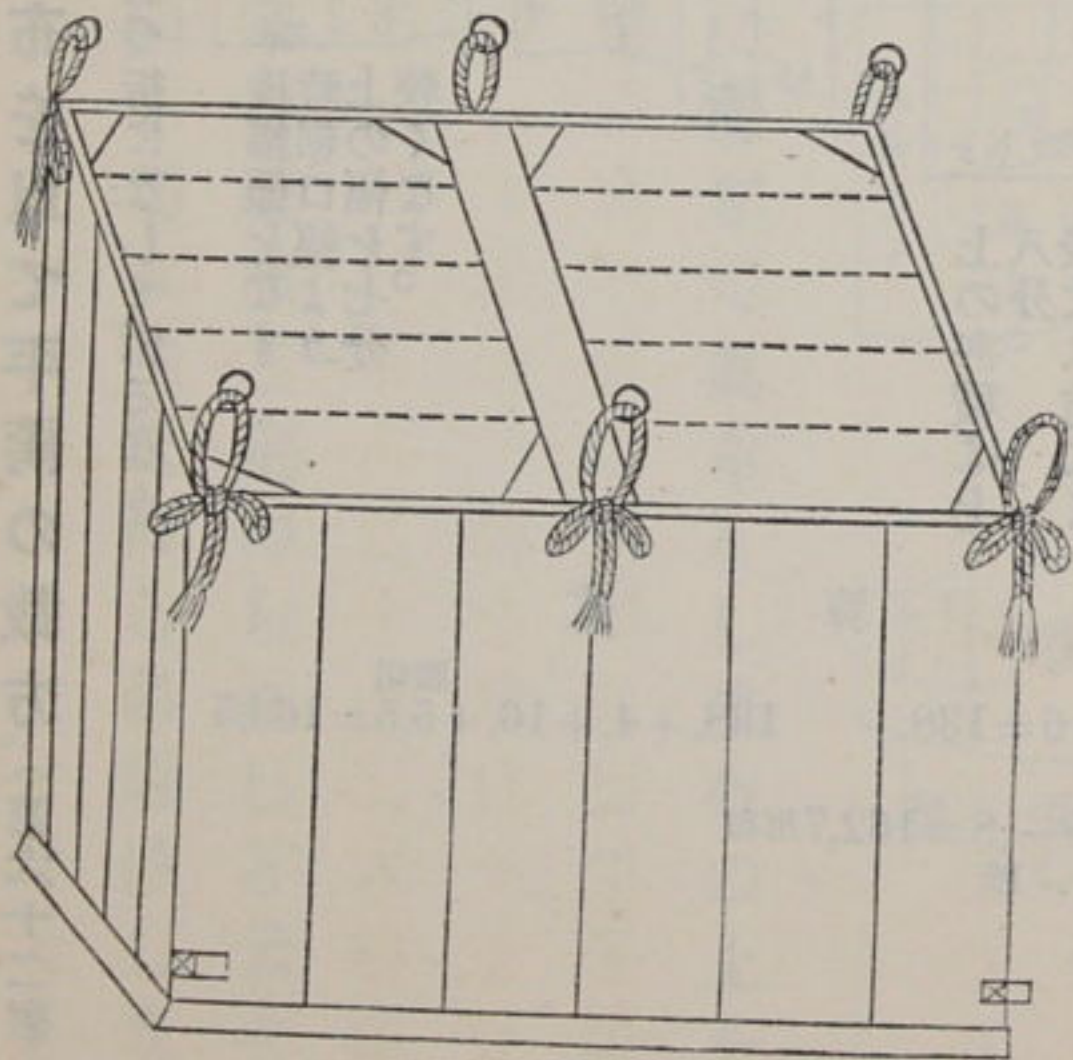
第十六圖
母衣蚊帳



蚊帳枕

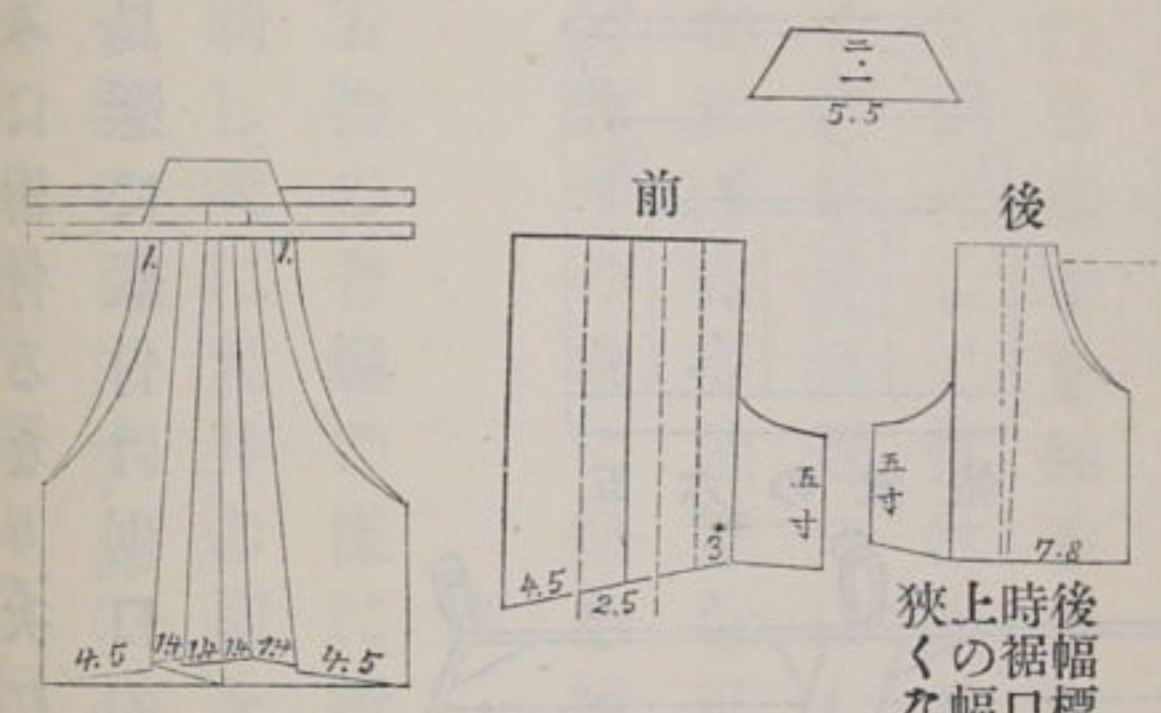
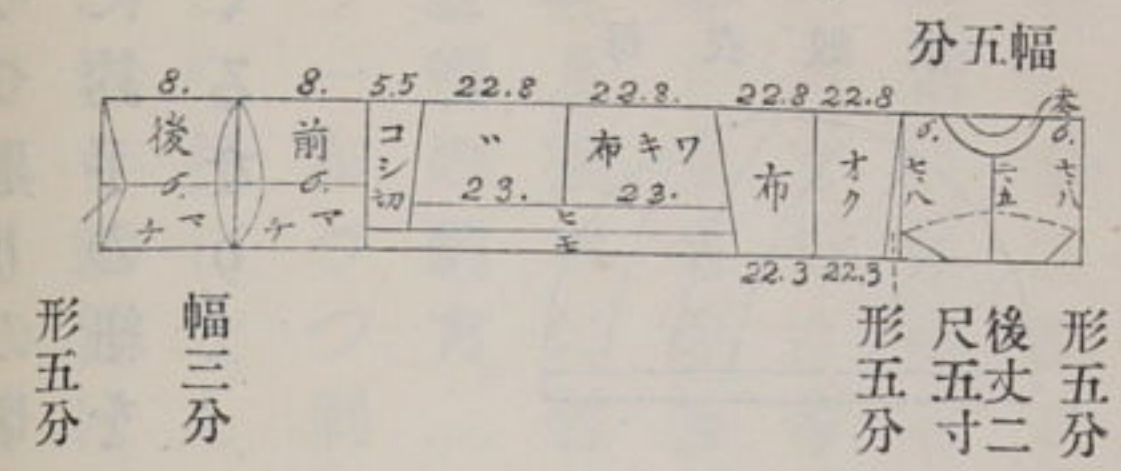


蚊帳の六五



○並幅長と一丈六尺二寸七分の布を以て平袴の裁方。(第六十二圖)

圖二十六第



幅二分に三つ折になして縞るなり

後幅標をなす
時裾口幅より
上の幅を七分
狭くならず。

上の寄稜は七
八分。前丈よ
後丈は前丈よ
り二寸長く仕
立るなり。

算式

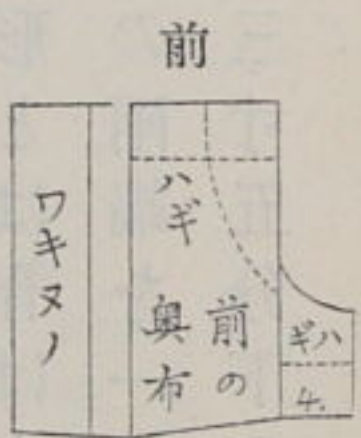
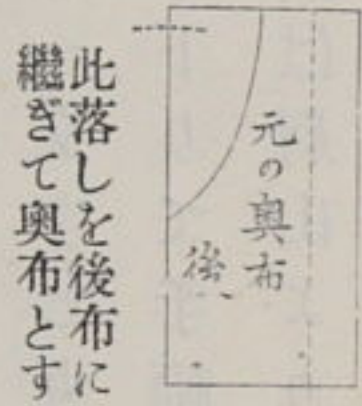
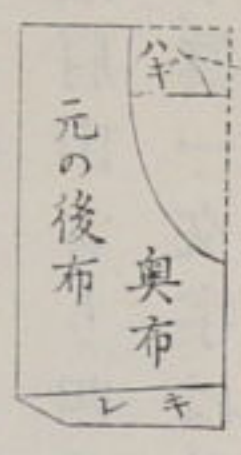
$$23 \times 6 = 138, \quad 138 + 4 + 16 + 5.5 = 163.5$$

腰切

$$163.5 - 8 = 162.7 \text{ 用布形}$$

○平袴を襠高袴に直す法。(第六十三圖)

圖三十六第



奥布を後布に直し、其落しを後布に継ぎて奥布とし、後布の上を切りて襠の丈に繼ぐなり。

但稜の取り方は通常の通り

○社袴

社袴は足利義満(三代)の頃より武家の禮服と定められしと云ふ。社は大紋の袖を取り、袴は長袴の裾を切りて社袴と名付けしなり。

地質は装束地にて五郎丸、横麻、龍紋、二子絹、鮫小紋、大小あられ等なり。

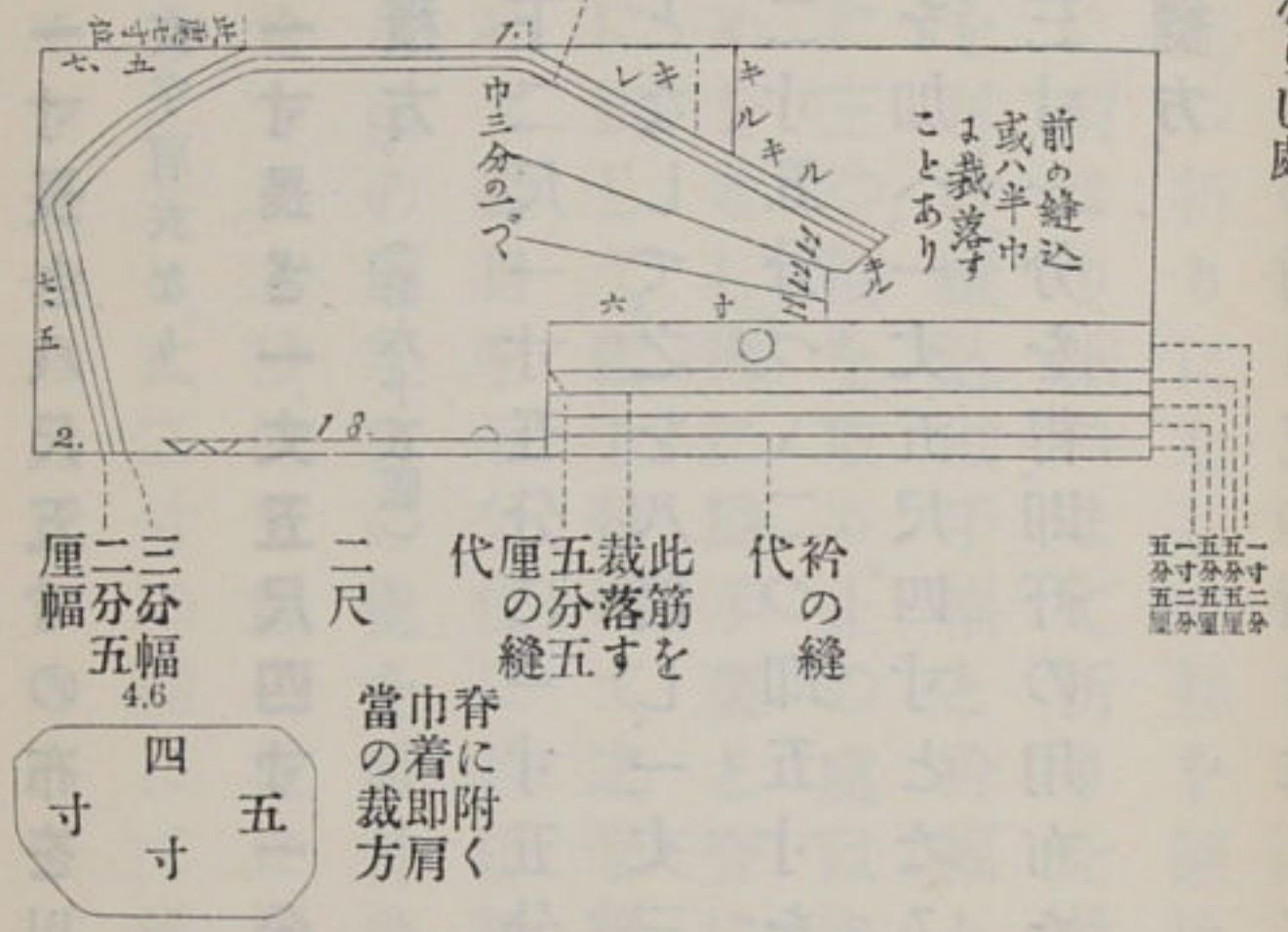
夏は繼社袴として、上下地質の異なりしものを用ひ、社は茶字仙平、嘉平次平、もぢ平、袴は紹、紗等を用ひたり。

○社を仕立つる種類。

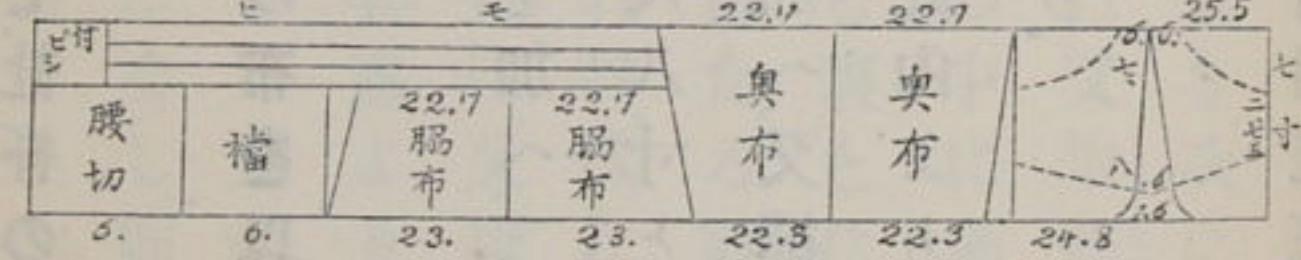
社に中一文字肩衣、丸形肩衣、(四つ稜肩衣とも云ふ)眞一文字肩衣、門徒肩衣等あり、但袴は皆同じものを用ふ。肩衣の紋下りは中一文字と丸形とは脊は上り一寸か八分下り、前は肩山より四寸下りて手幅の両端を一分づゝ残して附くるなり、眞一文字は前は肩山より三寸五分下り、脊は中一文字等と同じ。

丈の輪になりし處

第六十四圖
幅二分五 幅三分 幅二分



第六十五圖



紐幅一寸八分 (Buckle width 1.8 sun)
紐幅一寸八分 (Buckle width 1.8 sun)
前紐九寸 (Front buckle 9 sun)
後紐一寸八分 (Back buckle 1.8 sun)

算

式

紐下
 $21,5 + 1,5 = 23,$

$23, \times 6 = 138,$

前後の差腰 襠
 $138, + 5, + 6, + 5, = 154,$

$154, - 6 = 153,4$ 用布形

○幅一尺一寸長さ八尺五寸の布を以て、社袴の裁方。(第六十四圖)

但中一文字肩衣なり。

○幅一尺一寸長さ一丈五尺四寸一分の布を以て、社袴の袴の

裁方及積方。(第六十五圖)

積方。紐下二尺一寸五分に一寸五分を加へ、二尺一寸を得、之を脇布の丈となして、之を八倍し、一丈三尺八寸となる、之に後丈の長さ部分二寸五分づゝ二つ即五寸を加へ、又襠切の五寸と腰切の六寸とを加へ、一丈五尺四寸となる、此内より形の九分を減じ、一丈五尺三寸一分を得、即袴の用布なり。

○肩衣の縫方。

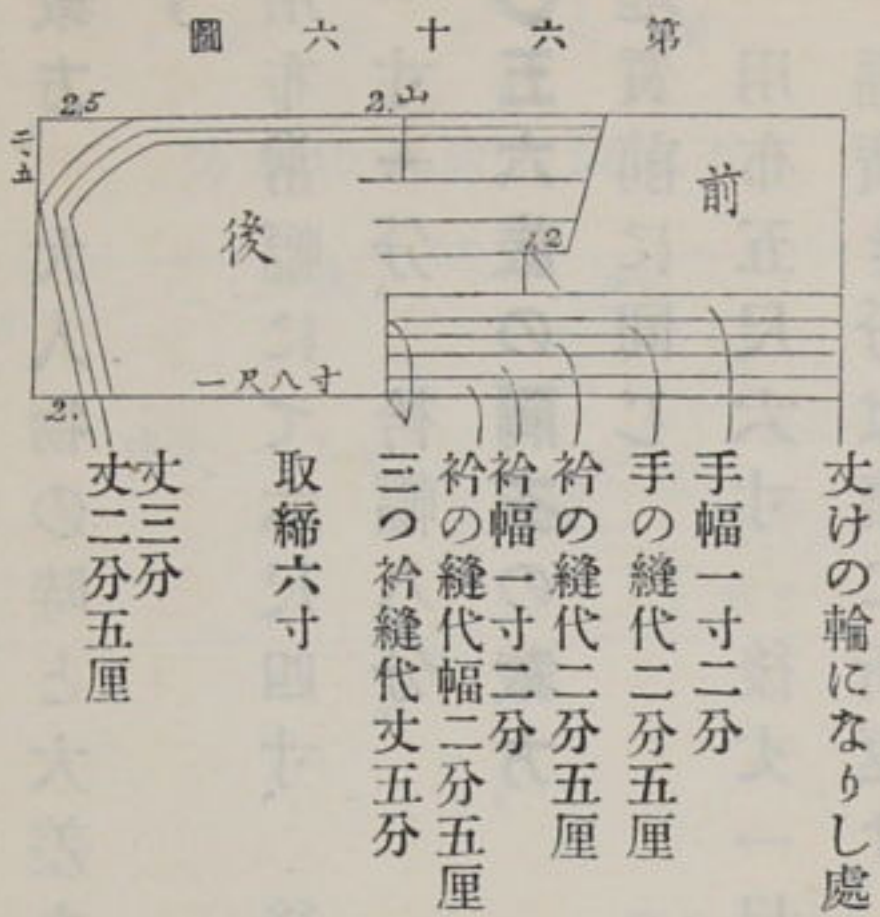
第一裾口を印の通り三つ折りにして針目二三分位に拵付け、次

に左右の脇も印通り三つ折りにして肩の山迄拵付け、それより前の方は三つ折りになして躡を懸け置き、次に前の紋より一分離れし處に、肩より裾口まで折りを付け、又取締とじりの處も印の通り三筋折りを付け、縫込は手幅と衿幅との中に疊み込み、取締の處を扇の様に三つ稜を取り、止の處は表と裏とに針目を小さく出して絲止めをなし、次に扇手裏と脊に當たる肩當とを拵へて布の裏を表に出して、張り付けて之を綴付け、次に手先を拵へ、其上に衿を載せて針目を五分位に衿に綴付け、又衿先を拵へて衿を拵付け、次に前の扇手裏の處を拵付け、其處より通し鯨を刺込み、若し鯨のなきときは、竹を鯨の様に削りて通すなり、但手幅は裾口にて六分になし、丈二寸の間にて斜になし、前は後より丈二寸五分長くなす、或は胸の處より肩まで通すもよし。

○杯の刺方。

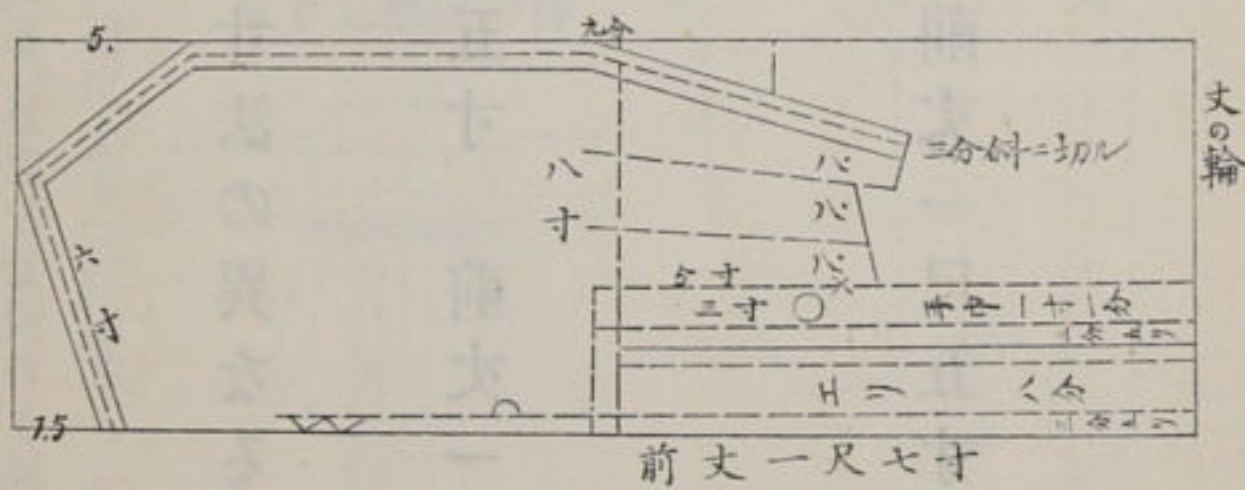
第一裾口より二寸五分上に襠を付けて、針目を二三分位に後脊筋を刺し、其縫込は自分の向ふに返し、次に脇布を奥布の上に乗せて待針を刺し、針目二三分位に之を刺し、其縫込は奥布の方に折を付け、次に後の相引の上の方を幅五分、裾口を二分刺代に前の方を直線になして之を刺し、其縫込は後の方に折を付け、次に裾口を三つ折りになして紵付け、次に相引の縫目より四寸五分の處に折を付け、又それより二寸五分離れて折を付け、中稜と二の稜とは等分に折を付け、後及左右の前の稜を取り、笹稜も通常の如くになし次に内膀を合せ、襠を縫付け、膀上を縫ひ、中稜を折り、一の稜は上より下まで綴ぢ、二の稜は上より中程まで綴付くるなり、紐の付方、袴腰の付方等は通常の袴と同様なり。

○幅一尺一寸長さ八尺五寸の布にて、丸形肩衣裁方。(第六十六圖)



第六十六圖

第十歳前後の肩衣裁方



三分五厘